
大阪市立自然史博物館

館報 45 令和元年度

目 次

巻頭言	1
調査研究事業	3
資料収集保管事業	23
展覧事業	32
普及教育事業	37
広報事業	47
刊行物・情報システム	50
連携（ネットワーク）	52
庶務	55

巻頭言

館長 川端 清司

ご存知のように自然史博物館（以下、当館）を含む大阪市立の博物館・美術館5館は、2019（平成31・令和元）年4月から地方独立行政法人大阪市博物館機構により運営されるようになった。この機会に、地方独立行政法人による博物館運営が実現した道のりと、その過程での課題などを私案としてまとめてみる。なお指定管理者制度の問題点や地方独立行政法人設立の経緯などは山西（2007）、山西（2018）、高井（2019）などを参照されたい。

当館は設立以来大阪市（教育委員会事務局）により直接的に管理運営（いわゆる直営）されてきた。平成18年度からは指定管理者制度による運営が13年間続き、その後に地方独立行政法人による運営に移行したことになる。また大阪市の行政組織内における博物館を管理する部局も変更が相次いだ。この15年間ほどの当館学芸員（特に筆者）の所属の変遷を見ると、その激動が垣間見えてくる（表1）。

平成17年4月に、教育委員会事務局生涯学習部に博物館担当の部長級職員が配置されるとともに、文化財保護課に2名の学芸員（専任1名、兼務1名：筆者）が配置された。平成13（2001）年に新設されたゆとりとみどり振興局（首長部局）に博物館・美術館を含む文化施設を一元管理させるという大阪市の方針により、教育委員会からゆとりとみどり振興局に博物館施設を移管するにあたり、博物館群の連携や新たな機能強化などを調整する役割であったと記憶している。また翌年度から開始される予定の指定管理者制度への調整も含まれていた。連携事業としては、教育委員会所管の5館（当館、大阪歴史博物館、美術館、東洋陶磁美術館、科学館）に近代美術館準備室（現、中之島美術館準備室）と経済局所管の大阪城天守閣、ゆとりとみどり振興局所管の天王寺動物園を加えた8つの館・園で8ON（エイトオン；8 Osaka-museums Network）と称して、「ミュージアムウィークス大阪」など各種連携事業をスタートさせた。

筆者の兼務は1年で免除となったが、これは当館が指定管理者制度に移行すると同時に大阪市職員としては休職扱いとなり、「休職派遣」で指定管理者に派遣されるために、大阪市（教育委員会）の職務との兼務が制度上不可能であるからだ。この指定管理者制度への移行の時期に、博物館施設の地方独立行政法人による運営について発案されている（高井、2019）。

平成18年4月の指定管理者制度への移行は、当館と大阪歴史博物館が（財）大阪市文化財協会による指定管理、科学館と東洋陶磁美術館はそれぞれを管理委託していた（財）大阪科学振興協会、（財）大阪市美術振興協会による指定管理となり、美術館については当面は直営が継続した。

当初は4年間の指定管理期間が設定されたが、公募ではなく指名による決定となったことで、市会での承認時に2年間で短縮されている（山西、2007、当館 館報32号）。翌19年には首長部局であるゆとりとみどり振興局に所管局が移管されている。ただし教育委員会所管でないと博物館法上の「登録博物館」から外れるために、本籍は教育委員会に残して「管理代行」という手法をとった。

平成22年4月には、大阪市による外郭団体削減・統合などの方針により、新設・統合・改組された一般財団法人大阪市博物館協会（後に公益財団法人）により、当館と大阪歴史博物館に加えて東洋陶磁美術館、美術館、大阪城天守閣の5館が指定管理となった。科学館については引き続き科学振興協会が指定管理者となった。

平成25年4月には大阪市の機構改革によりゆとりとみどり振興局が廃止されて経済戦略局が新設され、博物館運営の所管も移管された。この頃から地方独立行政法人の設立に向けて動きが加速する。

指定管理者制度に移行した当時は、法律上は地方独立行政法人の業務として博物館施設などの設置・運営が認められていなかったが、大阪市などの要望により平成23年10月に政令改正されたことで、地方独法の業務に含まれることになった。その後紆余曲折はあったが、大阪市の平成29年度予算に法人設立の準備予算が認められ、2年間の設立準備が開始され、平成31年4月に地方独立行政法人大阪市博物館機構が設立された。大阪市博物館機構は、当館（自然史博物館）、美術館、科学館、東洋陶磁美術館、大阪歴史博物館の運営と、中之島美術館（準備室）の設立準備業務をすすめている。なお大阪市博物館協会が運営していた「大阪市文化財研究所」は地方独法の枠組みから外れ、大阪市文化財協会として存続することとなった。

準備期間を含めたこの間の課題をまとめると以下のように考えている。

- 学芸員の人材流出：指定管理期間に採用された学芸員は任期付雇用となり、地方独立行政法人への移行も当初予定より大幅に遅れることになったため、将来に不安を抱く学芸員の他研究機関への流出につながった。地方

独立行政法人への移行に際して、学芸員は無期雇用への転換、雇用条件の改善が一定なされた。

- 総務課スタッフの強化の必要性：指定管理期間の総務課スタッフ配置は、管理職は大阪市OB職員の嘱託雇用、係員は人材派遣・財団契約職員・プロパー雇用職員などが混在し、スタッフのキャリア育成や士気向上には困難な状況に置かれた。地方独立行政法人への移行に際して一定の改善が図られたが、専門人材の登用や現行スタッフのキャリア育成・待遇改善などさらなる強化が必要である。
- 準備室が設置されなかった：設立準備を進める上で、現場学芸員・職員を含めた準備室が設置されなかった。所管の経済戦略局文化部において博物館経営形態担当を中心として準備作業が進められたが、マンパワーの関係から新法人の設立関係の規程策定や組織・制度の検討が中心とならざるを得ず、博物館運営や活動実務に必要な諸規定などが準備不足となり、弊害が生じたと考えている。現場の実務に携わる学芸はじめとしたスタッフが準備作業を進めるのは必須である。しかし現場学芸員は大阪市博物館協会への休職派遣となっているために、大阪市の準備業務は兼任することができない。準備室スタッフを選抜して、指定管理者への休職派遣を免除し市職員に復職させるなどの特別措置が必要であったと後悔している。なお表1にある「博物館運営企画室」は準備室の機能ではなく、大阪市職員のうち地方独立行政法人に移行する職員の範囲を定めただけの、何ら機能を有しない組織である。
- 科研費研究機関の問題：当館は昭和51年以来、文部科学省科学研究費補助金の申請が可能な研究機関に指定されていた。大阪市博物館協会はそれとは別の機関番号を持って、運営する博物館・美術館・大阪市文化財研究所をまとめて研究機関として指定されていた。当館としては地方独立行政法人設立後も国立博物館・美術館のような単館指定の継続を希望したが、地独法人設立後の研究機関指定について文部科学省担当部局と調整の結果、以下のような方針が示された。1) 大阪市文化財研究所は大阪市文化財協会として大阪市博物館協会の後継団体として存続するため、「大阪市博物館協会」の組織変更として変更届により対応する。2) 「大阪市博物館機構」は、平成30年度中に、「平成31年4月1日設立見込み」として新規登録申請を行う。3) 「大阪市立自然史博物館」は、大阪市博物館機構の一部としてその申請に含める。現在持っている機関番号は、別途廃止申請により廃止する。その方針に従って新規申請を行い、4月には大阪市博物館機構が研究機関として認定された。

以上、私見としてまとめたが、今後地方独立行政法人化をめざす博物館が現れる場合に、少しでも参考となれば幸いである。

参考文献

- 高井健司 2019、地方独立行政法人による博物館経営が実現するまで 一大阪市博物館機構の誕生一、MUSE124巻、24-25。
山西良平 2007、指定管理者制度の導入にあたって、大阪市立自然史博物館館報32号、2。
山西良平 2009、指定管理者制度の弊害と公立博物館の地方独立行政法人化、大阪市立自然史博物館館報33号、1-2。
山西良平 2018、公立博物館の地方独立行政法人化の展望 一大阪市の事例を中心に、日本の博物館のこれから ―「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営―、71-75。

表1：筆者の所属の変遷

平成16（2004）年度まで	：教育委員会事務局 自然史博物館
平成17（2005）年4月	：教育委員会事務局 自然史博物館兼生涯学習部文化財保護課
平成18（2006）年4月	：教育委員会生涯学習部文化財保護課（文化財協会派遣） 指定管理の始まり
平成19（2007）年4月	：ゆとりとみどり振興局総務部（文化財協会派遣）
平成22（2010）年4月	：ゆとりとみどり振興局総務部（大阪市博物館協会派遣）
平成25（2013）年4月	：経済戦略局文化部（大阪市博物館協会派遣）
平成30（2018）年10月	：経済戦略局 博物館運営企画室
平成31年3月31日付	：大阪市を退職、翌4月1日に地方独立行政法人 大阪市博物館機構に移行
平成31（2019）年4月	：地方独立行政法人 大阪市博物館機構 地方独立行政法人による運営の始まり

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 川端 清司 (Kiyoshi KAWABATA) 兼学芸課長

動物 和田 岳 (Takeshi WADA) 主任学芸員
研究室 石田 惣 (So ISHIDA) 主任学芸員
松井 彰子 (Shoko MATSUI) 学芸員

昆虫 初宿 成彦 (Shigehiko SHIYAKE) 主任学芸員
研究室 松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO) 主任学芸員
長田 庸平 (Yohei OSADA) 学芸員

植物 佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA) 学芸課長代理
研究室 長谷川匡弘 (Masahiro HASEGAWA) 学芸員
横川 昌史 (Masashi YOKOGAWA) 学芸員

地史 田中 嘉寛 (Yoshihiro TANAKA) 学芸員
研究室

第四紀 石井 陽子 (Yoko ISHII) 主任学芸員
研究室 中条 武司 (Takeshi NAKAJO) 主任学芸員

令和1年3月31日現在

この他、釋知恵子（教育スタッフ：総務課所属）および、外来研究員（16ページ）が当館の研究を担っている。

II. 研究テーマ

■川端 清司（館長）

- 遺跡から出土する石製品の石材に関する文化地質学的研究
- 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- 津波被災した地質標本の修復に関する予察的・実験的研究
- 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

■和田 岳（動物研究室）

- ヒヨドリの採食生態に関する研究
- 大阪の鳥類及び哺乳類・両生爬虫類の分布調査
- 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- 大阪府を中心とする外来鳥類・外来哺乳類の生息状況調査

■石田 惣（動物研究室）

- 大阪近郊における外来無脊椎動物の分布と生態
- 大阪湾及び周辺海域の無脊椎動物相
- 博物館標本から推定する生物相の変遷
- 軟体動物の生態学・行動学的研究
- 自然史映像のアーカイビングとその活用

■松井 彰子（動物研究室）

- 沿岸性魚類の系統地理学的研究
- ハゼ科魚類の生態学的研究
- 大阪府および大阪湾の魚類相
- 大阪府周辺における外来魚の分布変遷と生態

■初宿 成彦（昆虫研究室）

- 近畿地方の昆虫の分布（甲虫、セミ、外来種など）
- 新生代の昆虫化石（遺跡の昆虫遺体を含む）

■松本 吏樹郎（昆虫研究室）

- ヒメバチ科の分類・系統・行動学的研究
- 近畿地方のハチ目昆虫相の解明
- アミメカゲロウ目の分類、生活史
- 近畿地方を中心とした外来昆虫の侵入と分布拡大

■長田 庸平（昆虫研究室）

- シイタケ害虫チョウ目昆虫の総合的同定手法の開発
- 農業害虫を含むハマキガ科（チョウ目）の分類学的研究
- アサギマダラとその近縁種（チョウ目タテハチョウ科）の地理的変異
- 東京都心部の都市部の昆虫相調査

■佐久間 大輔（植物研究室）

- 本郷次雄菌類関連資料及びアマチュアによる菌類資料のアーカイブ化及び分子生物学的利用
- 里山利用の民俗生態学的研究
- 丘陵地植物群集の景観生態学的研究
- 博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学的研究
- 自然史標本の文化財制度及び保存科学

■長谷川 匡弘（植物研究室）

- 顕花植物の送粉者を介した生態的種分化
- 開花フェノロジーと訪花昆虫ネットワークに関する研究
- 絶滅危惧植物の保全生物学的研究

■横川 昌史（植物研究室）

- 日本産ハナシノブ属の集団構造と集団動態
- 半自然草原の管理と植物群集の関係
- 絶滅危惧種の保全遺伝生態学
- 海岸植物の分布と生態

■田中 嘉寛（地史研究室）

- 哺乳類が二次的に水生適応する進化の研究

- (2) 太古の鯨類（クジラ、イルカ）の形態的研究
- (3) 太古の鰐脚類（セイウチ、アシカなど）の形態的研究

■石井 陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の地質層序と地質構造の研究
- (2) 大阪平野のボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序の研究
- (3) ボーリング標本を用いた小・中学校理科地学分野の教材開発に関する研究

■中条 武司（第四紀研究室）

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 遺跡データに基づく大阪平野形成に関する研究
- (3) 砂浜における砂組成と地形変遷に関する研究

Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館研究者が研究代表者となったもの

■若手研究 (B)

研究課題：送粉者シフトを介する生態的種分化はどのような環境で進行するか？

研究代表者：長谷川 匡弘

（課題番号：17K15186、3年間継続の3年目）

- 高知県および長野県等においてシコクママコナの特異な集団及びその周辺の集団の花形態等の調査を実施した。調査・解析の遅れのため、期間を延長し、2020年度も調査予定である。

■若手

研究課題：沿岸性魚類の遺伝的集団構造とその短期的変動に生息環境が及ぼす影響

研究代表者：松井 彰子

（課題番号：19K15862、4年間継続の1年目）

- 沿岸性魚類の遺伝的集団構造を効率的に把握する方法の開発をめざし、瀬戸内海のはぜ科魚類多種の種内集団構造とその短期的変動を把握し、遺伝的集団構造と生息環境との関係を調べる研究。
- 瀬戸内海およびその周辺海域で、生息環境の異なるはぜ科魚類複数種を採集した。
- 核DNAの解析手法の一つであるMIG-seq法の習得のためのワークショップに参加した。
- 2019年度以前に西日本周辺海域で広く採集したはぜ科魚類多種の一部についてMIG-seq法を用いた解析を行い、遺伝的集団構造を明らかにした。

■基盤研究 (B)

研究課題：博物館をコアとした外来生物の市民調査、その生物多様性理解の促進効果の評価

研究代表者：和田 岳

（課題番号：17H02027、3年間継続の3年目）

- 市民参加型調査である外来生物調査プロジェクト Project Aを実施した。調査は、植物班、昆虫班、貝類班、魚類班、鳥類班などに分かれ、それぞれで研修を行い、市民とともに調査を進めた。
- 市民向けの外来生物に関する講演会を開催した。その場で、参加者に対して、外来生物問題についての認識を問うアンケートを行った。
- 市民参加型調査の研修も兼ねつつ、外来生物をテーマとした観察会を実施した。
- 外来生物の特別展の準備をした。
- 主に近畿地方で分布拡大中の外来昆虫に注目して市民と共同で分布調査を行った。調査の取りまとめとして特別展の展示を作成した。

■基盤研究 (C)

研究課題：占領統治期の沖縄で採集された生物標本—その探索と活用に向けた研究

研究代表者：石田 惣

（課題番号：19K01152、4年間継続の1年目）

- アメリカ国内の複数の自然史系博物館の収蔵データベースから、占領統治期の沖縄県内で採集された生物標本の探索を行った。
- フィラデルフィア自然科学アカデミー、及びスミソニアン自然史博物館を訪問し、1945年に沖縄島及び周辺島で採集された貝類、甲殻類、棘皮類、両生爬虫類の標本調査を行い、リストを作成した。また、採集時のフィールドデータがあるものについては、その解析に着手した。

■基盤研究 (C)

研究課題：クモヒメバチによるクモ利用の獲得とその進化

研究代表者：松本 吏樹郎

（課題番号：19K06082、3年継続の1年目）

- DNA解析用のサンプル収集と予備的解析、行動・生活史の調査を行った。
- 調査で得られた生活史に関する新たな知見について、日本昆虫学会大会で口頭発表した。

■基盤研究 (C)

研究課題：博物館における海浜砂資料収集の意義とその環境教育への活用

研究代表者：中条 武司

（課題番号18K01114、4年継続の2年目）

- 山口県、長崎県、山形県、秋田県などで砂浜の地形調査および海浜砂の収集を行った。
- 室内において市民向け行事を実施した。野外でも市民向け行事を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

■基盤研究 (C)

研究課題：博物館に保管されたボーリング標本で展開する大都市地域における地学・防災総合教育

研究代表者：石井 陽子

(課題番号 16K01055、4年継続の4年目)

○博物館所蔵のボーリング標本調査を行い、大阪平野地下に分布する第四系の層序と地質構造を検討した。その成果にもとづき、ボーリング標本を用いた博物館普及行事の実施、学校向け貸し出し教材の開発・運用を行った。

○ボーリング資料の学校教育支援での活用について、ICOM(国際博物館会議)京都大会のNATHISTでポスター発表を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題：新学習指導要領が目指す学びの実現を学校との協働で実践する博物館教育の研究

研究代表者：釋 知恵子

(課題番号：19K01151、3年継続の1年目)

○博物館と学校の関係者が継続的に協働できる場(博学連携ワークショップ)を実施するための呼びかけの機会として、教員向けの研修である「教員のための博物館の日」を実施した。

○博学連携ワークショップの企画をし、中心になるメンバーは集めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施が中止となった。

■基盤研究 (C)

研究課題：博物館評価の構造的枠組の創出と博物館界による独自の認証制度の開発

研究代表者：山西 良平(当館外来研究員)

当館分担者：佐久間 大輔

(課題番号：18K01115、3年継続の2年目)

○認証制度の実現に向けて、博物館法の関連する課題などについて研究会を行った(2019年4月、7月、10月)。

○博物館総合調査などの客観的なデータに加え、現場学芸員が感じている状況を調査するため、アンケート調査の準備を進めたが、新型ウイルスなどによる混乱期を避けるため延期した。

○検討した課題について、報告書草案を執筆し、来年度の発行に向け準備を進めた。

○博物館の教育活動についての評価を行うため、研究会を開催し、全日本博物館学会で発表した。

■基盤研究 (C)

研究課題：気候変動による植物の絶滅—メタセコイアの化石と現生種の形態・生態・生理から探る—

研究代表者：塚腰 実(当館外来研究員)

(課題番号：18K064033、3年間継続の2年目)

○岐阜県郡上市、大阪市立大学理学部附属植物園、神

戸市立森林植物園でメタセコイアの実生の生育状況の調査、種子の栽培実験を行なった。古琵琶湖層群においてメタセコイア化石を採集し、表皮細胞の取り出しを試みた。

■基盤研究 (B)

研究課題：新しい草原再生の指針の構築：生態系成立基盤である土壌化学性に立脚して

研究代表者：横川 昌史

(課題番号18H03415、4年間継続の2年目)

○岡山県の蒜山地域において、草原再生実験区を設定した。

○草原再生実験に使用する種子の収集・選定を行った。

○土壌改変の有無による植物群集や土壌化学性の変化について解析した。

○各地の草原再生地の視察と関連する標本の調査を行った。

■挑戦的研究(萌芽) 自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索

研究代表者：佐久間 大輔

(課題番号：19K21658、3年継続の1年目)

○小規模館に収蔵された自然史標本の保存と管理の現状を明らかにするため、2019年11月及び2020年2月に現地調査・ヒアリングを行った。

○収蔵庫の温湿度条件及びカビ(落下孢子数)などを調査する必要があると考えられた。

○文化遺産防災ネットワークと協力して、被災した自然史系文化財保全のための手引及び動画コンテンツの作成した。来年度発行予定のリーフレットの開発に向けた検討を行った。

○市民参画のあり方についてはICOM NATHISTで発表、議論を行った。

○地域での保全と中核博物館のネットワークのあるべき関係に関し、「博物館施策のこれから」(11月東大)、「北海道自然史研究会」(北海道教育大)などで発表。

2. 当館研究者が研究分担者となったもの

■基盤研究 (B)

研究課題：ミュージアムと高齢者の互恵的関係に関する研究

研究代表者：瀧端 真理子(追手門学院大学)

当館分担者：和田 岳

(課題番号：17H02026、4年間継続の3年目)

○関連の成果を2019年9月に開催されたICOMなどで発表した。

■基盤研究 (B)

研究課題：自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築

研究代表者：三橋 弘宗（兵庫県立大学）

当館分担者：石田 惣

（課題番号：19H01366、5年間継続の1年目）

○ICOM京都大会に出席し、自然史系博物館及び科学系博物館での展示手法について情報収集を行った。

○京町家「花洛庵」を会場とした自然史資料の企画展において、主に「貝千種」と関連する貝類標本の展示企画を行った。

○アメリカ合衆国の博物館（フィラデルフィア自然科学アカデミー、ワグナー・フリー協会博物館、スミソニアン自然史博物館、スミソニアンアフリカン・アメリカン歴史民族博物館、スミソニアン航空宇宙博物館）の展示室を訪問し、展示手法、資料復元、展示室内での保存環境の維持についての情報収集を行った。また、スミソニアンミュージアムサポートセンターを訪問し、液浸標本の保存環境やラベルについて情報収集を行った。

■基盤研究（B）

**研究課題：木村蒨葎堂“知”のネットワークの解析—
絵画・本草学資料から探る歴史文化の再構成—**

研究代表者：橋爪 節也（大阪大学）

当館分担者：石田 惣、塚腰 実（当館外来研究員）

（課題番号 17H02293、3年間継続の3年目）

○木村蒨葎堂標本に含まれる化石資料を同定するために、化石資料の情報収集と整理を行った。

○木村蒨葎堂貝石標本に関係する貝類の資料調査を行った。

■基盤研究（A）

研究課題：次世代技術と自然史財を高度に活用した広義寄生蜂の多様性情報基盤の構築

研究代表者：前藤 薫（神戸大学）

当館分担者：松本 吏樹郎

（課題番号：19H00942、3年継続の1年目）

○ヒメバチ科に関して日本各地でサンプリングを実施し、分類学的研究を行った。一部のサンプルに関してDNAバーコーディング配列の決定を行った。

○8月26日～9月9日の15日間、ベトナム社会主義共和国において現地調査を行った。ハチ目ヒメバチ科昆虫の資料を収集し、現地研究者との交流・議論を行った。

■挑戦的研究（開拓）

研究課題：ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究—社会的価値と事業改善に着目して—

研究代表者：佐々木 亨（北海道大学）

当館分担者：佐久間 大輔

（課題番号：18H05305、5年継続の2年目）

○博物館活動の評価手法としてのロジックモデルに着目し、2018年に行った「きのこ！キノコ！木の子！」

展に関する評価について全日本博物館学会で発表を行った。

○教育活動としての子どもワークショップの評価手法について、論点整理を行い、全日本博物館学会で発表を行った。

○文化政策学会（さいたま市）において、大阪市立自然史博物館の活動を事例としたロジックモデル作成の公開ワークショップを行った。

■挑戦的萌芽研究

研究課題：極限酸性河川における化学合成生物群集の生態と進化

研究代表者：岩田 智也（山梨大学）

当館分担者：谷田 一三（当館外来研究員）

（課題番号：19K22449、2年継続の1年目課題番号）

○玉川水系のトビケラ類などの水生昆虫の生態研究とデータの解析を行った。

Ⅳ. 財団等の助成を受けて行った研究

■発酵研究所平成30年度（2018年度）一般研究助成

研究課題：市民科学者とアカデミアの協働体制の構築と博物館が所蔵する学術的レガシーの活用による未記載・未解明大型担子菌類探求の推進（2年継続の2年目）

研究代表者：佐久間 大輔

○本郷図譜や青木資料を含め標本に付随する描画資料の価値について日本菌学会発表した。

○青木実資料の子囊菌資料についての整理とデジタル化をすすめた。

○豊嶋弘菌類図譜資料について、菌学会での発表準備を進めた。

○市民の菌類研究をすすめるため、「きのこの教科書 観察と種同定の入門」を執筆、発行した。

■ニュージーランド王立協会マースデン研究推進費

研究課題：ニュージーランドの化石から明らかにする鯨類進化の「暗黒時代」

研究代表者：R. ユワン フォーダイス、

当館分担者：田中 嘉寛

○ニュージーランドのイルカ化石の撮影、調査研究を行った。

○研究計画を振り返り、今後の方針について連携研究者との議論を行った。

V. 海外派遣

■科研費（基盤A）による出張

氏 名：松本 吏樹郎

日 程：2019年8月26日～9月9日

出張先：ベトナム社会主義共和国

目的：ヒメバチ科昆虫の調査

■ニュージーランド王立協会マースデン研究推進費による出張

氏名：田中 嘉寛

日程：2020年2月14日～23日

出張先：ニュージーランド国オタゴ県ダニーデン市

目的：オタゴ大学での鯨類化石調査

Ⅵ. 委託調査

業務名：令和元年度大阪市立自然史博物館土壌動物調査業務委託

期間：2019年9月9日～2020年3月31日

内容：高槻市神峯山寺周辺の山林における土壌試料の採取、および含まれる土壌動物の標本作製と同定を、株式会社地域環境計画大阪支社に委託し、実施した。

Ⅶ. 著作活動

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study 誌は、ns.と略記した。当館職員には二重線を、当館外来研究員には一重線を付した。また、館内の複数の職員が関わった著作は筆頭著者または先にくる著者の研究室の項にのみ記した。館出版物記事は刊行物（50ページ）の項参照。館蔵資料を用いた研究は、末尾に※印を付した。

【館長】

<査読なし論文及び雑誌原稿など>

川端清司（2019）館長就任のご挨拶. ns. 65（5）：8.

川端清司（2019）地質年代と境界. ns. 65（12）：6.

川端清司（2019）博物館へ行こうよ！. すいたッ子. 38：2-3.

【動物研究室】

<査読あり論文>

石田 惣・中田兼介・西 浩孝・藪田慎司（2019）生物学動画アーカイブの運用で想定される課題：研究者アンケートからの考察. デジタルアーカイブ学会誌 3：334-344.

岩崎敬二・横山 樹・石森慶吾郎・石森辰義・石田 惣・栗原康弘（2020）東北地方太平洋岸で発見されたキタノムラサキイガイまたはムラサキイガイとの交雑個体. ちりばたん50：112-124.*

松井彰子・中島 淳（2020）大阪府におけるドジョウの在来および外来系統の分布と形態的特徴にもとづ

く系統判別法の検討. 大阪市立自然史博物館研究報告（74）：1-15.*

<査読なし論文及び雑誌原稿など>

和田 岳（2019）身近な鳥から鳥類学 第47回大阪のサギ類の興亡. むくどり通信（258）：12.

和田 岳（2019）みんなで調べる意義と課題 大阪市立自然史博物館における市民調査の歴史と、普及教育的側面. 地域自然史と保全 41（1）：17-21.

和田 岳（2019）大阪府のサギの繁殖地：10年ぶりの調査. ns. 65：88.

和田 岳（2019）身近な鳥から鳥類学 第48回チュウサギの季節. むくどり通信（259）：12.

和田 岳（2019）身近な鳥から鳥類学 第49回越冬ツバメは今？. むくどり通信（260）：11.

和田 岳（2020）身近な鳥から鳥類学 第50回夏は海、冬は川？季節で変わるカワウの採食場所. むくどり通信（261）：16.

和田 岳（2020）身近な鳥から鳥類学 第51回チョウゲンボウ全国制覇への道. むくどり通信（262）：16.

和田 岳（2020）大阪府外来生物リスト 鳥類についての補足. ns. 63：30-31.

石田 惣（2019）スクミリンゴガイの分布調査. 理科教育ニュース（1070）：2-3.

石田 惣（2019）市民科学にTwitterを用いる利点と課題 — #カキ調査を例として. 全科協ニュース 49（6）：4-6

石田 惣（2020）読めないラベル. ns. 66（1）：5.

松井彰子・花崎勝司（2019）大阪湾におけるマサゴハゼの初記録. 南紀生物 61（1）：45-47.

松井彰子（2020）釣りのエサを捨てないで. ns. 66（3）：4.

<著書>

和田 岳（分担執筆）（2020）大阪市立自然史博物館第50回特別展「知るからはじめる外来生物」解説書「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」. 大阪市立自然史博物館, 大阪. 150pp.

石田 惣（分担執筆）（2020）大阪市立自然史博物館第50回特別展「知るからはじめる外来生物」解説書「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」. 大阪市立自然史博物館, 大阪. 150pp.

松井彰子（分担執筆）（2020）大阪市立自然史博物館第50回特別展「知るからはじめる外来生物」解説書「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」. 大阪市立自然史博物館, 大阪. 150pp.

<学会発表>

- 和田 岳 (2019) 市民調査による大阪府の外来鳥ハッカチョウの分布の把握と、繁殖地での出現パターン. 日本鳥学会2019年大会：P128.
- 和田 岳 (2020) 市民調査をベースにした外来鳥ハッカチョウの西日本における分布拡大状況の把握. 日本生態学会第67回全国大会：P2-PC-426.
- 石田 惣・外来生物調査プロジェクト貝類班 (2019) 市民科学で把握する日本国内のスクミリンゴガイの分布状況. 2019年日本ベントス学会・日本プランクトン学会・合同大会：BP30.
- 石田 惣 (2020) 外来生物の分布を調べる市民科学的手法とその効果 ―オオクビキレガイを例に. 第67回日本生態学会大会：C02-14
- 松井彰子・中島 淳 (2019) 大阪府におけるドジョウの遺伝的系統の分布 ―市民参加で進める外来生物調査―. 2019年度日本魚類学会年会：170.*
- 木下直樹・松井彰子・Woo-Seok Gwak・中山耕至 (2019) 海産魚における遺伝的集団構造の強さと沿岸依存性の関係. 2019年度日本魚類学会年会：177.
- 福家悠介・Prachya Musikasinthorn・鹿野雄一・松井彰子・田畑諒一・岩田明久・渡辺勝敏 (2019) ミャンマーの古代湖・インレー湖における固有淡水魚類の起源. 日本陸水学会第84回大会：P-05.
- 中江雅典・松井彰子・渋川浩一・千葉 悟・ソン ハヨン・クォン ヒョンジュ・リ グァンミン・リ ヨンデク・カク ウソク (2019) 黒潮動態に注目したアシシロハゼの系統地理(予報) および韓国西岸での採集調査. 第69回魚類自然史研究会講：17.
- 松井彰子・花崎勝司・柏尾 翔・山田浩二 (2020) 大阪府における外来魚の記録. 第15回外来魚情報交換会：12.*
- 松井彰子 (2020) 市民参加型調査による大阪府における外来魚の記録. 日本生態学会第67回全国大会：P2-PC-418.*

【昆虫研究室】

<査読あり論文および資料>

- 初宿成彦・安井通宏・市川顕彦・桂 孝次郎・河合正人・中谷憲一・山崎一夫・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ甲虫班 (2020) 大阪市の甲虫相とその変遷. 自然史研究 4(3)：41-104.*
- 初宿成彦 (2020) 大阪府におけるヒグラシの分布 ―市民調査「神社のヒグラシ」プロジェクトの結果報告―. 大阪市立自然史博物館研究報告 (74)：45-63.*
- Watanabe K., Matsumoto R. (2020) Review of the Genus *Pimpla* Fabricius, 1804 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Pimplinae) from Japan. Japanese

- Journal of Systematic Entomology 25(2)：217-224.*
- 長田庸平 (2019) 日本産シイタケオオヒロズコガ属 (チョウ目ヒロズコガ科) の概説. 森林防疫 68(3)：11-20.
- 長田庸平 (2019) シイタケオオヒロズコガ類とマダラオオヒロズコガ (チョウ目ヒロズコガ科) の成虫の外部形質に基づく識別法. 森林防疫 68(4)：8-12.
- 長田庸平 (2019) ヤニサシガメとヨコヅナサシガメ (カメムシ目サシガメ科) の対馬からの初記録. 昆虫 (ニューシリーズ) 22(3)：94-95.
- 長田庸平 (2020) 国内におけるシイタケ害虫コクガと近縁種ウスヒロコクガ (チョウ目ヒロズコガ科) の概説. 森林防疫 69(2)：3-12.

<査読なし論文及び雑誌原稿など>

- 初宿成彦 (2019) 頼れるやさしい姉さん ～日比伸子さんの思い出. 追悼集 日比伸子さんを偲ぶ：57.
- 初宿成彦 (2019) 市民による甲虫類の分布調査 ―紙からインターネットへ―. 昆虫と自然 54(6)：8-11.
- 初宿成彦 (2019) 和歌山県すさみ町におけるヒメハルゼミの消滅産地. Cicada 25 (2)：57. 日本セミの会.
- 初宿成彦 (2019) クマゼミ孵化観察マニュアル. ns. 65(6)：9-10.
- 初宿成彦 (2019) 外来カメムシ クスベニヒラタカスミカメの滋賀県内における分布調査2018. Came虫 (197)：7. AWF滋賀むしの会.
- 初宿成彦 (2019) 能勢町垂水に原始林はあったのか? ～遺跡と地名から探る～. ns. 65(7)：5-6.
- 初宿成彦 (2019) 外来種クスベニヒラタカスミカメを東京 ～大分で確認. かめむしニュース (58)：7.
- 初宿成彦 (2019) 十津川村玉置山にアカエゾゼミがいるかも. ならがしわ (196)：2. ならむしの会
- 初宿成彦 (2019) <小難しい学芸員のやさしい小咄> 宝塚昆虫館の標本採集者 ～昆虫展のラベルも見て楽しもう～. ns. 65(9)：5.*
- 初宿成彦 (2019) イチイガシ樹上のミカドテントウ分布調査2019. ns. 65(9)：7.
- 初宿成彦 (2019) 滋賀・福井県境おにゅう峠にエゾハルゼミが分布. Came虫 (198)：9. AWF滋賀むしの会.
- 初宿成彦 (2019) 滋賀県高島市朽木の山間部でエゾゼミの声を聞く (その2). Came虫 (198)：9. AWF滋賀むしの会.
- 初宿成彦・川上弘子・西元大作・本多俊之・三宅規子 (2019) 犬鳴山七宝滝寺におけるヒメハルゼミの分布範囲. ns. 65(12)：9-10.
- 初宿成彦 (2020) 第四紀の自然環境と人と昆虫. 特集・昆虫の化石. 昆虫と自然 55(1)：4-7.
- 初宿成彦 (2020) 外来種ムネアカオオクロテントウが

- 滋賀県へ. Came虫 (199) : 11.
- 山口真治・初宿成彦 (2020) 兵庫県猪名川町鎌倉で北摂3カ所目のヒメハルゼミ新産地. ns. 66(2) : 10.
- 松本吏樹郎 (2019) ちょっと変で面白い、昆虫の形と暮らし ns. 65(6) : 12-13.
- 松本吏樹郎 (2019) シロミスジ ns. 65(8) : 1,16.
- 松本吏樹郎 (2019) 特別展「昆虫」のオープンまで ns. 65(8) : 5.
- 松本吏樹郎 (2019) カマキリとそれを取りまく虫 ns. 65 (9) : 2-4, 12.
- 松本吏樹郎 (2019) ガケジグモを利用する *Zabrachypus* 属 (ヒメバチ科, ヒラタヒメバチ亜科, クモヒメバチ属群) の日本からの発見とその生活史. 日本昆虫学会第79回大会要旨 : 64.*
- 松本吏樹郎 (2020) 宮崎県浜ノ瀬川上流域の膜翅目について in 浜ノ瀬ダム湛水域周辺の生物相とその保全 浜ノ瀬ダム技術誌 環境編 九州農政局 西諸農業水利事業所. 844-856.*
- 長田庸平 (2019) 近畿地方におけるミカドアゲハ日本本土亜種の分布拡大. ns. 65(4) : 4, 16.
- 長田庸平 (2019) ウェブサイトを用いた昆虫の調査. 昆虫と自然 54 (6) : 2-3.
- 長田庸平・金澤 至 (2019) メーリングリストを利用したアサギマダラの移動調査. 昆虫と自然 54(6) : 4-7.
- 長田庸平・吉武 啓 (2019) 2018年に沖縄島、伊江島および久米島で採集された蛾類. 蛾類通信 (289) : 350-355.
- 長田庸平 (2019) 大宰府市四王寺山で観察されたバッタ・カマキリ類. Korasana (91) : 2.
- 長田庸平 (2019) 大宰府市四王寺山でハルゼミの鳴き声を確認. Korasana (91) : 2.
- 長田庸平 (2019) 大宰府市四王寺山におけるチョウ類の記録. Korasana (91) : 3.
- 長田庸平 (2019) 福岡市箱崎のチョウ類の記録 (2013~2016年). Korasana (91) : 4-5.
- 長田庸平 (2019) 福岡市西区愛宕山におけるチョウ類の観察記録. Korasana (91) : 5.
- 長田庸平 (2019) 福岡市東区志賀島におけるチョウ類の記録. Korasana (91) : 6.
- 長田庸平 (2019) 北九州市平尾台でゴイシシジミを確認. Korasana (91) : 6.
- 長田庸平 (2019) 夏型ミカドアゲハの交尾を観察. Korasana (91) : 7.
- 長田庸平 (2019) ツワブキで吸蜜するクロツバメシジミ. Korasana (91) : 7.
- 長田庸平 (2019) イチモンジチョウを捕食するジョロウグモ幼体. Korasana (91) : 8.
- 長田庸平 (2019) 柳川市におけるチョウ類の撮影記録. Korasana (91) : 8.
- 長田庸平 (2019) 大川市におけるチョウ類の観察記録. Korasana (91) : 9.
- 長田庸平 (2019) 2013年に熊本市でカバマダラを複数確認. Korasana (91) : 9.
- 長田庸平 (2019) 佐賀県鳥栖市でゴイシシジミを確認. Korasana (91) : 10.
- 長田庸平 (2019) 脊振山の山頂付近で観察された3種のチョウ類. Korasana (91) : 10.
- 長田庸平 (2019) シイタケの栂木で蛹化したキタテハ. Korasana (91) : 11.
- 長田庸平 (2019) 大分県日田市でツマグロキチョウを観察. Korasana (91) : 11.
- 長田庸平 (2019) 大分県中津市山国町でオオムラサキとスミナガシを撮影. Korasana (91) : 12.
- 長田庸平 (2019) 大分県中津市耶馬溪におけるチョウ類の記録. Korasana (91) : 12.
- 長田庸平 (2019) 大分県飯田高原における2014年のヒメシロチョウの記録. Korasana (91) : 13.
- 長田庸平 (2019) 大分県別府市由布岳におけるチョウ類の撮影記録. Korasana (91) : 13.
- 長田庸平 (2019) クリの花で吸蜜するホタルガ. Korasana (91) : 14.
- 長田庸平 (2019) 新宮町でシンジュサンを捕獲. Korasana (91) : 14.
- 長田庸平 (2019) 福岡市箱崎で観察できたトンボ類. Korasana (91) : 15.
- 長田庸平 (2019) 久留米市高良山でミルンヤンマを採集. Korasana (91) : 15.
- 長田庸平 (2019) 大宰府市四王寺山で観察されたトンボ類. Korasana (91) : 16.
- 長田庸平 (2019) シオヤアブがヒグラシを捕食. Korasana (91) : 16.
- 長田庸平 (2019) 東京都板橋区でアカスジキンカメムシ幼虫が枝先で越冬. かめむしニュース (58) : 10.
- 長田庸平 (2019) 東京都世田谷区でオオトビサシガメを採集. かめむしニュース (58) : 10-11.
- 長田庸平 (2019) 東京都江東区木場公園でヤニサシガメ越冬幼虫を採集. かめむしニュース (58) : 11.
- 長田庸平 (2019) 東京都港区北部におけるキマダラカメムシの記録. かめむしニュース (58) : 12-13.
- 長田庸平 (2019) 東京都北区赤羽でモズのはやにえになったツヤアオカメムシを観察. かめむしニュース (58) : 13.
- 長田庸平 (2019) 2018年までに浦安市で確認した昆虫. 房総の昆虫 (64) : 43-45.
- 長田庸平 (2019) 松戸市におけるカメムシ類の記録.

- 房総の昆虫 (64) : 79.
- 長田庸平 (2019) 千葉市若葉区におけるヒョウモンチョウ2種の記録. 房総の昆虫 (64) : 81-82.
- 長田庸平 (2019) 君津市香木原でミドリヒョウモンを複数確認. 房総の昆虫 (64) : 82.
- 長田庸平 (2019) 習志野市で森林害虫の蛾2種を確認. 房総の昆虫 (64) : 85.
- 長田庸平 (2019) 松戸市でツメクサガを採集. 房総の昆虫 (64) : 85.
- 長田庸平 (2019) 市川市におけるヤガ科2種の記録. 房総の昆虫 (64) : 86.
- 長田庸平 (2019) 市川市大和田でショウジョウトンボを撮影. 房総の昆虫 (64) : 87.
- 長田庸平 (2019) 習志野市の埋立地でウバタマムシを採集. 房総の昆虫 (64) : 88.
- 長田庸平 (2019) 江戸川下流域南部におけるセミ2種の記録. 房総の昆虫 (64) : 90-91.
- 長田庸平 (2019) 市川市行徳地区におけるアメンボの記録. 房総の昆虫 (64) : 91.
- 長田庸平 (2019) 船橋市の埋立地でヨコヅナサシガメを採集. 房総の昆虫 (64) : 91.
- 長田庸平 (2019) 習志野市でヤニサシガメとツヤアオカメムシを採集. 房総の昆虫 (64) : 91.
- 長田庸平 (2019) 2012年8月の蒜山高原におけるチョウ類の撮影記録. しぜんしくらしき (109) : 3-4.
- 長田庸平 (2019) 1月にワモンノメイガ成虫をなかもず駅構内で採集. 南大阪の昆虫 21 (1) : 6.
- 長田庸平 (2019) 堺駅前でアケビコノハの死骸を撮影. 南大阪の昆虫 21 (1) : 6-7.
- 長田庸平 (2019) 堺市大阪府立大学構内でトウネズミモチを食害するシマケンモン. 南大阪の昆虫 21 (1) : 7-8.
- 長田庸平 (2019) メスアカミドリシジミの孔あき個体を撮影. 月刊むし (581) : 58-59.
- 長田庸平 (2019) 山梨県大菩薩のアサギマダラ. We love! アサギマダラ情報 (285) : 23.
- 長田庸平 (2019) 長野県諏訪市霧ヶ峰高原のアサギマダラ. We love! アサギマダラ情報 (285) : 24-25.
- 長田庸平 (2019) 農業害虫コカクモンハマキ属 (チョウ目ハマキガ科) の日本産2種の識別と課題. ns. 65 (7) : 2-3.
- 長田庸平 (2019) 京都市の疏水沿いで初夏に観察されたトンボ類. ns. 65 (7) : 6-7.
- 長田庸平 (2019) 葛飾区・江戸川区の市街地における蛾類の記録 (2013 ~ 2018). うすばしろ (56) : 16-17.
- 長田庸平 (2019) 江戸川区小松川でアカボシゴマダラがアラカシの樹液を吸汁. うすばしろ (56) : 18-19.
- 長田庸平 (2019) 葛飾区新小岩でショウジョウトンボを目撃. うすばしろ (56) : 20-21.
- 長田庸平 (2019) 小石川植物園でカラスザンショウに産卵するアゲハ. うすばしろ (56) : 22.
- 長田庸平 (2019) 江戸川区南部におけるジャコウアゲハの継続的な記録. うすばしろ (56) : 23.
- 長田庸平 (2019) 大田区田園調布でアオモンイトトンボを確認. うすばしろ (56) : 23-24.
- 長田庸平 (2019) 仙台市泉区でモイワサナエを撮影. インセクトマップオブ宮城 (50) : 94.
- 長田庸平 (2019) 2011 ~ 2012年、大阪府内におけるチョウ類の撮影記録. ns. 65 (8) : 8-9, 16.
- 長田庸平 (2019) 堺市北部におけるアオアツバとニセミカドアツバの記録. 南大阪の昆虫 21 (2) : 34-35.
- 長田庸平 (2019) 堺市大阪府立大学構内でジュウサンホシテントウを記録. 南大阪の昆虫 21 (2) : 35-36.
- 長田庸平 (2019) 堺市百舌鳥梅町でサラサヤンマを採集. 南大阪の昆虫 21 (2) : 36.
- 長田庸平 (2019) リュウキュウアサギマダラの2亜種とブルガリスヒメゴマダラ (チョウ目タテハチョウ科) の雄交尾器の比較. やどりが (262) : 36-38.
- 長田庸平 (2019) 福岡県久留米市高良山のチョウ類. 季刊ゆずりは (83) : 59-61.
- 長田庸平 (2019) 東京都品川区でマツヘリカメムシを採集. かめむしニュース (59) : 9.
- 長田庸平 (2019) 東京都区部南部のヨコヅナサシガメの記録. かめむしニュース (59) : 10-11.
- 長田庸平 (2019) 東京都足立区でヨコヅナサシガメの越冬を確認. かめむしニュース (59) : 12.
- 長田庸平 (2019) 東京湾の埋立地におけるヤニサシガメの記録. かめむしニュース (59) : 13.
- 長田庸平 (2019) 東京都板橋区におけるキマダラカメムシの追加記録. かめむしニュース (59) : 14.
- 長田庸平 (2019) 博物館に迷い込んだ3種の蛾. ns. 65 (11) : 5.
- 長田庸平 (2019) 対馬でセイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシのコロニーを多数確認. 月刊むし (586) : 22.
- 長田庸平 (2019) 大阪府堺市でクロモンウスチャヒメシャクを採集. 蛾類通信 (291) : 418.
- 長田庸平 (2019) 波照間島から記録したオオベニモンアオリンガをワタリングに訂正. 蛾類通信 (291) : 422.
- 長田庸平 (2019) ヒメアトスカシバを京都府から記録. 蛾類通信 (291) : 425.
- 長田庸平・大石久志 (2019) 大阪府堺市で冬期にコマバムツホシヒラタアブ雄を採集. はなあぶ (48) : 26.
- 長田庸平 (2019) 大阪市の淀川河川敷と長居駅構内で

- ツマキチョウを記録. ns. 65 (12) : 9.
- 長田庸平 (2019) 長居公園でシャリンバイを食害するチャミノガ. ns. 65 (12) : 10.
- 長田庸平 (2019) 2019年に市川市で確認したチョウ類. 房総の昆虫 (65) : 18-19.
- 長田庸平 (2019) 習志野市における鱗翅類の記録. 房総の昆虫 (65) : 19-20.
- 長田庸平 (2019) 浦安市におけるコウチュウ類の記録. 房総の昆虫 (65) : 26.
- 長田庸平 (2019) 習志野市におけるセミ・アブラムシの記録. 房総の昆虫 (65) : 30-31.
- 長田庸平 (2019) 松戸市で5月にチャバネセセリを目撃. 房総の昆虫 (65) : 35.
- 長田庸平 (2019) 船橋市でマダラマルハヒロズコガのケースを拾得. 房総の昆虫 (65) : 35.
- 長田庸平 (2019) 市川市と浦安市でオオミノガを記録. 房総の昆虫 (65) : 35.
- 長田庸平 (2019) 市川市で5月にウスバキトンボを目撃. 房総の昆虫 (65) : 39.
- 長田庸平 (2019) 柏市柏公園でナミクチキムシを採集. 房総の昆虫 (65) : 40.
- 長田庸平 (2019) 松戸市の江戸川河川敷におけるハムシ類の記録. 房総の昆虫 (65) : 41.
- 長田庸平 (2019) 船橋市の埋立地でヘリグロテントウノミハムシを採集. 房総の昆虫 (65) : 41.
- 長田庸平 (2019) 浦安市・市川市南部のアブラムシ2種の記録. 房総の昆虫 (65) : 42.
- 長田庸平 (2019) 市川市行徳地区でヨコヅナサシガメを確認. 房総の昆虫 (65) : 43.
- 長田庸平 (2019) 浦安市でマツヒラタナガカメムシを採集. 房総の昆虫 (65) : 44.
- 長田庸平 (2019) 習志野市の埋立地でナナフシモドキを採集. 房総の昆虫 (65) : 44.
- 長田庸平 (2019) 市川市でメスアカケバエを採集. 房総の昆虫 (65) : 45.
- 長田庸平 (2019) 福岡県久留米市高良山におけるアサギマダラの吸蜜植物の記録. We love! アサギマダラ情報 (286) : 19.
- 長田庸平 (2019) シジミチョウ2種の異常型を撮影. Korasana (92) : 21.
- 長田庸平 (2019) スマホのフラッシュに反応して開翅するムラサキシジミ. Korasana (92) : 22.
- 長田庸平 (2019) 宮古島でショウベンノキの花で吸蜜するクロツバメ. Korasana (92) : 22.
- 長田庸平 (2019) 南大東島でセイヨウミツバチを撮影. Korasana (92) : 23.
- 長田庸平 (2019) 2016年2月、南大東島におけるトンボ類の記録. Korasana (92) : 23-24.
- 長田庸平 (2019) 2016年6月、奄美大島におけるトンボ類の記録. Korasana (92) : 24.
- 長田庸平 (2019) 英彦山でタカネトンボを採集. Korasana (92) : 25.
- 長田庸平 (2019) 佐賀県佐賀市と神埼市におけるトンボ類の撮影記録. Korasana (92) : 25.
- 長田庸平 (2019) 佐賀県におけるチョウ類の撮影記録. Korasana (92) : 26-27.
- 長田庸平 (2019) 佐賀県鳥栖市における蛾類の撮影記録. Korasana (92) : 27.
- 長田庸平 (2019) 佐賀県鳥栖市におけるカミキリムシ類の撮影記録. Korasana (92) : 27.
- 長田庸平 (2019) 北九州市平尾台におけるコウチュウ類の撮影記録. Korasana (92) : 28.
- 長田庸平 (2019) 大分県耶馬溪でアブラゼミとミンミンゼミを同時撮影. Korasana (92) : 28.
- 長田庸平 (2019) 大分県におけるチョウ類の撮影記録. Korasana (92) : 29.
- 長田庸平 (2019) 熊本県阿蘇におけるチョウ類の撮影記録. Korasana (92) : 30-31.
- 長田庸平 (2019) 宮崎県におけるチョウ類の撮影記録. Korasana (92) : 32.
- 長田庸平・青木好明 (2019) 栃木県におけるチョウ類の採集・撮影目録. インセクト 70(2) : 80-82.
- 長田庸平・松野茂富 (2019) 田辺市におけるミカドアゲハの記録. Kinokuni (96) : 37.
- 長田庸平・田村昭夫 (2019) 大山桝水高原でゴマシジミとミヤマチャバネセセリを撮影. ゆらぎあ (37) : 48.
- 長田庸平 (2019) 堺市中百舌鳥周辺における注目すべき蛾類の記録. 南大阪の昆虫 21(3) : 49-52.
- 長田庸平 (2019) 堺市百舌鳥梅町でキマダラミヤマカミキリを採集. 南大阪の昆虫 21(3) : 56.
- 長田庸平 (2019) 堺市百舌鳥梅町でビロードサシガメを採集. 南大阪の昆虫 21(3) : 57.
- 長田庸平 (2019) 堺市北区および中区におけるトモンハナバチの記録. 南大阪の昆虫 21(3) : 57-58.
- 長田庸平 (2019) 東洋区を中心に分布する *Graphium* 属 *eurypylus* 種群 (チョウ目アゲハチョウ科) の斑紋と雄交尾器に基づく地理的変異. やどりが (263) : 21-28.*
- 長田庸平・福田晴男 (2019) 大阪府堺市でホシミスジ近畿低地型の異常型を撮影. 羽化 (35/36) : 55.
- 長田庸平・福田晴男 (2019) 東京都豊島区池袋でホシミスジを撮影. 羽化 (35/36) : 55.
- 長田庸平 (2020) 足立区元淵江公園でジャコウアゲハを確認. うすばしろ (57) : 17.
- 長田庸平 (2020) 文京区白山でミドリヒョウモンを撮

影. うすばしろ (57) : 17.
長田庸平 (2020) 国分寺市におけるミノガ科の記録. うすばしろ (57) : 18.
長田庸平 (2020) 足立区舎人公園でオオミノガを確認. うすばしろ (57) : 18.
長田庸平 (2020) 板橋区におけるオオミノガとアオアツバの記録. うすばしろ (57) : 19.
長田庸平 (2020) 板橋区赤塚でチョウセンカマキリの卵鞘を確認. うすばしろ (57) : 19-20.
長田庸平・藤江隼平 (2020) 2019年6月に長崎県対馬で採集された蛾類. 蛾類通信 (292) : 438-441.
長田庸平 (2020) 水元公園でアブラゼミの死骸から吸汁するキマダラカメムシ幼虫を観察. 月刊むし (588) : 48.
長田庸平 (2020) 長居公園における数種のチョウ類の記録 (2019). ns. 66 (2) : 10-11.
長田庸平 (2020) 東京都江東区でアカスジキンカメムシを採集. かめむしニュース (60) : 4.
長田庸平 (2020) 東京都新宿区と中野区でヨコヅナサシガメを記録. かめむしニュース (60) : 5.
長田庸平 (2020) 東京都区部におけるキマダラカメムシの記録 (2019年). かめむしニュース (60) : 8-9.
長田庸平 (2020) 東京都江東区におけるアメンボの分布記録. かめむしニュース (60) : 10.
長田庸平 (2020) 東京都中野区でエサキモンキツノカメムシを採集. かめむしニュース (60) : 10.
長田庸平・山田量崇 (2020) 波照間島初記録のカメムシ2種. Rostria (64) : 58-59.
長田庸平 (2020) 堺市鉢ヶ峯寺におけるアキアカネの記録. 南大阪の昆虫 21(4) : 83.
長田庸平 (2020) 中百舌鳥周辺におけるジャコウアゲハの記録 (2019). 南大阪の昆虫 21(4) : 84-85.
長田庸平 (2020) 堺市鉢ヶ峯寺におけるジャノメチョウの記録. 南大阪の昆虫 21(4) : 85-86.
長田庸平 (2020) 品川区八潮と大田区東海におけるクリサキテントウの記録. うすばしろ (58) : 15-16.
長田庸平 (2020) 江東区東陽でチョウセンカマキリの卵鞘を確認. うすばしろ (58) : 18.
長田庸平 (2020) 東京湾の埋立地におけるマツカレハとヒロヘリアオイラガの記録. うすばしろ (58) : 19-20.
長田庸平 (2020) 江東区と中央区におけるセミ類の分布調査 (2019年). うすばしろ (58) : 20-21.
長田庸平 (2020) 板橋区でムネアカハラビロカマキリの卵鞘を確認. うすばしろ (58) : 22-23.
長田庸平 (2020) 江東区清澄でオオヤマトンボとショウジョウトンボを確認. うすばしろ (58) : 23.
長田庸平 (2020) 京都府木津川市でハンノキハムシを

採集. 月刊むし (590) : 53.
長田庸平 (2020) 埼玉県におけるチョウ類の採集・撮影記録. かみつけ (13) : 73-80.
長田庸平 (2020) 群馬県におけるチョウ類の採集・撮影記録. かみつけ (13) : 80-83.
長田庸平 (2020) さいたま市大宮区・見沼区におけるフユシャク類の記録. かみつけ (13) : 83.
長田庸平 (2020) さいたま市で後翅が白化したツバメシジミを採集. かみつけ (13) : 90.
長田庸平 (2020) 大宮公園でオオミノガを採集. かみつけ (13) : 90.

【植物研究室】

<査読あり論文>

角野康郎・池田 博・海老原 淳・上赤博文・狩山俊悟・黒沢高秀・佐久間大輔・志賀 隆・鈴木浩司・鈴木まほろ・瀬戸口浩彰・高宮正之・高野温子・藤井伸二・藤川和美・持田 誠 (2019) 地域植物研究会等の現状: アンケートに基づく考察. 植物地理・分類研究 67(2) : 165-178
浜田信夫・阿部仁一郎・佐久間大輔 (2019) 金管楽器内で生育するカビの金属耐性. 日本防菌防黴学会誌 47(7) : 265-271
佐久間大輔・藤田博昭・榎本輝彦 (2019) 京都市の変形菌: 榎本輝彦コレクションより 変形菌36 : 24-33.*
野村千枝・昌山 敦・佐久間大輔・梶村計志 2019 リアルタイムPCR 法によるオオシロカラカサタケの同定. 日本食品化学学会誌 26(1) : 56-62.*
Yu Fukasawa, Yoko Ando, Yoshitaka Oishi, Kimiyo Matsukura, Kunihiro Okano, Zewei Song, Daisuke Sakuma (2019) Effects of forest dieback on wood decay, saproxylic communities, and spruce seedling regeneration on coarse woody debris. Fungal Ecology 41 : 198-208
Yu Fukasawa, Yoko Ando, Satoshi N. Suzuki, Mineaki Aizawa, Daisuke Sakuma (2020) Climate influences the effect of fungal decay type on regeneration of *Picea jezoensis* var. *hondoensis* seedlings on decaying logs. Canadian Journal of Forest Research 50 : 73-79.
横川昌史・高田みちよ・長谷川匡弘 (2020) 大阪府における特定外来生物オオバナミズキンバイ (広義) (アカバナ科) の現状. 大阪市立自然史博物館研究報告 (74) : 75-82.*
横川昌史・菅 久・山下由美・兼子伸吾 (2020) 大阪府で見つかったクマガイソウの生育状況と開花ジェネット数. 地域自然史と保全 41(1) : 37-44.*

＜査読なし論文および雑誌記事＞

- 佐久間大輔・米沢里美 (2019) 台湾にもあった「ジャリン」. ns. 65(4) : 8, 16.
- 佐久間大輔 (2019) 世界の中の博物館、社会の中の博物館. ns. 65(11) : 2-4.
- Daisuke SAKUMA (2019) The importance of citizens' communities around museums for building new activities and science communication. Proceedings of ICOM NATHIST Kyoto-Osaka 2019, 67-71. <https://doi.org/10.20643/00001383>
- 佐久間大輔 (2020) NATHIST は日本の科学系博物館に何をもたらしたか？自然史博物館の立場から. 全科協ニュース50(2) : 3-5.
- 佐久間大輔 (2020) MDPFと自然史系博物館の将来の機能. 第27回全国科学博物館協議会研究発表大会資料 67-72.
- 長谷川匡弘 (2019) 小難しい学芸員のやさしい小咄 サクラの花はいつ開く？植物の「動き」を見る方法. ns. 65(6) : 11.
- 長谷川匡弘・長谷川泰樹 (2019) 奈良県大和郡山市でナガミズムシを採集. ns. 65(8) : 10-11.
- 長谷川匡弘・桂 孝次郎・吉村俊彦・西川善朗 (2019) 消えゆく湿地とそこに暮らす植物、昆虫たち ～標本から見る「將軍山湿原」の過去と、今～ ns. 65(8) : 2-4.
- 植村修二・長谷川匡弘 (2020) 大阪湾の人工島 夢洲で見つけた小葉型のナンキンハゼ. 近畿植物同好会誌 43 : 13-16.
- 長谷川匡弘 奈良県大和郡山市の養魚池でオオアブノメの生育を確認 近畿植物同好会誌 43 : 27-29.
- 長谷川匡弘 (2020) 奈良県斑鳩町春日古墳の植物相について 近畿植物同好会誌 43 : 1-7.
- 横川昌史 (2020) 鳥根県西部および山口県北部の砂質海岸における海浜植生の現状：特にオニハマダイコンに注目して. 鳥根県立三瓶自然館研究報告 (18) : 31-39.
- 横川昌史 (2020) 樹皮. ns. 66(2) : 6.*
- 横川昌史 (2019) ムラサキサギゴケの和名の変遷. ns. 65(12) : 2-5.
- 横川昌史 (2019) 標本記録に基づく大阪府のミズオオバコ分布. ns. 65(6) : 10-11.*
- 菅 久・横川昌史 (2019) クマガイソウとマルハナバチ. ns. 65(5) : 1-12.
- 横川昌史 (2019) メリケントキンソウの果実が靴に刺さって運ばれる可能性について. ns. 65(4) : 7-16.
- 横川昌史 (2019) 草原の火入れ. ns. 65(3) : 2.
- 横川昌史 (2019) 熊本県阿蘇地域で見つけたロクアイタンポポ (仮称) によく似たタンポポ. ns. 65(2) :

6-16.

- 横川昌史 (2019) 高槻市のロクアイタンポポ (仮称). タンポポ調査・西日本2020ニュース : (2) : 3-4.

＜著書＞

- 佐久間大輔 (2019) きのこの教科書 観察と種同定の入門. 山と溪谷社. 240pp.*

＜学会発表＞

- 佐久間大輔・大坪 奏「菌類図譜の資料価値の検討」日本菌学会63回大会 (秋田) A-18.*
- 佐久間大輔・釋 知恵子 (2019) 展示意図・目的に沿った展示事業評価を目指して. 2019年度全日本博物館学会 (21)
- 佐久間大輔・天満和久・道盛正樹 (2020) 生物多様性地域戦略は山間部の地域おこしと生態系保全の2兎をおえるのか. 日本生態学会第67回全国大会 F01-07
- Daisuke Sakuma (2019) Role of citizen scientists and local natural history museums for mycology. Asian Mycological Congress2019, Mie (アジア菌学会三重大会) P4-02.*
- 指村奈穂子・澤田佳宏・内貴章世・古本 良・横川昌史 (2020) 西表島の希少樹木コニシハイノキの生育環境—近縁種との比較において— 第67回日本生態学会大会 P2-PC-201.
- 横川昌史・増井太樹・堤 道生・平館俊太郎 (2020) 過去の土壌変化が半自然草原植生に与える影響：蒜山地域の例. 第67回日本生態学会大会 G02-03.
- 中井克樹・林 紀男・横川昌史・伊藤彩乃・嶺田拓也・日鷹一雅・上河原猷二・野間直彦・稗田真也 (2020) 侵略的外来植物オオバナミズキンバイの国内主要水域における侵入・定着および対策状況. 第67回日本生態学会大会 E01-03.

【地史研究室】

＜査読あり論文＞

- Tanaka Y. and Taruno H. (2019) The first cetacean record from the Osaka Group (Middle Pleistocene, Quaternary) in Osaka, Japan. Paleontological Research. 23 : 166-173.*
- Tanaka Y., Ohara M. and Kimura T. (2019). A Large Fossil baleen whale from the Shikiya Formation (Early Middle Miocene) of Wakayama, Japan. Paleontological Research 23 : 199-207.

＜査読なし論文及び雑誌原稿など＞

- 田中嘉寛・樽野博幸 (2019) お披露目！熊石洞の哺乳類化石 ns. 65(4), 5.

田中嘉寛 (2019) ダーウィンも立ち寄ったニュージーランドでイルカ、クジラの進化を研究する ns. 65(4), 2-3.

田中嘉寛 (2019) 形を言葉であらわす ns. 65(9), 6.

田中嘉寛 (2019) われても末にあわんとぞ思ふ ns. 65(10), 10.

田中嘉寛・樽野博幸 (2019) 大阪層群からクジラの化石が初めて見つかった ns. 65(12), 7.

【第四紀研究室】

＜査読なし論文および雑誌原稿など＞

石井陽子 (2020) 小難しい学芸員のやさしい小咄 地層の剥ぎ取り標本ができるまで. ns. 65 (11): 6

南 秀雄・小山田宏一・趙 哲済・杉本厚典・中条武司・角 哲也 (2020) 難波堀江の学際的再検討. 大阪市文化財協会研究紀要, (21): 55-70.

中条武司 (2019) 岩石の風化と土砂の生産. ns. 65(5): 61.

中条武司 (2020) 僕らが砂浜の砂を集める理由. ns. 66(2), 14-17, 28.

＜学会発表＞

ISHII Yoko (2019) Development of effective utilization method of borehole core samples in class by cooperation of teachers and museum curator. Proceedings of ICOM NATHIST Kyoto-Osaka 2019, 152-155. <https://doi.org/10.20643/00001401>

石井陽子 (2020) 教員有志と科学館・自然史博物館の協力による地学普及イベント「こどものためのジオ・カーニバル」の紹介. 第27回全国科学博物館協議会研究発表大会資料: 23-28.

中条武司 (2019) 花崗岩風化地を後背地に持つ谷埋め堆積物: 大阪府和泉市, 中新世甘南備累層の例. 日本地質学会第126年学術大会 (山口) 講演要旨: 245.

山中亜希子・山下和子・中条武司 (2019) 子ども向けワークショップ「砂・つぶ・すな絵」を通して学ぶ砂の組成とその成り立ち. 日本堆積学会2019年大阪大会プログラム・講演要旨: 46-47.

【総務課】

＜査読なし論文＞

釋 知恵子・佐久間大輔・横川昌史 (2019) 大阪市立自然史博物館の幼保こども園向け教育支援の取り組み～来館の前後を含めた博物館体験の提案～. 金属89 (12): 35-40.

＜書籍等出版物＞

釋 知恵子 (2019) 博物館の協働による「教員のための

博物館の日」教員と博物館が出会い、その関係を育てる場所に. 小川義和編「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」, ジダイ社, 288-305.

＜学会発表＞

釋 知恵子・佐藤優香・北村美香・佐久間大輔 (2019) 博物館における教育プログラム実践家のための評価手法の開発 (1) 評価項目の検討と基礎調査. 全日本博物館学会第45回研究大会発表要旨集: 41-42.

VIII. 講演・館外活動・社会貢献など

報文一覧にふくまれない講演などの館外活動をここに採録した。

川端 清司

文化庁文化審議会委員 (博物館部会臨時委員)

吹田市文化財保護審議会委員

公益財団法人日本博物館協会参与

全国科学博物館協議会理事

一般財団法人 大阪科学技術センター評議員

一般財団法人 日本地質学会理事

日本地質学会大126年学術大会夜間小集会「博物館小集会 標本保管を考える」山口大学 (山口県) を主催

地学団体研究会大阪支部運営委員
大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」・「博物館経営論」

講演 「自然史博物館のめざす活動」(2019.6 大阪大学科学系博物館連携クラスター「これからの自然科学・博物館と市民」)

講演 「川原の石の見分け方」(2019.8 京都市理科連絡協議会研修会)

講演 「南海トラフ地震の想定」(2020.2 西日本自然史系博物館ネットワーク 研究会「次の大規模災害に備える」)

和田 岳

日本生態学会関西地区会自然保護専門委員会 委員

淀川環境委員会 委員

京都府レッドデータブック改訂専門委員会 鳥類分科会 委員

枚方京田辺環境施設組合オオタカ保全専門家会議 委員

堺市レッドリスト・堺市外来種ブラックリスト改定懇話会 委員

大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会 委員

講演 市街地で繁殖する鳥. (2019.5 大阪自然環境保全協会 自然環境市民大学)

講演 絵本で考える外来生物. (2019.6 大阪市立中央図書館 出張! 自然史博物館)

講演 大阪という都市環境における野生動物の暮らし.

(2019.9 日本動物学会第90回大阪大会 公開講演会)

講演 冬の果実と鳥の関係. (2020.1 シニア自然大
学校)

講演 大阪の外来生物問題～カメ、鳥、アライグマ、
ネコ. (2020.1 地方独立行政法人大阪市博物館機構
TALK & THINK)

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

石田 惣

日本貝類学会評議員・研究連絡誌「ちりぼたん」編集
幹事

日本ベントス学会運営委員

軟体動物多様性学会「Molluscan Diversity」編集委員

環境省モニタリングサイト1000 沿岸域調査検討会委
員 (磯分科会座長)

堺市レッドリスト・堺市外来種ブラックリスト改定懇
話会 委員

講演 市民科学で調べる外来生物一員の仲間を中心
に (2020.1 地方独立行政法人大阪市博物館機構
TALK & THINK)

大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

松井 彰子

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク 理事

城北ワンドイタセンパラ協議会 協議会員

海と日本プロジェクトin大阪実行委員会 委員

関西自然保護機構 編集委員

初宿 成彦

日本甲虫学会評議員・HP担当

滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会

松本 吏樹郎

日本昆虫学会 代議員

堺市レッドリスト・堺市外来種ブラックリスト改訂懇
話会委員

関西昆虫学研究会幹事

滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会

大阪市立大学非常勤講師「生物学実験」「博物館資料保
存論」

長田 庸平

講演 「チョウだけでなくガ類も海を渡る」日本鱗翅
学会第66回大会公開シンポジウム 大阪市立自然史
博物館 (2019.11)

日本鱗翅学会近畿支部幹事

アサギマダラの会運営委員会

佐久間 大輔

大阪市立大学非常勤講師『博物館経営論』 (2019.12.3,
10)

和歌山大学非常勤講師『ミュージアムを創る』 (2019.9.
11-13, 21)

環境省大台ヶ原自然再生推進委員

文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業委員

ICOM京都大会2019組織委員会 連絡窓口担当者

文化遺産防災ネットワーク推進会議活動ガイドライン
策定委員

京都府レッドデータ改訂検討委員会委員

堺市レッドリスト・堺市外来種ブラックリスト改訂懇
話会委員

岸和田市環境審議会委員

吹田市立博物館協議会委員

和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員

日本博物館協会「博物館総合調査」委員会委員

特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワー
ク理事

講演 食品衛生フォーラム講演「生き物としての菌、
キノコ、細菌～微生物の視点から考える食中毒～」
(2019.8.6) 大阪市中央公会堂

講演 北海道大学CoSTEP「社会の中の自然史博物館、
社会の中のコミュニケーター」 (2019.11.30)

講演 博物館政策のこれから (2019.11.23) 日東京大
学

講演 JMMA研究会「ミュージアムの利用者調査～利
用者と潜在的利用者を知る」 (2019.11.24) 大阪市立
自然史博物館 パネルディスカッション進行

講演 文化政策学会 企画フォーラムI-C「事業計画
のロジックモデルを作成するワークショップーロ
ジックモデル作成の要点とWS進行の仕方ー」共同
企画者 (2019.12.21 埼玉市)

講演 POPなきのこ展「きのこ図鑑のヒミツ」 (2020.1.
12) 咲くやこの花館 (大阪市)

講演 「ICOMを迎えたねらい」ICOM京都大会2019
記念シンポジウム 日本のミュージアムの未来
(2020.2.11)

講演 「ICOM京都大会をふまえた 自然史博物館が
めざすべき未来」公開シンポジウムWhere Culture
Meets Nature (2020.2.24) 京都国立博物館

長谷川 匡弘

大阪府レッドリスト改訂検討委員会委員

環境省レッドリスト大阪府主任調査員

講演 「どうしてそんなかたちなの? 花の形から植
物の生き様を考える」サイエンスカフェ伊丹

横川 昌史

日本植物分類学会 研究・普及推進委員会

講演 「大阪府におけるオオバナミズキンバイ (広義)
の現状」水陸両生の侵略的外来植物の管理に関する
ワークショップ (2019.8.26) 琵琶湖博物館

講演 「友の会との連携による博物館活動」日本博物
館協会研究協議会「新たな来館者対策～入館者増の

「ための方策」(2020. 1. 31) 大塚国際美術館
田中 嘉寛
北海道大学総合博物館資料部 研究員
大恐竜展 in なんば ギャラリートーク (2019. 5)
石井 陽子
豊中市教育研究会理科部会 講師 (2019. 12)
第20回「子どものためのジオ・カーニバル」企画委員
中条 武司
日本堆積学会大阪大会実行委員長
日本堆積学会選挙管理委員
日本堆積学会行事委員
地学団体研究会大阪支部委員
大阪府環境審議会温泉部会専門委員
大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」
奈良文化財研究所「堆積・地質学基礎講座」講師
たかつき市民環境大学講師

梶原 秀高	外来研究員	本人	長谷川匡弘
数見 保則	外来研究員	本人	佐久間大輔
角野 康郎	外来研究員	本人	横川 昌史
金澤 至	外来研究員	本人	長田 庸平
川上 誠太	外来研究員	本人	石田 惣
河上 康子	外来研究員	本人	松本吏樹郎
河村 善也	外来研究員	本人	田中 嘉寛
北村 美香	外来研究員	本人	石井 陽子
熊澤 辰徳	外来研究員	本人	松本吏樹郎
倉園 知広	外来研究員	本人	横川 昌史
近藤 高貴	外来研究員	本人	石田 惣
佐藤 隆春	外来研究員	本人	中条 武司
篠川 貴司	外来研究員	本人	川端 清司
島 絵里子	外来研究員	本人	石田 惣
島田 直人	研究生	杉浦 真治	佐久間大輔
清水 裕行	外来研究員	本人	初宿 成彦
下野 義人	外来研究員	本人	松本吏樹郎
釋 知恵子	外来研究員	本人	佐久間大輔
鈴木 寿之	外来研究員	本人	石井 陽子
瀬戸 剛	外来研究員	本人	松井 彰子
平 祥和	外来研究員	本人	長谷川匡弘
高萩 敏和	外来研究員	本人	松本吏樹郎
竹本 拓史	外来研究員	本人	佐久間大輔
谷田 一三	外来研究員	本人	石井 陽子
谷本 正浩	外来研究員	本人	松本吏樹郎
玉川晋二郎	外来研究員	本人	田中 嘉寛
田村美美子	外来研究員	本人	川端 清司
樽野 博幸	外来研究員	本人	松本吏樹郎
塚腰 実	外来研究員	本人	田中 嘉寛
長江真紀子	外来研究員	本人	田中 嘉寛
中川亜希子	外来研究員	本人	石田 惣
名部みち代	外来研究員	本人	横川 昌史
鍋島 靖信	外来研究員	本人	佐久間大輔
鳴橋 直弘	外来研究員	本人	石田 惣
西澤真樹子	外来研究員	本人	長谷川匡弘
橋屋 誠	外来研究員	本人	和田 岳
畑山武一郎	外来研究員	本人	佐久間大輔
波戸岡清峰	外来研究員	本人	初宿 成彦
花崎 勝司	外来研究員	本人	松井 彰子
濱田 信夫	外来研究員	本人	松井 彰子
林 寿一	外来研究員	本人	佐久間大輔
板東 誠	外来研究員	本人	長田 庸平
藤江 隼平	外来研究員	本人	佐久間大輔
別所 孝範	外来研究員	本人	松本吏樹郎
堀江 明香	外来研究員	本人	中条 武司
松江実千代	外来研究員	本人	和田 岳
松岡 数充	外来研究員	本人	石井 陽子
松田 潔	外来研究員	本人	田中 嘉寛
			初宿 成彦

Ⅷ. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要綱 ([http://www.mus-nh.city.osaka.jp/2 about/guest.html](http://www.mus-nh.city.osaka.jp/2/about/guest.html)) により、令和元年度（平成31年度）に受け入れた外部研究員を表1に示す。

表1			
受入期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日			
氏名	種別	依頼元	担当学芸員
有山 啓之	外来研究員	本人	石田 惣
安藤 清志	外来研究員	本人	初宿 成彦
石井 久夫	外来研究員	本人	中条 武司
石田 路子	外来研究員	本人	石田 惣
市毛 勝義	外来研究員	本人	石田 惣
伊藤 建夫	外来研究員	本人	松本吏樹郎
伊藤 昇	外来研究員	本人	初宿 成彦
乾 公正	外来研究員	本人	初宿 成彦
乾 美浪	外来研究員	本人	和田 岳
井上 泰江	外来研究員	本人	佐久間大輔
宇都宮 聡	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大石 久志	外来研究員	本人	田中 嘉寛
大古場 正	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大谷 道夫	外来研究員	本人	石田 惣
小倉 徹也	外来研究員	本人	石田 惣
小野山敬一	外来研究員	本人	川端 清司
大庭 重信	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大宮 正也	外来研究員	本人	松本吏樹郎
加賀 達也	外来研究員	本人	中条 武司
柿沼 進	外来研究員	本人	松本吏樹郎
笠城 道男	外来研究員	本人	松井 彰子
			松本吏樹郎

松田 真平	外来研究員	本人	長田 庸平
松橋 義隆	外来研究員	本人	田中 嘉寛
丸井 英幹	外来研究員	本人	長谷川匡弘
道盛 正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
三井 聖子	外来研究員	本人	長谷川匡弘
森本 繁雄	外来研究員	本人	佐久間大輔
安井 通宏	外来研究員	本人	初宿 成彦
山住 一郎	外来研究員	本人	長谷川匡弘
山西 良平	外来研究員	本人	石田 惣
山本 睦徳	外来研究員	本人	川端 清司
山本 好和	外来研究員	本人	佐久間大輔
渡辺 克典	外来研究員	本人	石井 陽子
渡部 哲也	外来研究員	本人	石田 惣

受入期間：令和元年7月1日～令和2年3月31日

氏名	種別	依頼元	担当学芸員
植村 修二	外来研究員	本人	長谷川匡弘
高橋 春菜	研究生	三田村宗樹	石井 陽子

期間内に外来研究員が公表した論文、著書などの業績は下の通り（学会発表は含まない）。一重下線は当館外来研究員、二重下線は当館学芸員を示している。館出版物に掲載された論文等は刊行物（50ページ）の項に掲載している。

Ando, K. (2019) A revision of the genus *Phaedis* Pascoe (Coleoptera: tenebrionidae: stenochiinae) from Sumatra including Nias and Mentawai islands. *Annales Zoologici, Warszawa* 69(1): 1-52.

Ando, K. (2019) Noteworthy species of the genus *Pseudonantes* Fairmaire (Coleoptera, Tenebrionidae) housed in the Senckenberg Deutsches Entomologisches Institut, with Descriptions of Six New Species. *Elytra, Tokyo, New Series* 9(1): 99-115.

Ando, K. (2019) A new species of the Termitophilous Tenebrionid genus *Mimoxenotermes* Pic (Coleoptera, Tenebrionidae, Rhysopausini) occurred in the Malay Peninsula. *Elytra, Tokyo, New Series* 9(2): 353-357.

Ando, K. (2019) Taxonomic notes on the genus *Phaedis* Pascoe (Coleoptera, Tenebrionidae) from the Malay Peninsula with the description of six new species. *Entomological Review*, 99(7): 868-897.

Ariyama, H. (2019) Four species of Dulichiidae (Crustacea: Amphipoda) from Japan, with the description of a new genus and two new species. *Species Diversity* 24: 29-48.

Ariyama, H. (2019) Two species of *Ceradocus* collected from coastal areas in Japan, with description of a new species (Crustacea: Amphipoda: Maeridae).

Zootaxa 4658: 297-316.

Ariyama, H. and Hoshino, O. (2020) A new superfamily, family, genus and species of marine amphipod, *Protodulichia scandens*, from Japan (Crustacea: Amphipoda: Senticaudata: Corophiida). *Journal of Natural History* 53:2467-2477.

Ariyama, H. (2020) Species of the *Maera*-clade collected from Japan. Part 3: genera *Maera* Leach, 1814, *Meximaera* Barnard, 1969 and *Orientomaera* Ariyama, 2018 (addendum), with a key to Japanese species of the clade (Crustacea: Amphipoda: Maeridae). *Zootaxa* 4743:451-479.

Belokobylskij, S. A. and Fujie, S. (2019) A new name for junior homonym of the Helconinae (Hymenoptera: Braconidae) genus with first description of male *Yamatocolpus maetoi* (Belokobylskij et Fujie, 2017), comb. nov.. *Japanese Journal of Systematic Entomology* 25(2): 249-251.

Chaweepak, T., Yurimoto, T., Matsuoka, K., Sangrungruang, K., (2019) Monitoring and risk assessment of Paralytic Shellfish Poisoning (PSP) Toxins in Two Estuaries at Chanthaburi Province, Thailand. *Asian Fisheries Science*: doi.org/10.33997/j.afs.2019.32.3.006

Fujie, S., Wachi, N., Umemoto, H. and Maeto, K. (2019) Mitochondrial DNA diversity and geographical distribution of sexual and asexual strains of the braconid parasitoid *Meteorus pulchricornis*. *Entomologia Experimentalis et Applicata* 167:977-985.

藤江隼平・前藤 薫 (2020) Family Braconidae コマユバチ科. 日本昆虫学会 日本昆虫目録編集委員会編, 日本昆虫目録 第9巻 膜翅目 (第2部 細腰亜目寄生蜂類). 権歌書房, 福岡.

藤原恭司・鈴木寿之・本村浩之 (2019) 鹿児島県薩摩半島西岸から得られた九州初記録のハゼ亜目魚類8種, *Nature of Kagoshima* (45): 405-410.

Fujiwara, K., Suzuki, T. and Motomura, H. (2019) Two new dwarfgobies (Gobiidae) from southern Japan: *Eviota amamiko* and *Eviota perspicilla*. *Ichthyological Research*: <https://doi.org/10.1007/s10228-019-00712-x>.

福場逸子・川上誠太 (2020) 2020年度 神戸市総合教育センター所蔵 古川博二貝類標本台帳. 61pp.

Gurdebeke, P. R., Mertens, K. N., Pospelova, V., Matsuoka, K., Li, Z., Gribble, K.E., Gu, H., Bogus, K., Vrielinck, H., and Louwey, S. (2019) Taxonomic

- revision, phylogeny, and cyst wall composition of the dinoflagellate cyst genus *Votadinium* Reid (Dinophyceae, Peridiniales, Protooperidiniaceae). *Palynology*: 10.1080/01916122.2019.1580627
- 花崎勝司・三宅壽一 (2020) 大阪府阪南市から採集されたクロヨシノボリ. きしわだ自然資料館研究報告 (6) : (印刷中).
- 浜田信夫 (2019) カビはすごい! ヒトの味方か天敵か!?. 朝日文庫 304pp.
- 浜田信夫・佐久間大輔・阿部仁一郎 (2019) 金管楽器内で生育する金属耐性. 日本防菌防黴学会誌 47 : 265-271.
- Hamada, N. and Abe, N. (2019) *Ochroconis* species isolated from limestone areas as the origin of indoor *Ochroconis*. *Biocontrol Sciences* 24: 193-200.
- Hayasaka, D., Nakagawa, M., Maebara, Y., Kurazono, T. and Hashimoto, K. (2020) Seed germination characteristics of invasive *Spartina alterniflora* Loisel in Japan: implications for its effective management. *Scientific Reports* 10: <https://doi.org/10.1038/s41598-020-58879-7>
- 林 寿一 (2019) ルソンカラスアゲハ観察・撮影紀行. *Butterfly Science* (15) : 51-57.
- Hiki, K., Ariyama, H. and Nakajima, N. (2020) The complete mitochondrial genomes of two amphipod species of the genus *Grandidierella* (Crustacea: Amphipoda). *Mitochondrial DNA Part B: Resources* 5: 1535-1536.
- Hinode, K., Yamaguchi, H., Nishihara, G. N., Matsuoka, K. (2019) Changes in phytoplankton assemblage caused by anoxic conditions revealed with mesocosms in Omura Bay, western Japan. *Nova Hedwigia* 109: 271-290.
- 市毛勝義 (2019) 日本産メバエ科忘備録. はなあぶ 47 : 35-64.
- 市毛勝義 (2019) Dialysisシギクサアブ属について (双翅目: クサアブ科). はなあぶ 48 : 53-54.
- 市毛勝義 (2019) 日本産Physiphora属 (双翅目: ハネフリバエ科) について. はなあぶ (48) : 56-57.
- 市毛勝義 (2019) 日本初記録となるHomoneura kaszabi (シマバエ科) の記録. はなあぶ (48) : 61.
- 井藤竜大・大石久志 (2019) チャバネツリアブモドキ *Atriadops amamioshimensis* Ouchi, 1939 の奈良県及び愛媛県からの記録. はなあぶ (47) : 73.
- Ito, T. (2019) Notes on the species of Staphylinidae (Coleoptera) from Japan XXIV. The descriptions of two new species of *Lobrathium* Mulsant et Rey Elytra, Tokyo, New Series 9(2) : 305-309.
- 伊藤建夫・野津幸夫 (2019) クロツヤツノツツハネカクシ *Plastus (Sinumandibulus) japonicus* (Sharp, 1889) の生態について. ハネカクシ談話会ニュース (47) : 4.
- Jordan, R.W. and Matsuoka, K. (2019) Numbering or naming stomatocysts? – a reassessment of the two approaches. *Nova Hedwigia*, 148 : 157-164.
- Kadono, Y., Noda, T., Tsubota, K., Shutoh, K. and Shiga, T. (2019) Taxonomic identity of an alien *Utricularia* naturalized in the Japanese wild flora. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 70: 129-134.
- Kadono, Y. and Iida, S. (2019) A new variety of *Potamogeton* × *leptocephalus* Koidz., var. *fujiensis*, endemic to the Fuji Five Lakes and Lake Ashi, central Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 70 : 173-182.
- Kanazawa, I. (2019) Searching for the Migratory Destination of *Parantica sita nipponica*. 2019 International Conference on the *Euploea* Butterfly Ecotourism Development (conference manual) : 12-14.
- 金澤 至 (2019) 福島県浜通りにおけるアサギマダラの調査など (2017年4月~) (2). アサギマダラ情報 (285) : 18-19.
- 金澤 至 (2019) 大島新一郎氏を悼む. アサギマダラ情報 (286) : 26-27.
- 笠城道男 (2019) *Chrysosoma*属2種についての知見 (アシナガバエ科). はなあぶ (48) : 42.
- Kasuya, T., Nabe, M., Noordel. M. E. and Dima, B. (2019) *Entoloma nipponicum* T. Kasuya, Nabe, Noordel. & Dima, *sp. nov.* *Persoonia* 42: 410-411.
- 加藤柊也・丸山智朗・乾 直人・後藤暁彦・鈴木寿之・瀬能 宏 (2020) 石垣島と西表島におけるタニヨウジの記録と定着可能性. 魚類学雑誌 DOI: 10.11369/jji.19-031 J-STAGE早期公開版
- 川上誠太・福場逸子 (2020) 神戸市総合教育センター所蔵の古川博二コレクションに含まれる東京・王子貝層 (更新統) の海産二枚貝化石標本. ちりばたん 50 (1) : 24-32.
- Kawakami, Y., Yamazaki, K. and Ohashi, K. (2019) Intergenerational fluctuations in colour-morph frequencies may maintain elytral polymorphisms in the ladybird beetle *Cheilomenes sexmaculata* (Coleoptera: Coccinellidae). *Biological Journal of the Linnean Society* 128: 725-734.
- Kawakami, Y., Yamazaki, K. and Ohashi, K. (2019) Effects of temperature on the expression of body size in the ladybird beetle, *Cheilomenes*

- sexmaculata (Fabricius) (Coleoptera: Coccinellidae). Elytra, New Series 9: 81-87.
- 河上康子 (2019) 学位論文の概要 —温暖化がダングラテントウの分布北上と鞘翅斑紋多型頻度の地理的・経時的変動に与える影響. 滋賀県立大学環境科学部年報23: 37-38.
- Kawamura, A., Chang, C.-H. and Kawamura Y. (2019) The earliest fossil record of the bandicoot rat (*Bandicota indica*) from the early Middle Pleistocene of Taiwan with discussion on the Quaternary history of the species. Quaternary International 523: 37-45.
- 河村 愛・河村善也 (2020) 日本の哺乳類の生物地理 —イギリス諸島とその比較から動物相の特徴や成り立ちを考える—. 愛知教育大学研究報告 (自然科学編) 69: 63-71.
- 河村 愛・河村善也 (2020) 愛知県南部豊川流域の段丘地形とジオサイト. その1. 新城市域. 鳳来寺山自然科学博物館館報 49: 1-11.
- 河村 愛・河村善也 (2020) 愛知県南部豊川流域の段丘地形とジオサイト. その2. 豊川・豊橋市域. 鳳来寺山自然科学博物館館報 49: 13-22.
- Kondo, T. and Hattori, A. (2019) A new species of the genus *Lanceolaria* (Bivalvia: Unionidae) from Japan. Venus 78: 27-31.
- Lopes-Lima, M., Hattori, A., Kondo, T., Lee, J. H., Sang Ki Kim, S. K., Shirai, A., Hayashi, H., Usui, T., Sakuma, K., Toriya, T., Sunamura, Y., Haruki Ishikawa, H., Naoki Hoshino, N., Kusano, Y., Kumaki, H., Yuya Utsugi, Y., Yabe, S., Yoshinari, Y., Hiruma, H., Tanaka, A., Sao, K., Ueda, T., Sano, I., Miyazaki, J., Gonçalves, D. V., Klishko, O. K., Konopleva, E. S., Vikhrev, I. V., Kondakov, A. V., Gofarov, M. Y., Bolotov, I. N., Sayenko, E. M., Soroka, M., Alexandra Zieritz, A., Arthur E. Bogan, A. E. and Froufe, E. (2020) Freshwater mussels (Bivalvia: Unionidae) from the rising sun (Far East Asia): Phylogeny, systematics, and distribution. Molecular Phylogeny and Evolution 146: <https://doi.org/10.1016/j.ympef.2020.10675>.
- 古閑愛望・小林貴咲・村田 鈴・湯川歩美・浜田信夫 (2020) 水筒に見られるカビの現状. 環境管理技術 38: 28-33.
- 熊澤辰徳 (2019) エメラルド色のハエを追って. pp. 76-90. In: 荒木優太 編「在野研究ビギナーズ」, 明石書店, 東京.
- 熊澤辰徳 (2019) これはハエ? アブ? 蚊? それとも…… 間違われやすいハエ類の見分け方. 文一総合出版ウェブマガジン BuNa 2019-09-02: <https://buna.info/article/2931/>
- 熊澤辰徳・浅野涼太 (2019) 鳥の巣から新潟県新記録の *Melanophora roralis* (双翅目, ワラジムシヤドリバエ科) を採集. はなあぶ 48: 47-49.
- 松田 潔・山内健生, 2019. 甲虫コレクションガイド15 兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されているカミキリムシ標本の概要. さやばねニューシリーズ 34: 29-35.
- 松田 潔 (2019) 日本産アミメボタル族 (鞘翅目ベニボタル科) 研究の現状. 昆虫と自然, 54(11), ニューサイエンス社: 22-25.
- 松田真平 (2019) 夏型斑紋の冬越しキタテハを目撃. 大昆のせ 48 (6) [544]: 4040.
- 松田真平 (2019) 2019年7月に福島県郡山市・いわき市で見た蝶. 大昆のせ 48 (9) [547]: 4071.
- 松田真平 (2019) *Pieris napi* 群の発香鱗による形態比較. 蝶と蛾 70 (1): 1-11.
- 松田真平 (2019) M.A.フェントンの福島・新潟での足跡探訪記.やどりが 262: 39-49.
- 松田真平 (2019) 日本鱗翅学会第66回大阪大会報告.やどりが 263: 38-42.
- 松田真平 (2019) 朝鮮半島産 ssp. *caudalis* のタイプ標本の情報. 珠玉の標本箱 (20) クロツバメシジミ: 60-62. NRC (大阪).
- 松田真平 (2020) 平群から十三峠の昆虫調査.大昆のせ 49 (2) [552]: 4121-4122.
- 松田真平 (2020) エゾスジグロシロチョウ群 (*P.napi* 群) の♂交尾器比較. 大昆 Crude (64): 76-77.
- 松橋義隆・梅基昌之 (2020) 名古屋南部工業地帯の南区埋立地からのイルカ脊椎骨化石 (完新世). 東海化石研究会誌 65: 35-37.
- Matsuoka, K., Yamamoto, K., Akiyama, S., Kojima, N., Shin, H.-H. 2019 Vertical and horizontal distributions of ellipsoidal *Alexandrium* (Dinophyceae) cysts in coastal sediment with special reference to paralytic shellfish poisoning caused by tsunamis – a case study of Osaka Bay (Japan) and the southern coast of the Korean Peninsula. Korean Journal of Environmental Biology, 36(3): 268-277. doi.org/10.11626/KJEB.2019.37.3.268.
- Mertens, K., Gu, H., Gurdebeke, P., Takano, Y., Clarke, D., Aydin, H., Li, Z., Pospelova, V., Shin, H. H., Li, Z., Matsuoka, K. and Head, M. (2019) Organic-walled dinoflagellate cyst taxa of the orders Gymnodiniales and Peridinales from the Northern Hemisphere. Marine Micropaleontology: doi.org/10.1016/j.marmicro.2019.101773
- 道盛正樹 (2019) 北川先生としだとかけ談話会. しだ

- とこけ17 (1-2) : 36-38.
- Muta, N., Umezawa, Y., Yamaguchi, A., Suzaki, H., Wada, M., Nakata, H., Kawamoto, K. and Matsuoka, K. (2020) Estimation of spatiotemporal variations in nutrient fluxes from sediments in the seasonally hypoxic Omura Bay, Japan. *Limnology*: *Limnology* 21. 3 : 341-356.
- 中橋利和・松田真平 (2020) 大阪府柏原市・八尾市付近のゼフィルスとクロシジミの古い記録. *大昆虫* 64 : 58-61.
- 中村知史・伊藤建夫 (2020) 長崎県対馬におけるフタスジヒメテントウの記録. *月刊むし* (588) : 44.
- Niisato, T., Matstuda, K. and Yamauchi, T. (2019) Reexamination of type specimens of longhorned beetles preserved in the Shujiro Hirayama Collection (Coleoptera: Cerambycidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology* 25 (2) : 207-211.
- 西川 勝・安藤清志 (2019) *Earwing Letter* (7) : 奄美群島加計呂麻島および請島におけるミナミクギヌキハサミムシの記録. *ばったきりぎりす* 162 : 4-5.
- Nishikawa, T., Yasuda, A., Murata, Y. and Otani, M. (2019) The Earliest Japanese records of the invasive European ascidian *Ascidrella aspersa* (Müller, 1776) (Urochordata: Ascididae) from Mutsu and Ago Bays, with a brief discussion of its invasion processes. *Sessile Organisms* 36(1) : 1-6.
- 野田智祥・角野康郎 (2020) 外来水生植物オオバナイトタヌキモ (タヌキモ科) の繁殖生態 : 在来種イトタヌキモとの比較. *植物地理・分類研究* 68 : 印刷中.
- 野尻湖花粉グループ (著者に松江美千代・竹本拓史を含む) (2020) 長野県野尻湖とその周辺地域の上層更新統・完新統花粉層序と花粉帯 ―総括表の改訂について―. *野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告* 28 : 97-100.
- 大庭重信 (編著) (2020) 先史・古代の河内平野南部地域の古地理復元を通じたジオアーケオロジーの実践研究 ―2017年度から2019年度科学研究費基盤 (C) (一般) 成果報告書―. 大阪市文化財協会 : 120pp.
- 大石久志 (2019) 大阪市立自然史博物館における双翅目標本の現況と今後の収集の方針. *はなあぶ* 48 : 27-41.
- 大石久志・柿沼 進 (2019) モモボソヒラズムシヒキ北海道に産す. *はなあぶ* 48 : 25.
- 大古場 正 (2019) 大阪市内におけるオオクビキレガイの追加調査の記録. *メランジェ* 18 (3) : 4-5.
- 大宮正也 (2019) アマミホソイエバエの愛知県, 岐阜県, 京都府の記録. *はなあぶ* 48 : 6-7.
- 大宮正也 (2019) 大阪市立自然史博物館所蔵の稀なヤドリバエ科標本. *はなあぶ* 48 : 8-10.
- 大谷道夫 (2020) Web公開された「磯でみかけるカイメンの図鑑」の紹介. *わだつみ* 2 : 57-58.
<http://9765145552aa0409.lolipop.jp/wp-content/uploads/pdf/wadatsumi002.pdf>
- 笹岡康則・安藤清志 (2019) 宮崎県で採集された珍しいゴミムシダマシ 6 種の記録. *Sayabane New Series* 35 : 73-74.
- 佐藤隆春・田結庄良昭 (2019) 「科学的特性マップ」に関するNUMO説明会での質疑から見てきたもの. *地学教育と科学運動* 82 : 23-28.
- 洪川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人 (2019) 静岡県産ミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). *東海自然誌* (12) : 29-96.
- 島 絵里子・岩崎誠司 (2020) 盲学校・視覚特別支援学校に開かれた学習プログラムの開発・検討―『ミュージアム・タイムトラベル太古の地球さがし』の事例から―. *日本ミュージアム・マネージメント学会研究紀要* 24 : (印刷中)
- 島 絵里子・八木下志麻・小川義和・稲垣成哲 (2019) 成人盲ろう者の化石の触察体験に関する一考察 ―盲ろう者支援センターへの博物館出前講座でのインタビュー調査から―. *日本科学教育学会年会論文集* 43 : 115 -118.
- Shima, E., Yagishita, S., Tsuchiya, J., Ogawa, Y. and Inagaki, S. (2019) A qualitative study on the experience of a visit to the Natural History Museum by deaf-blind adults-With a focus on the experience of the Hands-On Exhibition-Proceedings of ICOM NATHIST Kyoto-Osaka 2019 : 117-123.
- 島 絵里子・八木下志麻・土屋順子・小川義和・稲垣成哲 (2020) 身体的活動と記憶―盲ろう者の博物館体験に関するインタビューからの一考察―. *日本科学教育学会研究会研究報告* 34 (6) : 7-10.
- Shin, H-H., Li, Z. and Matsuoka K. (2019) Reclassification of *Gyrodinium flavescens* Kofoid & Swezy as *Torquentidium flavescens* comb. nov. (Ceratomyxidae, Dinophyceae), based on morphology and phylogeny. *Phycologia*: doi.org/10.1080/00318884.2019.1709396
- Shin H-H., Li, Z., Mertens, N.K., Gu, H.F. Matsuoka, K. (2019) *Prorocentrum shikokuense* Hada and *P. donghaiense* Lu are junior synonyms of *P. obtusidens* Schiller, but not of *P. dentatum* Stein (Prorocentrales, Dinophyceae) *Harmful Algae* 89: doi.org/10.1016/j.hal.2019.101686
- Suzuki, T., Oseko, N., Kimura, S. and Shibukawa, K. (2019) Two new species of torrential gobies of the

- genus *Rhinogobius* from the Ryukyu Islands, Japan. Bulletin of Kanagawa Prefecture Museum (Natural Science) 49: 7-28.
- 平 祥和 (2020) 奈良県春日山原始林の小溪流における水生動物相 (1) 小溪流の瀬における水生動物群集と水生昆虫成虫の採集記録. 陸水生物学報 34: 1-10.
- 玉川晋二郎 (2020) 身近な場所で採集されたヤママユガ科の蛾. へりぐろ 41: 12.
- 玉川晋二郎 (2020) 香川県におけるクスベニヒラタカスミカメの分布状況. 徳島県立博物館研究報告 30: 107-108.
- 玉川晋二郎 (2020) 高知市で発見されたクスベニヒラタカスミカメ. 徳島県立博物館研究報告 30: 109-110.
- 玉川晋二郎・黒川康嘉 (2020) 香川県の屋島におけるアリジゴクの記録. 徳島県立博物館研究報告 30: 45-50.
- 谷田一三 (2019) 川虫から見たコケ植物. 矢作川研究所季刊誌RIO 213: 4.
- 一柳秀隆・金澤裕勝・江崎保男・谷田一三 (2019) 水源地生態研究会の2018年度成果. 平成30年度水源地環境技術研究所所報: 53-56.
- 谷本正浩 (2019) 関西恐竜情報. From M (74): 1-2.
- Tsukagosi, M., Sawada, K. and Akimoto S. (2019) A fossil aphid gall from the middle Pleistocene sediment in Hyogo Prefecture, western Japan. Entomological Science 22: 270-274.
- 上地健琉・西山綺音・阿部晟大・太古場 正 (2020) 大阪府におけるハハクオナジマイマイの記録. ちりぼたん 50 (1): 149-154.
- 植村修二・長谷川匡弘 (2020) 大阪湾の人工島, 夢洲で見つけた小葉型のナンキンハゼ. 近畿植物同好会々誌 43: 13-16.
- Wada, H., Suzuki, T., Senou, H. and Motomura, H. (2020) *Plectranthias ryukyuensis*, a new species of perchlet from the Ryukyu Islands, Japan, with a key to the Japanese species of *Plectranthias* (Serranidae: Anthiadinae). Ichthyological Research: <https://doi.org/10.1007/s10228-019-00725-6>.
- 和田恵次・渡部哲也 (2019) 砂浜フィールド図鑑 (3) 砂浜のカニ類. 海の生き物を守る会.
- 渡辺克典・児嶋康成・児嶋高德・児嶋恭平 (2020) 和歌山市深山の和泉層群主部相から発見された硬骨魚類の鱗化石. メランジェ 19 (1): 2-4.
- 山本好和・土永浩史. 2019. 奈良県上北山村大台ヶ原山の地衣類. 南紀生物 61: 52-58.
- 山本好和・井内由美・平山吉澄. 2019. 兵庫県産の興味ある地衣類 I. 南紀生物 61: 48-51.
- 山本好和・盛口 満・佐藤寛之・杉本雅志・杉本まゆみ・多和田匡. 2019. 沖縄県国頭郡国頭村安波の地衣類. 南紀生物 61: 107-109.
- 山本好和・高萩敏和・坂東 誠・河合正人 (2019) 京都府産の興味ある地衣類IV. 南紀生物 61: 131-135.
- 吉成 暁・高野彩子・田村美美子・鳥居春己 (2020) 奈良公園春日山原始林の底生動物相. 紀伊半島の野生動物 (12): 9-35.
- Yurimoto, T., Maung-Saw-Htoo-Thaw, Nyo-Nyo Htun, Matsuoka, K. and Koike, K. (2019) Preliminary physiological study on the edible wild bivalves in Myeik, Myanmar, Asian Fisheries Science, 32: 81-87. doi.org/10.33997/j.afs.2019/32.2.005

X. 収蔵資料を利用した研究

収蔵資料を研究材料として利用し、2017年度に寄贈された 文献リストは次の通りである。(学芸員・外来研究員の業績 としてあげたものは除く)。

■昆虫標本関係

収蔵標本をタイプ標本として以下の種が記載された。

Kuroda, K. & Ohishi H., (2019) Taxonomic review of the genus *Ammophilomima* (Diptera: Asilidae: Leptogastrinae) in Japan. Zootaxa 4646 (2): 357-368.

- *Ammophilomima rikioi* sp. nov. (Holotype)

- *Ammophilomima amamiensis* sp. nov. (Paratype)

Watanabe K. & Matsumoto R. (2019) Review of the Genus *Pimpla* Fabricius, 1804 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Pimplinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology 25(2): 217-224.

- *Pimpla monticola* sp. nov. (Paratype)

Konishi, K. & Matsumoto, R. (2019) Two new species of the genus *Pristaulacus* (Hymenoptera, Evaniioidea, Aulacidae) from Japan. Zootaxa, 4551 (4): 445-454.

- *Pristaulacus ohishii* sp. nov. (Holotype)

- *Pristaulacus uenoi* sp. nov. (Paratype)

Okayasu J. (2020) Velvet ants of the tribe Smicromyrmini Bischoff (Hymenoptera: Mutillidae) of Japan. Zootaxa 4723 (1): 1-110.

- *Ephucilla brevitegula* Okayasu, sp. nov. (Paratype)

■植物標本庫関係

鳴橋直弘 (2020) バラ科キイチゴ属の日本産2新品種

- ハナタチモミジイチゴとクロミノナワシロイチゴ.
植物研究雑誌 95 (2) : 123-125.
- Nakamasu R., Sakaguchi S., Setoguchi H. (2020)
Development and Characterization of EST-SSR
Markers for *Tricyrtis* sect. *Tricyrtis* (Liliaceae). Acta
Phytotaxonomica et Geobotanica 71(1) : 73-76.
- Takano A. (2020) Taxonomic Study of *Salvia*
lutescens (Lamiaceae) : Lectotype Designations and
Proposal for a New Variety, var. *occidentalis*. Acta
Phytotaxonomica et Geobotanica 71(1) : 45-53.
- 鳴橋直弘・久米修 (2019) バラ科キイチゴ属ゴシヨモ
ミジイチゴの新産地とその果実. 大阪市立自然史博物
館研究報告. 73 : 13-18.
- 山本好和・高萩敏和・坂東誠・河合正人 (2019) 大阪
府地衣類資料Ⅲ. 箕面公園 (箕面市) の地衣類相お
よび興味深い 2 種について. 大阪市立自然史博物館
研究報告 73 : 107-114.
- 末次健司・福永裕一 (2020) ムロトムヨウラン (ラン
科) を鹿児島県の黒島, 中之島および奄美大島から
記録する. 大阪市立自然史博物館研究報告 73 : 19-
21.
- Kadono Y., Iida S. (2019) A New Variety of
Potamogeton × *leptocephalus* Koidz., var. *fujiensis*,
Endemic to the Fuji Five Lakes and Lake
Ashi, Central Japan. Acta Phytotaxonomica et
Geobotanica 70(3) : 173-182.
- Kadono Y., Noda T., Tsubota K., Shutoh K., Shiga
T. (2019) The Identity of an Alien *Utricularia*
(Lentibulariaceae) Naturalized in Japan. Acta
Phytotaxonomica et Geobotanica 70(2) : 129-134.
- Fujii S., Yamashiro T., Horie S., Maki M.
(2019) *Crassula peduncularis* and *C. saginoides*
(Crassulaceae), Newly Naturalized in Japan, and
their Genetic Differences from *C. aquatica*. Acta
Phytotaxonomica et Geobotanica 70(2) : 119-127.
- Mizusawa L., Ishikawa N., Yano O., Fujii S., Isagi
Y. (2019) Geographic Distribution of Ploidy
Levels and Chloroplast Haplotypes in Japanese
Clerodendrum trichotomum s. lat. (Lamiaceae). Acta
Phytotaxonomica et Geobotanica 70(2) : 87-102.
- 藤井伸二 (2019) 公開標本データの信頼性に関する検
討事例 : マメダオシ (ヒルガオ科). 日本生態学会誌
69 (2) : 127-131.
- 黒田有寿茂・小館誓治 (2019) 兵庫県南東部のアカマ
ツ・コナラ二次リンにおけるカキノハグサの生育立
地特性. 植生学会誌 36 : 1-16.
- Katsuhara K.R., Nakahama N., Komura T., Kato M.,
Miyazaki Y., Isagi Y., Ito M., Ushimaru A. (2019)

Development of microsatellite markers for the
annual andromonoecious herb *Commelina communis* f.
ciliata (Commelinaceae). Genes & Genetic Systems
94(3) : 133-138.

Tsukagoshi M., Sawada K., Akimoto S. (2019) A fossil
aphid gall from the middle Pleistocene sediment in
Hyogo Prefecture, western Japan. Entomological
Science 22 : 270-274.

XI. その他

当館は「科学研究費補助金取扱規程 (昭和40年 3 月
30日文部省告示第110号)」第 2 条で定める研究機関の
指定を単独で受けていたが、平成31年 4 月 1 日の大阪
市博物館機構の設立に伴い、機構が研究機関の指定
(機関番号84433) を受け、当館は機構の一部局となっ
た。そのため、同日付で「大阪市立自然史博物館」
(機関番号84402) の指定解除を届け出た。詳しい経緯
は本号巻頭言を参照。

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

I. 寄贈および交換標本

■動物研究室

貝塚市のアオサギ	1点	浦野 信孝氏
五月山動物園のニワトリ	1点	五月山動物園
富田林市のスッポン	1点	樽野 博幸氏
福井県のアナグマ	1点	丸井 英幹氏
山梨県のイタチ	1点	阿久津淳子氏
阿倍野区のイタチ	1点	小林 温氏
高石市のイタチ	1点	河越 恵美氏
奈良県のイタチ	1点	河原 和子氏
滋賀県のイタチ	1点	武村 量慈氏
奈良県のイタチ	1点	前田 みさ氏
大阪湾のスナメリ	3点	海 遊 館
和歌山県のアオウミガメ	1点	宮越 和美氏
沖縄県のタイマイ	1点	池田 裕介氏
八尾市のシロハラ・トラツグミ	2点	川瀬 成吾氏
福岡県のクログミ	1点	清水 孝良氏
住之江区のスズメ	1点	東野 敏行氏
西区のスズメ	1点	東松 悟司氏
堺市のアオジ・シメ	2点	

大阪府立大学里環境の会O P U

能勢町のコシアカツバメ	1点	難波希美子氏
奈良県のツバメ	1点	中井 悦子氏
鹿児島県にシロハラクイナ	1点	藤田 芙美氏
大阪府の外来魚他	85点	

プロジェクトA魚班参加者

和歌山県のミミズハゼ類	38点	
-------------	-----	--

大阪湾海岸生物研究会

八尾市のアオバト	1点	奥田 幸男氏
池田市のアオバト	1点	今城香代子氏
住吉区のドバト	1点	古谷亜矢子氏
兵庫県のドバト	1点	酒田千佳子氏
天王寺動物園のシマウマ	1点	天王寺動物園
南ジョージア島のジェンツーペンギン	1点	

藤田 茂夫・藤田久美子・宮田 静子氏

長居のネコ	1点	
-------	----	--

鳥山 寛・鳥山 知子氏

池田市のシカ	1点	
--------	----	--

ジュニア自然史クラブ

貝塚市のアカハライモリ	1点	西澤真樹子氏
三重県のアカウミガメ	1点	宮越 和美氏
アクア・トトぎふのカリフォルニアアシカ	1点	

世界淡水魚園水族館

沖縄県のフイリマングース	4点	中田 勝士氏
高槻市のスズメ	1点	林 三知代氏
能勢町のキセキレイ	1点	西澤真樹子氏
日本海の <i>Stephanasterias albula</i>	2点	木暮 陽一氏
五月山動物園のヒツジ	1点	五月山動物園
山口県のトビ	1点	沖田 絵麻氏
奈良県のハシブトガラス	1点	萩巢 樹氏
鹿児島県のリュウキュウコノハズク	1点	

吉川 明宏氏

羽曳野市のアオバズク	1点	井関 浩光氏
茨城県のユリカモメ	1点	小林 毅生氏
京都府のキジ	1点	福田 和夫氏
堺市のアオサギ	1点	浦野 信孝氏
オカメインコ	1点	竹村 望氏
大阪市淀川のヌートリア	15点	

環境省近畿地方環境事務所野生生物課

和歌山県のタヌキ	1点	下村 芳生氏
和歌山県のアナグマ	1点	熊谷大二郎氏
和歌山県のアカウミガメ	1点	宮越 和美氏
千葉県海鳥	9点	安達 直孝氏
岸和田市のトノサマガエル	2点	秋田 耕佑氏
三重県のハシボソミズナギドリ	9点	安達 直孝氏
京都府のアオサギ	1点	岸本 良介氏
浪速区のスズメ	1点	浦野 千尋氏
住吉区のスズメ	1点	中尾 はな氏
箕面市のカワセミ	1点	甲斐あゆみ氏
京都府のトラツグミ	1点	稲本 雄太氏
和歌山県のアオバズク	1点	鳥山 寛氏
富田林市のオカメインコ	1点	林 瑞樹氏
交野市のシジュウカラ	1点	

大阪市立大学理学部附属植物園

阪南市のカワウとハシボソガラス	2点	三宅 壽一氏
京都府のタヌキ	1点	西澤 雅子氏
城東区のキビタキ	1点	藤崎 裕氏
北海道のタヌキ	1点	中村真樹子氏
箕面市のアライグマ	1点	奥田 幸男氏
吹田市のネコ	1点	香川万里子氏
滋賀県のネコ	1点	西澤真樹子氏
ネコ(スコティッシュフォールド)	1点	大淵 明子氏
奈良県のキツネ	1点	河原 和子氏
和歌山県のギギ	1点	小林 温氏

資料収集保管事業

島根県のシャコガキ・アツヒメガキ	2点	浜口 昌巳氏	此花区のキクイタダキ	1点	浦野 信孝氏
兵庫県のシカ、堺市のムシクイ類	2点	浦野 信孝氏	泉佐野市のドバト	1点	角田 真穂氏
淀川のチャネルキャットフィッシュ他	12点	谷 壽一氏	豊中市のマミジロ	1点	堤 奈央氏
奈良県のテン	1点	木下 進氏	淀川のチャネルキャットフィッシュ	10点	谷 壽一氏
奈良県のテン	1点	前田 露氏	岬町のヒヨドリ	4点	森田 諒氏
山口県のテン	1点	橋本 順子氏	堺市のアカハラ	2点	浦野 信孝氏
天王寺動物園のシマウマ	1点	天王寺動物園	和歌山県のメジロ	1点	市道 明宏氏
天王寺動物園のトラ	1点	天王寺動物園	箕面市のイカル	1点	林 朋輝氏
三重県の実鳥	12点	宮越 和美氏	長居のタヌキ	1点	西澤真樹子氏
京都府のツツドリ	1点	高橋 悠馬氏	徳島県のニホンジカ	1点	木下 雅夫氏
五月山動物園のベネットアカクビワラビー	1点	五月山動物園	滋賀県のタヌキ	1点	中尾 茂氏
岬町のニホンヤモリ	2点	佐藤 広康氏	三重県のイタチ	1点	中村 肇氏
滋賀県のタヌキ	2点	中尾 茂氏	チワワ	1点	広瀬 正美氏
岡山県のテン	1点	谷 幸三氏	大東市・豊中市のヌートリア	2点	青木 崇博氏
奈良県のテン	1点	河原 和子氏	鳥羽市の無脊椎動物	29点	大阪湾海岸生物研究会
宮城県のテン	1点	山田虹太郎氏	佐賀県の無脊椎動物	2点	濱口 春代氏
奈良県のテン	1点	木村 全邦氏	大阪湾南岸の底生生物	26点	大阪湾海岸生物研究会
山口県のテン	1点	橋本 順子氏	高石市の無脊椎動物	2点	大阪湾フォーラム観察会参加者
池田市のテン	1点	今城香代子氏	大阪湾沿岸の底生生物	26点	大阪湾生き物一斉調査参加者・団体
東住吉区のイタチ	1点	松下 宏幸氏	天王寺動物園のピューマ他	11点	天王寺動物園
羽曳野市のイタチ	1点	小田 隆氏	京都府のメボソムシクイ	1点	山田 明子氏
宮城県のツチガエル	1点	西澤真樹子氏	茨城県のクロガモ	4点	宮越 和美氏
三重県のハシボソミズナギドリ	29点	宮越 和美氏	三重県のオオバン	4点	宮越 和美氏
京都府のシメ	1点	渡辺 雄二氏	三重県のハシボソミズナギドリ他	14点	安達 直孝氏
天王寺区のコサメビタキ	1点	藤本竜之介氏	愛知県のオオコシオリエビ	2点	稲本 雄太氏
堺市のキビタキ	1点	青山 美保氏	阪南市のコツブムシ	1点	小林 温・小林 春平氏
兵庫県のキビタキ	1点	曳野亥三夫氏	兵庫県のイシガイ	2点	松本 馨氏
兵庫県のツバメ	1点	勝間田玲子氏	池田市のオオケマイマイ	1点	樽野 博幸氏
岡山県のカワセミ	1点	上野 太資氏	高槻市のハクビシン	1点	森本 哲氏
交野市のカワセミ	1点	原田 尋子氏	京都府のアナグマ	1点	西澤真樹子氏
北区のオオルリ	1点		大阪湾の無脊椎動物	1点	大阪湾海岸生物研究会
積水ハウス環境推進部			五月山動物園のモルモット	1点	五月山動物園
沖縄県のハダカアサギヒトデ	2点	木暮 陽一氏	大分県のタイワンリス	20点	安田 雅俊氏
門真市のオカモノアラガイ	1点	西川 和夏氏	三重県のホシハジロ	1点	宮越 和美氏
島根県のイノシシ、堺市のタヌキ	2点	浦野 信孝氏	兵庫県のホシハジロ	1点	西澤真樹子氏
奈良県のイノシシ	1点	河合 正人氏	青森県のスズガモ	1点	小野寺 歩氏
茨木市のヌートリア	1点	奈良崎浩美氏	兵庫県のホシハジロ	1点	森川 尚幸氏
堺市のオオバン	1点	山田琉太郎氏	兵庫県のハイタカ	1点	下口 凌汰氏
北区のキビタキ	1点		北区のキクイタダキ	1点	積水ハウス環境推進部
三重県のオオミズナギドリ	1点	宮越 和美氏			
奈良県のキジ	1点	武村 量慈氏			
和歌山県のチュウサギ	1点	安達 直孝氏			

三重県のカムリカイツブリ・ヒドリガモ	2点	宮越 和美氏
京都府のオシドリ	1点	船津 さくら氏
端脚類標本	54点	有山 啓之氏
兵庫県のハセイルカ	1点	花野 晃一氏
箕面市のアナグマ	1点	
小田 隆・西澤真樹子氏		
交野市のタヌキ	1点	
大阪市立大学理学部附属植物園		
徳島県のシカ	1点	木下 雅夫氏
天王寺動物園のチュウゴクオオカミ他	177点	天王寺動物園
泉佐野市のイノシシ	1点	小林 温氏
茨木市のシカ・イノシシ	4点	
ジュニア自然史クラブ		
滋賀県のイノシシ	1点	宮崎 息吹氏
岸和田市阪南2区の魚類	633点	
大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター		
大和川水系の魚類	54点	梅原 徹氏
兵庫県成ヶ島のハゼ類	2点	花岡 皆子氏
大和川のヌマチチブ	2点	和田 俊章氏
大阪湾沿岸の魚類	4点	
大阪湾海岸生物研究会		
大阪府の外来魚等	87点	
プロジェクトA魚班参加者		
淀川水系のチャネルキャットフィッシュ他	16点	谷 壽一氏
■昆虫研究室		
日本産ハチ目	8,000点	藤江 隼平氏
日本産昆虫	7,394点	
河原 秀夫、誠一氏		
奈良県産ヒメドロムシ	976点	富永 修氏
日本産甲虫	1,980点	富永 修氏
国内外産コガネムシ科パラタイプ	9点	越智 輝雄氏
直翅類ほか	18点	河合 正人氏
日本産ガ類ほか	2,021点	井上 宗二氏
日本産甲虫	320点	横関 秀行氏
日本産ハネカクシタイプシリーズ	14点	林 靖彦氏
日本産コメツキムシ科甲虫	45,000点	大平 仁夫氏
大阪市内産甲虫	134点	山崎 一夫氏
ヤクシマエゾゼミ	1点	原田 耕平氏
尼崎市産昆虫	231点	大宮 文彦氏
ミャンマー産ハンミョウホロタイプ	7点	堀 道雄氏
ヒメアカホシテントウ	-11点(交換)	

Andrzej Bienkowski 氏		
モンクチビルテントウ	1点	伊藤 将大氏
国内外産ハチ目	18,150点	大草 伸治氏
日本産ハエ目	420点	大宮 正也氏
日本産ヒメバチ	438点	伊藤 竜大氏
国内外産トビケラ目	6,000点	谷田 一三氏
日本産甲虫	830点	石濱 宣夫氏
日本産昆虫	23点	河合 正人氏
フレンチギアナ産昆虫	1,261点	富永 修氏
日本産ハネカクシ完模式標本	2点	伊藤 建夫氏

■植物研究室

教材用標本	一式	
須磨学園高等学校中学校		
ウロコナズナ	1点	植村 修二氏
ナガエアズマツメクサ	1点	有川佳代子氏
Verbena属	1点	
市川 顕彦、西元 大作氏		
京都府新産のオオユリワサビ、オオフユイチゴ含む近畿地方植物	316点	澤田 徹氏
杉山信夫市収集冬虫夏草標本	34点	佐野 修二氏
関西菌類談話会きのご展展示標本	53点	森本 繁雄氏
水生植物	429点	山ノ内崇志氏
箕面市産タケ亜科植物	3点	今城香代子氏
フユイチゴ類標本	48点	澤田 徹氏
シラウオタケ他	4点	升本 宙氏
日本産植物	226点	藤井 伸二氏
近畿地方産植物	一式	藤井 俊夫氏
大阪南部地方シダ類標本	2,050点	辻井 謙一氏
マダケ属(今宮戎神社で配布していたもの)	点	大江 彩佳氏
ヒガタアシ	5点	中村 肇氏
近畿地方産植物標本	57点	小林 禧樹氏
京都府産、近畿地方産標本	123点	澤田 徹氏
上田俊穂氏収集菌類液浸標本	350点	上田 俊穂氏
上田俊穂氏収集菌類標本	700点	上田 俊穂氏
児玉友子 児玉務東アジア産蘚苔類標本	1,200点	
北川尚志 アジア産蘚苔類標本	200点	

■地史研究室

ゾウ白歯	1点	山下 広吉氏
ウシ、ウマ	3点	岩本 啓氏
シカ	1点	紀平 肇氏
メタセコイヤ化石など	5点	
Steven R. Manchester氏		

■第四紀研究室

海浜砂	1点	石田 滯・石田 惣氏
海浜砂	2点	大江 彩佳氏
海浜砂	7点	河上 康子氏
海浜砂	1点	下村 晴美氏
海浜砂	3点	菅森 義晃氏
海浜砂	3点	樽野 博幸氏
海浜砂	3点	中尾 茂氏
海浜砂	1点	中尾 茂氏・中尾 はな・中尾健太郎氏
海浜砂	1点	藤江 隼平氏
海浜砂	57点	古谷亜矢子氏
海浜砂	1点	森川 幸祐氏
海浜砂	3点	横山 康子氏
海浜砂	1点	吉田 晴彦氏
海浜砂	2点	渡邊 岳志氏
大阪市内ボーリング資料		
大阪市都市整備局24件、大阪市消防局10件 計34件		
中央構造線断層帯重点調査		
岩出ボーリングコア 京都大学防災研究所 1件		

Ⅱ. 館員による収集

■動物研究室

担当学芸員は、和田…W, 石田… I, 松井…Mと略記する。

大阪市此花区舞洲でスジイルカ漂着死体を回収
(5月、W)

和歌山県美浜町でコビレゴンドウ漂着死体を回収
(9月、W、I)

兵庫県洲本市成ヶ島でハセイルカ漂着死体を回収
(2月、W)

大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集
(4～6、8～9月、I)

大阪府泉南市・阪南市で汽水性無脊椎動物を採集
(5、7、9、1月)

大阪府で陸産無脊椎動物を採集 (5～6月、I)

大阪湾(神戸沖)で海産無脊椎動物を採集
(10月、I、M)

和歌山県白浜町で海産無脊椎動物を採集 (6月、I)

和歌山県串本町で海産無脊椎動物を採集 (8月、I)

滋賀県長浜市で淡水産無脊椎動物を採集
(9～10月、I)

兵庫県西宮市で海産無脊椎動物を採集 (1月、M)

大阪府岬町・和歌山県和歌山市で汽水・海産魚類を採集
(4～6、8、9月、M)

兵庫県高砂市～たつの市で汽水・海産魚類を採集

(6月、M)

三重県鳥羽市～熊野市で汽水・海産魚類を採集
(7月、M)

和歌山県田辺市～新宮市で汽水・海産魚類を採集
(7月、M)

和歌山県和歌山市～有田市で汽水・海産魚類を採集
(8月、M)

静岡県伊東市～愛知県豊橋市で汽水・海産魚類を採集
(8月、M)

■昆虫研究室

担当学芸員は、初宿…S, 松本…M, 長田…Oと略する。

4月2日	京都府八幡市	昆虫一般 (M)
4月7日	奈良県曽爾村	ウスバカゲロウ (M)
4月12日	奈良県大和郡山市	昆虫一般 (M)
4月16日	東京都各地	昆虫一般 (O)
4月19日	奈良県天川村	クモとその寄生者 (M)
4月26～29日	沖縄県石垣市	昆虫一般 (M)
5月3日	大阪府堺市	昆虫一般 (O)
5月6日	埼玉県さいたま市	昆虫一般 (O)
5月7日	東大阪市枚岡公園	昆虫一般 (M)
5月8日	滋賀県彦根市	ハルゼミ (S)
5月9日	千葉県各地	昆虫一般 (O)
5月10日	神戸	ハルゼミ・外来昆虫 (S)
5月10日	泉南市	昆虫一般 (M)
5月11日	能勢町	昆虫一般 (M)
5月12日	兵庫県小野市	昆虫一般 (M)
5月12日	和歌山県田辺市	ミカドアゲハ (O)
5月13日	奈良県奈良市	昆虫一般 (M)
5月15日	枚方市尊延寺	昆虫一般 (M)
5月15日	京都市桂川	外来昆虫 (S)
5月22日	奈良県天川村	クモとその寄生者 (M)
5月24日	京都市伏見区淀	外来昆虫 (S)
5月25日	大阪市十三	ハチ (M)
5月26日	泉南市	昆虫一般 (M)
5月27日	奈良県奈良市	ウスバカゲロウ (M)
5月27日	比叡山	ハルゼミ (S)
5月30日	滋賀県甲賀市	ハルゼミ (S)
6月2日	奈良県天川村	クモとその寄生者 (M)
6月4日	京都府八幡市	昆虫一般 (S)
6月4日	奈良県奈良市	昆虫一般 (M)
6月13日	奈良県天川村	クモとその寄生者 (M)
6月16日	兵庫県南あわじ市	ウスバカゲロウ (M)
6月17日	滋賀県彦根市	分布拡大昆虫 (S)
6月21日	奈良県天川村	クモとその寄生者 (M)
6月23日	東京都各地	昆虫一般 (O)
6月26日	滋賀県高島市	昆虫一般 (S)

7月26日	千葉県各地	昆虫一般 (O)	12月8日	奈良県大和郡山市	昆虫全般 (M)
7月2日	大阪府都島区	大阪市内甲虫 (S)	12月9日	箕面市	外来昆虫 (S)
7月4日	奈良県明日香村	昆虫一般 (M)	12月30日	東京都世田谷区、大田区	カメムシ (O)
7月5日	能勢町	昆虫一般 (M)	12月31日	埼玉県さいたま市	カメムシ (O)
7月5日	京都府福知山市	セミ (S)	1月3日	東京都板橋区	カマキリ (O)
7月7日	淡路島	セミ (S)	1月6日	高槻市鶴殿	昆虫全般 (M)
7月10日	三重県伊勢市	セミ (S)	2月2日	奈良県御所市	テントウムシ (S)
7月11日	奈良市	セミ (S)	3月15～18日	宮崎県綾町	昆虫一般 (S)
7月12日	神戸	外来昆虫 (S)	■植物研究室 担当学芸員は、佐久間…S, 長谷川…H, 横川…Y, と略記する。		
7月13日	奈良市	セミ (S)			
7月14日	泉佐野市犬鳴	セミ (S)	4月2日	滋賀県甲賀市	植物一般 (Y)
7月15日	奈良県桜井市・天理市	セミ (S)	4月4日	大阪市内	植物一般 (H)
7月16日	和歌山県日高川町	外来昆虫 (S)	4月5日	大阪市内	植物一般 (H)
7月22日	兵庫県猪名川町	セミ (S)	4月9日	大阪市内	植物一般 (H)
7月24日	奈良県大和郡山市	昆虫展番組収録 (M)	4月15日	高槻市	植物一般 (Y)
7月27～28日	長野県阿智村	昆虫一般 (M)	4月18日	大阪市内	植物一般 (H)
8月29日	東京都各地	昆虫一般 (O)	4月20日	大阪市内	植物一般 (H)
8月2日	兵庫県南あわじ市	昆虫一般 (M)	4月23日	大阪市内	植物一般 (H)
8月6日	京都府京丹後市	昆虫一般 (M)	4月25日	大阪府豊能町	植物一般 (H)
8月7日	柏原市	セミ (S)	4月26日	和泉葛城山	菌類資料収集 (S)
8月9日	高野山	昆虫一般 (S)	4月30日	大阪府豊能町	植物一般 (H)
8月10日	高槻市	セミ (S)	5月5日	宝塚市	植物一般 (Y)
8月11日	太子町	セミ (S)	5月6日	大阪市内	植物一般 (H)
8月12日	奈良県天川村	昆虫一般 (M)	5月7日	大阪市内	植物一般 (H)
8月14日	服部緑地	セミ (S)	5月30日	大阪市内	植物一般 (H)
8月22・29日	滋賀県高島市	セミ (S)	5月10日	阪南市	植物一般 (Y)
8月23日	交野市	セミ (S)	5月15日	大阪市内	植物一般 (H)
8月26～9月9日	ベトナムクックフォン国立公園	昆虫一般 (M)	5月16日	大阪市内	植物一般 (H)
9月2日	八尾市	外来昆虫 (S)	5月19日	宝塚市	植物一般 (Y)
9月9日	岡山市	外来昆虫 (S)	5月22日	大阪市内	植物一般 (H)
9月10日	京都市山科区	外来昆虫 (S)	5月24日	滋賀県大津市	植物一般 (Y)
9月12日	兵庫県尼崎市	外来昆虫 (S)	6月4日	大阪市内	植物一般 (H)
9月15・17日	滋賀県大津市	外来昆虫 (S)	6月12日	大阪市内	植物一般 (H)
9月17日	京都府八幡市	昆虫一般 (M)	6月13日	大阪市内	植物一般 (H)
9月18日	奈良県大和郡山市	昆虫一般 (M)	6月21日	大阪市内	植物一般 (H)
9月23日	東京都各地	昆虫一般 (O)	6月24日	大阪市内	植物一般 (H)
9月27・10月3日	京都府八幡市	昆虫一般 (S)	6月30日	箕面公園	菌類資料収集 (S)
10月7日	大阪府南港	外来ツチバチ (M)	7月3日	大津市(本郷家)	菌類資料調査 (S)
10月8日	和歌山県箕島町	外来昆虫 (S)	7月3日	大阪市内	植物一般 (H)
10月10日	福井県敦賀市	外来昆虫 (S)	7月5日	大阪市内	植物一般 (H)
10月19日	大阪府南港	外来ツチバチ (M)	7月8日	大阪市内	植物一般 (H)
10月30～11月1日	宮崎県宮崎市	ハチ (M)	7月10日	高知県高知市	植物一般 (Y)
10月28～11月6日	栃木県～長野県など	カサアブラムシ (S)	7月12日	大阪市内	植物一般 (H)
11月11日	兵庫県神戸市須磨浦	キリガ (M)	7月13日	大阪市内	植物一般 (H)
11月28日	京都府八幡市	昆虫全般 (M)	7月21～25日	東京都三宅島	ツリガネニンジン類 (H)
11月29日	兵庫県宍粟市赤西溪谷	昆虫全般 (M)	7月23日	大津市(本郷家)	菌類資料調査 (S)

資料収集保管事業

7月22～24日	島根県隠岐の島	植物一般 (Y)
7月25日	上賀茂演習林	菌類資料収集 (S)
7月26日	大阪市内	植物一般 (H)
7月29日	大阪市内	植物一般 (H)
7月29日	滋賀県	植物一般 (H)
7月31日	長崎県	ママコナ属 (H)
7月31日	東大阪市ほか	水生植物 (Y)
8月6日	羽曳野市	水生植物 (Y)
8月7日	上賀茂演習林	菌類資料収集 (S)
8月7日	大阪市内	植物一般 (H)
8月8～13日	長野県	ママコナ属 (H)
8月13日	福岡県北九州市	草原性植物 (Y)
8月20日	高槻市	水生植物 (Y)
8月22日	三重県	植物一般 (H)
8月28～31日	東京都伊豆大島	
	ツリガネニンジン類	(H)
8月30日	高槻市	水生植物 (Y)
9月9日	大阪市内	植物一般 (H)
9月10～12日	高知県	ママコナ属 (H)
9月10～13日	鹿児島県薩摩川内市ほか	植物一般 (Y)
9月16日	大阪市内	植物一般 (H)
9月17日	大阪市内	植物一般 (H)
9月18～20日	高知県	ママコナ属 (H)
9月23～24日	静岡県	ツリガネニンジン類 (H)
9月19日	摂津市ほか	水生植物 (Y)
9月24日	滋賀県長浜市	水生植物 (Y)
9月27日	大阪市内	植物一般 (H)
9月30日	大阪市内	植物一般 (H)
9月24日	大津市 (本郷家)	菌類資料調査 (S)
10月4～6日	高知県	ママコナ属 (H)
10月10日	大阪市内	植物一般 (H)
10月15日	大阪市内	植物一般 (H)
10月15日	奈良県曽爾村	植物一般 (Y)
10月16日	大台ヶ原山	植物調査 (S)
10月17日	兵庫県	ママコナ属 (H)
10月19～20日	岡山県真庭市	草原性植物 (Y)
10月21日	大阪市内	植物一般 (H)
10月23日	大阪市内	植物一般 (H)
10月28日	大阪市内	植物一般 (H)
10月28日	茨木市	植物一般 (Y)
11月7～8日	鹿児島県	ママコナ属 (H)
11月28～30日	北海道根室市他	博物館調査 (S)
11月22日	岸和田市	水生植物 (Y)
2月23日	長岡京市 (上田家)	菌類資料調査 (S)
3月30日	茨城県常総市	植物一般 (Y)

■第四紀研究室、地史研究室

担当学芸員は、石井… I, 中条… N, 田中… Tと略

記する。		
5月5日	岸和田市	火山灰分析用試料 (I)
5月29～6月3日	長崎県壱岐～対馬	海浜砂 (N)
9月6日	岐阜県大垣市	分析用試料 (I)
9月21～22日	山口県長門市～下関市	海浜砂 (N)
10月7日	高槻市	
	土壌動物分析用試料、土壌剥ぎ取り標本	(I)
10月15～18日	新潟県・山形県・秋田県	海浜砂 (N)
1月31日	大阪市浪速区	はぎ取り標本 (N、T)
2月4～6日	福岡県・佐賀県・長崎県	海浜砂 (N)
2月13日	高知県室戸市	海浜砂 (I)
2月20・21日	ニュージーランド	
	トラウエラ火山、タウポ火山の火山噴出物	(I)
3月18日	伊丹市	河原の石ころ教材用標本 (I)

Ⅲ. 現有資料数

総計 1,884,254点

■動物研究室 (令和元年度末)

海綿動物	153点
刺胞動物・有櫛動物	725点
扁形・紐形動物	460点
触手動物	165点
環形動物	7,338点
甲殻類	20,912点
軟体動物	40,968点
棘皮動物	3,052点
原索動物	507点
その他無脊椎動物	1,041点
魚類	48,579点
両生類	22,045点
爬虫類	7,912点
鳥類	8,191点
哺乳類	3,582点

(計) 165,630点

■植物研究室 (令和元年度末)

種子・シダ植物さく葉標本	300,094点
蘚類標本	36,900点
苔類標本	25,340点
地衣類標本	363点
海藻標本	12,708点
菌類標本	20,361点
木材標本	1,772点

木材プレパラート	1,283点
果実標本	6,071点

(計) 404,892点

■昆虫研究室（令和元年度末 未登録標本を含む）

日本産昆虫	
カワゲラ目	557点
カゲロウ目	10,486点
トンボ目	26,089点
カマキリ目	696点
直翅類	24,463点
ナナフシ目	560点
ハサミムシ目	594点
ガロアムシ目	99点
ゴキブリ目	660点
シロアリ目	93点
シロアリモドキ目	75点
チャタテムシ目	335点
アザミウマ目	24点
同翅類	15,682点
異翅類	32,489点
脈翅類	1,797点
シリアゲムシ目	2,050点
トビケラ目	7,720点
ガ	69,381点
チョウ	89,993点
甲虫目	452,501点
ハエ目	51,279点
ハチ目	110,287点
その他の昆虫他	17,043点
クモなど	17,415点

(計) 932,368点

外国産昆虫	
チョウ	84,400点
ガ	7,783点
ハチ目	7,807点
ハエ目	4,294点
甲虫	152,945点
脈翅類	134点
同翅類	6,434点
異翅類	2,596点
直翅系昆虫	7,080点
トンボ目	6,825点

カワゲラ目	71点
その他	3,872点
クモなど	1,582点
南太平洋学術調査コレクション	4,700点
田中竜三氏コレクション	12,439点
韓国産昆虫コレクション	1,506点
アフガニスタンの昆虫	6,143点

(計) 310,611点

(計) 1,242,979点

(2018年度館報の数値に誤りがありましたので訂正いたします。)

標本総数	誤) 1,140,0143点	正) 1,140,014点
日本産昆虫	計 誤) 832,377点	正) 832,677点
外国産昆虫	ハエ 誤) 413点	正) 4,138点

■地史研究室（令和元年度末）

古生代植物化石	185点
中生代植物化石	369点
第三紀植物化石	3,741点
岩石	1,275点
鉱物	3,035点
脊椎動物化石	3,009点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,104点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	35点

(計) 33,964点

■第四紀研究室（令和元年度末）

人類遺物	29点
第四紀植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941種
現生シダ植物胞子	362種
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,805件

(計) 36,789点

IV. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関

係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への応対に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫および旧第3収蔵庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えられるように備えているが、現在のところ、サービスを開始できていない。

令和元年度は前年度に引き続き、図書整理のアルバイト要員を配置し、精力的に登録作業を行った。登録を行なった単行本は、1,202部で、総計は23,810部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物は令和元年度に3,889冊で、当年度末現在の累計204,887冊である。

1. 個人・機関からの受贈（登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略）

●個人：Carrie Jubb、みつぎまさみつ、益田晴恵、岡部佐内、加田勝敏、岸間憲二、吉田晴彦、宮武頼夫、橋屋誠、高橋敏、佐久間大輔、山本修平、市川顕彦、志岐常正、篠木善重、春澤圭太郎、初宿成彦、上田恭一郎、上田俊穂、上野勝広、青木雅夫、石田惣、浅野博利、大橋忠幸、谷田一三、樽野博幸、池田正、池辺展生、中田みどり、中澤圭二、朝倉啓介、長谷川匡弘、塚腰実、鉄川精、田中嘉寛、田中颯・大作晃一・幸塚久典、日比肇子、飯島國昭、北川尚史、本郷次雄、鳴橋直弘、和田恵次、枡谷祥子、齊藤 悠三、平軍二、中澤圭二、本郷次雄、天野典英

●民間団体、出版社、企業、政府機関、自治体および関連団体、大学、研究所など：A. P. Karpinsky Russian Geological Research Institute、Botanical Survey of India、ICOM国際博物館会議、JT生命誌研究館、Museu de História Natural do Funchal、アイヌ民族文化財団、きしわだ自然資料館、コーベ・カメラリア・ソサエティ、こどものためのジオ・カーニバル企画委員会、たばこと塩の博物館、ひがし大雪自然館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、ライフミュージアムネットワーク実行委員会、愛媛大学

沿岸環境科学研究センター、往生院民具供養館、下村兼史100年後プロジェクト、可見市文化財課、株式会社伊勢出版、関西菌類談話会、京都大学防災研究、菌学教育研究会、近畿植物同好会、釧路市立博物館、高槻市立今城塚古代歴史館、国土交通省近神戸港湾空港技術調査事務所、国立文化財機構、国立民族学博物館、埼玉県立自然の博物館、笹川平和財団海洋政策研究所、滋賀県庁自然保護課、自然環境研究センター、自然史レガシー継承・発信実行委員会、斜里町立知床博物館、集英社、生物多様性センター、石沢コレクション図録『石沢慈鳥ーその人と仕事ー』編集委員会（山形県寒河江市）、全国科学博物館振興財団、太子町教育委員会、太地町立くじらの博物館、大阪市立大学、大阪大学総合学術博物館、大阪府都市整備部箕面整備事務所、大阪府立近つ飛鳥博物館、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林、奈良県立民俗博物館・奈良県立大和民俗公園、奈良文化財研究所、日本クモ学会、日本気象協会、日本自然保護協会、日本直翅類学会、日本博物館協会、日本野鳥の会京都支部、尾上聖子、福島県立博物館、文化財機構、北海道大学総合博物館、雄山閣、国立臺灣博物館、丹後丹波虫の会、地質標本館、むし社、大阪市立大学、菌類教育研究会

2. 購入等によるもの

●図書購入費による購入（科研費によるものを含む）

令和元年度 114冊

●消耗品費による購入 6誌

海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋、月刊むし

●学会への加入による収集

9学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生物地理学会(Biogeography, 日本生物地理学会会報)

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会(The Japanese Journal of Phycology, 藻類)

日本陸水学会(Limnology, 陸水学雑誌)

日本地学研究会(地学研究)

日本博物館協会(博物館研究)

全国科学博物館協議会(全科協ニュース)

この他、個人名での加入や交換により、会誌を受領している学会も多い。

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。

■ 研究報告など出版物の配布

令和元年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告73号	445ヶ所	457冊	364ヶ所	366冊
自然史研究 第4巻3号	346ヶ所	358冊	170ヶ所	172冊
収蔵資料目録 第50集	228ヶ所	239冊	52ヶ所	53冊
展示解説				
特別展「昆虫」				
ミニガイド No. 32「町中のコケ基本50種」	260ヶ所	274冊	0ヶ所	0冊
館報44号	630ヶ所	647冊	11ヶ所	11冊

展覧事業

自然史博物館の展示は、常設展示として大阪の自然誌展示室（無料ゾーン）、ナガスクジラなどが展示される屋外展示、本館のナウマンホール及び第1～第5展示室（うち第4展示室はギャラリーとして回廊部に設置）があり、ネイチャーホールで開催される「特別展示」や「企画展示」、本館2Fイベントスペースで開催される「テーマ展示」、小規模にコーナーで展示される「ミニ展示」などがある。近年、旧来は「特別陳列」とよんでいた臨時の展示を大小様々な形で実施していることから、上記のような形で呼称を整理している。

令和元年（2020年）度の入館者数は、常設展290,812人（うち有料132,204人）、夏期に開催された特別展「昆虫」は156,415人（うち有料71,174人）であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、447,227人であった。常設展入館者は前年度比127.4%で62,630名増、総入館者数も前年度比146%で141,056名増となった。

特別展入館者数の増に関しては、大規模の開催であった「昆虫」展の会期が70日に及び、かつ非常に好調だったことによると考えられる。常設展の増分も特別展の増分とほぼ同じなので、多くの入館者が特別展と合わせて常設展に訪れていたことが推察される。

ただし、新型コロナウイルスによる感染症拡大防止のため、2020年2月29日から臨時休館となった（臨時休館は次年度6月1日まで）。そのため、常設展だけでなく、3月1日から開催予定であった特別展「知るからはじめる外来生物～未来へつなぐ地域の自然」は開催延期、3月7日から開催予定だったテーマ展示「岸川椿蔵書」展は開催中止を余儀なくされた。

I. 常設展示

常設展示は施設の老朽化を含め改修を要する場所が多い。小規模な改修を積み重ね、維持をはかっている。今年度は以下の修正・改良を行った。

■第5展示室の機器改修

老朽化した制御コンピュータ、ジョイスティック、ハンドル、駆動系装置の改修・更新を行った。

II. 特別展示

■特別展「昆虫」

4億8000万年前に地球上に現れ、さまざまな環境に適応して著しい多様化を遂げた昆虫は、名付けられているものだけでも約100万種、実際にはその何倍も存在すると言われている。私たち人類よりもはるかに長い歴史を持ち、身近な存在である昆虫たちの、体のしくみや進化の過程で獲得した能力、多種多様な生態など、その魅力を、世界で収集された多数の標本や展示

演出で、昆虫の驚くべき世界を紹介した。全長約2メートルの巨大模型で昆虫の体の仕組みを紹介するコーナーや絶滅目アリエノプテラの琥珀標本は見どころの1つであった。また昆虫の採集方法や標本の作り方についても、プロが実際に使っている道具や実際の映像などを用いてわかりやすく紹介した。自然科学分野の展示実績が豊富な大阪市立自然史博物館で、夏休みを含めた期間に開催することで、多くの家族づれが来館され、子どもから大人まで幅広い来館者に対して、わかりやすく昆虫の魅力を伝えることを企図した。なお本展は、平成30年7月から10月に東京会場（台東区・国立科学博物館）で開催されたテーマ・展示標本を再構成した展示である。

●主な内容

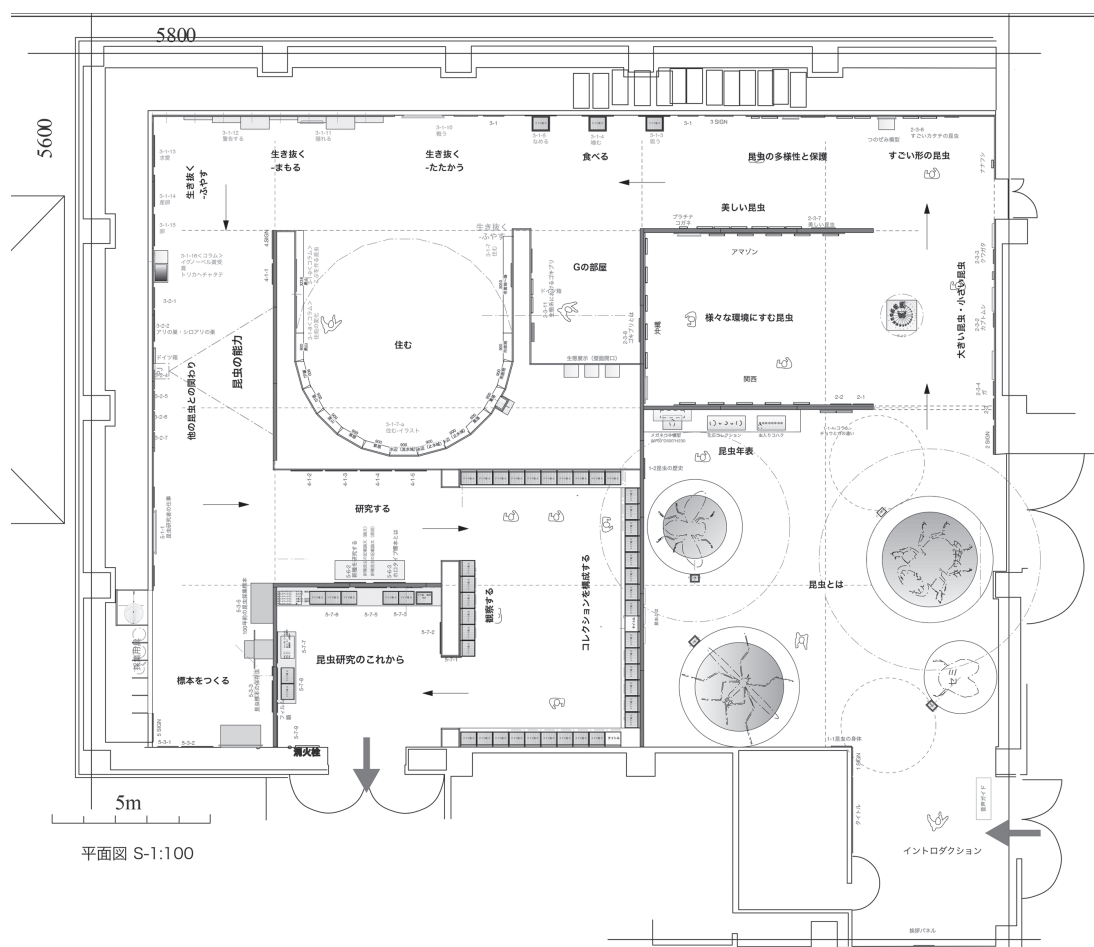
1. **昆虫とは** 標本とオオクワガタ、ニホンミツバチ、オオムラサキ、ミンミンゼミの巨大模型を使って、昆虫の体の作りを解説。
2. **昆虫年表** 昆虫の出現から各グループ繁栄の歴史を年代を追ってみていく。虫入り琥珀や化石の実物も展示。最近記載されたアリエノプテラの琥珀化石も展示。
3. **様々な環境に住む昆虫** 環境による昆虫の違いを紹介。本州、沖縄、南米と異なる地域での比較も可能とした。本州の標本は大阪展にローカライズし、当館の標本を用いた。
4. **大きい昆虫・小さい昆虫** カブトムシ、クワガタ、チョウ、ガといった様々なグループについて、小さい種から大きい種まで並べて比較できるようにした。最大のチョウとして当館に収蔵されているアレキサンドラトリバネアゲハを展示。
5. **昆虫の多様性** 美しい昆虫、変わった形の昆虫を紹介。すごい形の昆虫として九州大学博物館収蔵のツノゼミを取り上げた。
6. **食べる、生き抜く、たたかう、住む** 昆虫の様々な行動、生体をパネルと標本で展示。「住む」では、様々な環境で見られる昆虫を細かく紹介。
7. **昆虫の能力** 飛ぶ、跳ねる、昆虫の身体能力に注目し、様々な動きのメカニズムを解説するとともに、動きを投影してわかりやすく展示。
8. **他の昆虫との関わり** 特にアリと密接な関わりをもつ好蟻性昆虫を取り上げ、その興味深い関わり合いを紹介した。
9. **昆虫を研究する** 昆虫研究者の調査や研究を取り上げ、最新の研究手法についても紹介。最近新種記載されたヒメバチの標本と記載論文、スケッチなども展示し、昆虫の多様性を明らかにする研究を紹介。
10. **標本をつくる** 標本のつくり方や、採集道具、保

存方法を紹介。トラップで採集された昆虫標本も展示。

11. **コレクションを構成する** 昆虫の多様性を理解する上で重要なコレクションとそれを構築する活動を紹介。当館のコレクションから住吉コレクション、岡村コレクション、宝塚昆虫館コレクション、常木コレクションなどを展示。皇居のインベントリー調査の標本も展示。
12. **昆虫研究のこれから** モルフォの鱗粉構造を利用した構造発色繊維や反射を防ぐモスアイ構造のシートなど、昆虫のもつ構造や機能を人間生活に応用していることの紹介。
- 会 期：平成31年7月13日(土)～9月29日(日) 69日間 (8月15日台風で臨時休館)
- 主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、関西テレビ放送
- 後 援：大阪府教育委員会、大阪市教育局、堺市教育局
- 協 賛：住友生命
- 特別協力：国立科学博物館
- 協 力：九州大学総合研究博物館
- 資料貸出による協力機関等：東京大学総合博物館

北九州市立いのちのたび博物館、群馬県立自然史博物館、佐賀県立宇宙科学館、吉澤和徳（北海道大学）、三田村敏正（コクーンワールド福島）

- 観覧料**：大人 1,400円、高校生・大学生 800円、中学生以下無料。前売りで20名以上の団体は各200円引き。オリジナルスタンプケース・スタンプカード付きフリーパスは特別展会期中に限り、特別展会場のみ何度でも入場可能。（6月1日～8月12日販売：5,000円、8月29日～販売3,000円）。
- 入場者**：156,415名。うち有料 71,174名、45.5%（大人 65,047名、大人前売 4,226名、高大生 1,837名、高大生前売 64名）。無料 85,241名、54.5%。1日平均 2,267名、1日の最高入場者数 5,975名。
- 主担当学芸員**：松本吏樹郎
- 展示解説書**：国立科学博物館で作成された解説書に関西の昆虫を取り上げた大阪展独自の内容（8ページ）を追加し作成した。フルカラー、192ページ。
- 展示標本・模型点数**：34,924点
- webページ**：Google Analyticsによる特別展期間中のwebページへのアクセスは、ホームページがユーザー数140,730、ページビューは321,295ビューであった。



特別展「昆虫」展示配置図

展覧事業

●関連行事

■開会式・内覧会

開催日：7月12日（金）川端清司館長による主催者挨拶などがあり、プレス内覧参加者含め400人の招待者が出席した。

■特別リレー講演会

昆虫展を監修した昆虫研究者が、それぞれの「昆活」について講演した。

開催日：7月13日（土）

講演者：神保宇嗣、井手竜也（国立科学博物館）、丸山宗利（九州大学総合研究博物館）、松本吏樹郎（大阪市立自然史博物館） 参加者：115名

■講演会「わたしの昆活」

開催日：8月4日（日）

講演者：野村周平（国立科学博物館） 参加者：103名

■昆虫観察&ギャラリーツアー

長居植物園を散策しながら昆虫の観察を行った。終了後、展示室で簡単な解説を行った。

開催日：7月14日（日）、8月3日（土）

案 内：松本吏樹郎 参加者：各回70名

■昆虫食体験会

世界中の昆虫食文化を紹介し、その多様性を知るとともに、実際に試食を楽しんだ。

開催日：8月10日（土）

講 師：坂本 昇（伊丹市昆虫館）・松本吏樹郎

参加者：39名

■こどもワークショップ

特別展「昆虫」に関連して、小学生以下を主な対象としてワークショップを実施した。参加者数は各回合計。

「セミ・はねもようストラップ」

開催日：7月27日（土）、28日（日）、8月3日（土）、4日（日） 参加者：167名

「むしむしオリンピック」

開催日：8月10日（土）、11日（日）、17日（土）、18日（日） 参加者：230名

「こんなのいるかな むしブローチ」

開催日：7月20日（土）、21日（日）、8月24日（土）、25日（日）、8月28日（土）、29日（日） 参加者：453名

「おしえて！ハカセ カマキリ」

開催日：9月21日（土）、22日（日） 参加者：91名

●広報

■新聞 読売新聞 昆虫展（上・中・下）、週刊わいず倶楽部、週刊日日新聞「おや子新聞、奈良新聞、大阪民主新報、大阪日日新聞、チャオ！産経、神戸新聞、共同通信、時事通信、日刊放送ジャーナル。

■関西テレビ ピーチケパーチケ、ピーチケプラス、アサチケ、報道ランナーランナーマガジン、報道ニュース、キャラばら、よ〜いドン、特番 特別展昆

虫〜この夏は昆活！

■他テレビ・ラジオ 5じゃん！、チームベイコム、clap!、NHKニュース、おはよう朝日です、馬場章夫のぼらぼら千里、朝生ワイド「す・またん」、TACTY IN THE MORNING、J:com「デイリーニュース大阪」、ラジオ関西報道ニュース、Be HAPPY UMEDA、FM COCOLO 山添まり「PRIME STYLE FRIDAY」



特別展「昆虫」展示の様子 巨大模型



特別展「昆虫」展示の様子 博物館のコレクション

Ⅲ. テーマ展示及びミニ展示

■ミニ展示「新種 クマノザクラ」

期 間：2019年3月3日～4月29日

場 所：本館 1 階入口横 展示スペース

開催期間中の入館者数：31,838人（平成31年度からの開催）

■企画展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展2019～」

期 間：2019年4月27日（土）～5月26日（日）

場 所：ネイチャーホール

開催期間中の入館者数：36,340人

自然史博物館では、常設展で展示されているものだけでなく、収蔵庫に170万点を超える標本を収蔵している。これらの標本は博物館学芸員が収集したものだけでなく、市民からの寄贈や震災などの自然災害や施

設の閉鎖により廃棄される可能性のあったものをレスキューすることで加わったものもある。博物館に収集された標本群は、展示に用いられるだけでなく、研究や教育など様々な目的で使用され、社会の共有財産として未来に引き継ぐことが、博物館の使命のひとつである。企画展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展 2019～」では、主に2011年以降に当館で収集された標本を展示し、その標本の意義と博物館での資料収集活動について紹介した。岐阜県熊石洞で採集された哺乳類化石、鳴橋直弘氏（富山大学名誉教授）のバラ科・ユリ科のコレクション、昭和5年に閉館されその後ほとんどの行方が分からなくなっていた舞子介類館の貝類標本、2017年に淡路島に漂着したオキゴンドウの骨格標本などを展示した。また、2018年の大阪府北部地震で被災した追手門学院高等学校の標本とそのレスキューの意義についても展示した。

●関連行事

ギャラリートーク：4月27日（土）、5月3日（金・祝）、5月4日（土・祝）、5月11日（土）、5月18日（土）、5月26日（土）の計6回 それぞれ午後0時30分～1時

参加者数：計159人



「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展 2019～」で展示された大阪府北部地震で被災した追手門学院高等学校の魚類標本。メンテナンスを行い、博物館の標本として収蔵される。

■テーマ展示「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」

期 間：2019年12月14日（土）～2020年1月26日（日）

場 所：本館1階 ナウマンホール

会期中の来館者数：10,410人

出展者とタイトルは以下の通り。

覚野 信行：人工海岸が生き物に与えた影響Ⅱ

太田 智恵：庭の草花図鑑

横井 晴輝：ワニへの愛～ワニの全身骨格標本の作成～

久恒 将：高槻のノコギリ・ミヤマクワガタ

宮島 啓輔：関西の貝調べ

津田京太郎：はじめてつくった昆虫の標本

荒井 啓太：昆虫採集とそこにある問題について

亀田 幸助：守るぞヒマワリ！亀田家VSアワダチソウ
グンバイ

文本 一弥：トラップでこん虫大集合

大野 明俐：ワラジムシの迷路での行動実験

光石 啓明：アリの研究

小川 哲仙：きのこの観察No.5 観察と追究

犬伏エルリッヒ健太郎：ドクダミの地下茎

長瀬 夏美：シーボルト見た！印葉図ってなあに？

山本 葵暁：魚の形態調べ（鮮魚売場より）

山本 悠詩：のりの研究

柏井 さら：はじめてのひょうほん

堀江 夏妃：プラナリアの不思議

■ミニ展示「子年展」

期 間：2020年1月5日（日）～2月2日（日）

場 所：本館1階入口横 展示スペース

開催期間中の入館者数：9,311人

2020年の干支・子年にちなんで、「ネズミ」にまつわる様々な生き物を展示した。アカネズミの本剥製や最大のネズミ・カピバラの頭骨、穂がネズミの尾に似ていることから名付けられたネズミノオ（イネ科）、前翅の白い3つの紋がネズミの顔の輪郭に似ているミツボシキリガなどを展示した。

■ミニ展示「コケを学ぶ」

コケ植物の分類や生活、観察の楽しみを紹介した。高槻市立自然博物館あくあびあ芥川で2019年3月9日～6月16日に開催された企画展「小さな緑・コケって不思議」の展示パネルを借用し、当館所蔵の標本を展示した。展示作成には友の会評議員の道盛正樹氏の協力を得た。

期 間：2019年11月16日（土）～12月27日（金）

場 所：本館2階ギャラリー

協 力：高槻市立自然博物館あくあびあ芥川

開催期間中の入館者数：28,587人

■テーマ展示「岸川椿蔵書」

期 間：2020年3月7日（土）～4月5日（日）

場 所：本館2階イベントスペース

臨時休館により中止

長崎県五島市で開催予定であった2020 International Camellia Congress in Gotoのポストエクスカッションに合わせた企画として、岸川椿蔵書から和洋の椿関連貴重書の展示を準備していたが、新型コロナウイルス感染症による臨時休館のため公開できなかった。なお、展示の様子はYou Tubeの大阪市立自然史博物館チャンネルから見るができる。

■ユニークベニユ事業の試行実施

ユニークベニユとは、歴史的建造物や公的空間等

展覧事業

で、それらが本来持つ目的や事業とは別に会議・レセプションを開催することで、特別感や地域特性を演出できる「特別な会場」のことで、海外では博物館の展示スペースの利用などが見られる。当館では、大阪市が進める MICE 招致に協力し、大阪観光局と共同でユニークベニュー事業を試行実施し、大阪の魅力発信に努めている。

2019年度は独法化に伴う関連規定の整備のために十分な誘致が行えず、外部の利用実績はなかった。

I. 各種普及教育活動

市民が自然をより深く理解するためには、展示を見るだけでなく、野外で実物の自然に触れることも重要である。自然史博物館ではこのような観点から、多様な博物館利用者とその要望に応えるため、各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からの講師を招いている（38ページ、**印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめ細かい普及教育活動を行うために、普及行事にボランティアによる補助スタッフを導入している（*印）。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。2007年度より、野外学習会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪市自然史センターとの共催で実施している。この連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行う事が可能になり、行事の質の向上につながっている。

一方で、行事数の増加が学芸員の負担の増大につながっていた。そのため、昨年度からいくつかの行事を減らす、また他の博物館や学会などとの共催行事を積極的に行っていくことを方針とした。具体的には冬期のジオトープおよび春～夏期のジオラボの中止、自然史オープンセミナーと特別展などの講演会と組み合わせる、野外での観察を他団体との共催にすることで、行事数の削減と学芸員の負担の軽減を図った。その結果、普及教育事業の企画は122回、うち雨天台風やコロナウイルス感染防止などによる中止を除いた開催回数は110回（昨年度は153回）、参加者総数は31,867人（昨年度は34,367人）と昨年度より減少したが、その分これからも行事内容をより充実・向上させていく方針である。

以下に各行事の概略を記し、表2に行事名、実施月日、場所、参加者数などを記す。なお、自然史フェスティバルとその関連行事は別に記す。また、各特別展に関連して実施した普及行事は一部を除いて省略し、32ページからの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■やさしい自然かんさつ会

自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然の面白さを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとしている。外部講師と補助スタッフの導入により、安全性と教育効果の向上に努めている。

■地域自然誌シリーズ

大阪周辺の地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的としている。

■プロジェクトA観察会

外来生物の市民調査企画「プロジェクトA」を行っており、その一環として観察会を開催している。この観察会は調査参加の呼びかけ・研修も兼ねている。

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸現象からテーマと対象をしばって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。

■野外・室内実習

野外および室内において、データの分析や機器を用いた詳細な観察、実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。また、近年減少していると言われている、若い世代の標本作りや自然観察への支援を強化するために、標本の作り方の行事も行っている。

■長居植物園案内

第4土曜日に長居植物園で行う植物研究室の学芸員の案内による観察会。月によっては他分野の学芸員と共同での案内も行う。補助スタッフが行事記録を発行しており、参加者の学習効果を高めることに貢献している。

■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。

■ジオラボ

化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう。2017年度より秋～冬期のみ開催。

■自然史オープンセミナー

当館学芸員や館外の研究者を講師として、自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。6月から10月は、特別展に関連するテーマで実施した。

■ジュニア自然史クラブ

中高生の一般普及行事への参加が少ないことから、彼らが自主的に参加できるように、中高生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を行っている。クラブ組織とすることで、共通の興味対象を持った学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知と部員の募集を行った。一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送っている。2019年3月31日現在の部員数は114名。

■ジオトープ

バックヤードを利用してジオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか継続的に調査している。2017年度より、冬期は行事として実施しないこととした。

普及教育事業

■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくのが目的である。テーマは常設展示および特別展に関連したものなどから、ワークショップスタッフと学芸員で決定している。また、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名程度募集し、研修を実施した上で参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフは、学芸員・ワークショップスタッフと共にオリジナルプログラムを企画し、3月の「はくぶつかん 子どもまつり」で実施・運営してもらった。特別展関連行事として行ったものについては、32ページからの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■その他の特別行事

・標本の名前を調べよう

夏休みに採集して作成した標本の名前を、講師と一緒に調べる行事。講師は学芸員だけでなく、館外からも多数の専門家も招き、8月下旬に実施している。

・はくぶつかん・たんけん隊

小中学生を対象にして、普段は見ることのできない博物館の施設を、学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。

これらの他に、関連学会との講演会・イベントなどを実施している。

表2：2019年度普及行事参加人数まとめ

実施日	行事名	申込み	当選	参加者数	備考
やさしい自然かんさつ会					
4月21日（日）	レンゲ畑のいきもの*、**	331	202	133	
5月19日（日）	海べのしぜん*、**	290	241	183	
7月7日（土）	はじめてのキノコ*、**	223	160	90	
7月27日（土）	ツバメのねぐら ^(*)	249	249	雨天中止	
10月8日（月・祝）	バッタのオリンピック ^(**)	214	214	雨天中止	
12月1日（日）	化石さがし	196	121	87	
合計				493	
テーマ別自然観察会					
5月12日（日）	大阪平野のゼロメートル地帯を歩く*	60	30	29	
5月19日（日）	初めての鳥のさえずり*	44	44	33	
6月2日（日）	大阪層群*	39	21	17	
6月23日（日）	高槻のカエル探し**	144	75	60	あくあびあ芥川と共催
9月16日（祝）	田んぼの水草	50	39	39	
10月27日（土）	石桁網のよりかす*、**	82	38	30	
11月3日（日）	箕面の地質観察	58	58	47	
11月24日（日）	芥川の石ころ	50	30	7	
12月22日（日）	大阪層群 ^(*)			中止	
3月8日（日）	海岸侵食の現状とその対策 ^(*)			中止	
合計				262	
地域自然誌シリーズ					
5月26日（日）	淡輪から俎石山へ	49	49	42	
9月29日（日）	東川河口	61	61	40	
10月6日（日）	琵琶湖の北端	61	61	51	
合計				133	
プロジェクトA観察会					
6月9日（土）	オオクビキレガイの探索と同定	17	17	14	
6月29日（土）	石川の外来魚	-	-	34	
合計				48	
室内実習					
4月6日（土）	樹脂標本*	-	-	17	
4月7日（日）	鳥の調査の勉強会*	11	11	8	
6月22日（土）	きのこの記録を作る*	32	29	24	
6月23日（日）	平野の地下の地層の調べ方	29	21	16	
8月11日（日）	骨標本の作りかた（未成年向け）*、**	43	30	22	
9月23日（土）	骨標本の作りかた（大人向け）*、**	44	27	26	
2月2日（土）	スルメイカ*	-	-	24	
合計				137	

表2：2019年度普及行事参加人数まとめ 続き

実施日	行事名	申込み	当選	参加者数	備考
植物園案内*					
4月6日(土)	4月			90	
5月4日(土)	5月			115	
6月1日(土)	6月			110	
7月6日(土)	7月			94	
8月3日(土)	8月			31	
9月7日(土)	9月			68	
10月5日(土)	10月			75	
11月2日(土)	11月			82	
12月7日(土)	12月			77	
1月11日(土)	1月			64	
2月1日(土)	2月			90	
3月7日(土)	3月			中止	
合計				896	
植物園案内・動物昆虫編*					
4月27日(土)	はじめてのバードウォッチング			102	
5月25日(土・祝)	初夏の昆虫探し			107	
6月22日(土)	街で繁殖する鳥			83	
7月27日(土)	身近な鳥の子どもをさがそう			雨天中止	
8月24日(土)	夏の虫さがし			80	
9月28日(土)	秋の渡りの途中の小鳥さがし			66	
10月26日(土)	秋の羽根ひろい			44	
11月30日(土)	ダンゴムシ			67	
12月21日(土)	昆虫			70	
1月25日(土)	鳥			57	
2月22日(土)	鳥			中止	
3月21日(土)	鳥			中止	
合計				676	
教員・観察会指導者向け支援プログラム					
8月8日(水)	教員のための博物館の日			120	
合計				120	
自然史オープンセミナー					
4月13日(土)	外来生物調査プロジェクト中間報告(前編)			39	
5月11日(土)	プロジェクトA			44	
12月21日(土)	大阪のクジラ化石 2019			22	
合計				105	
ジオラボ*					
11月9日(土)	なぞの生物デスマスチルスを見てみよう			31	
12月14日(土)	海の砂を見てみよう			26	
1月11日(土)	ミクロの化石・放散虫			40	
2月8日(土)	縄文時代の巨大噴火の火山灰を探そう			26	
3月14日(土)	はぎ取り標本で地層を観察しよう			中止	
合計				123	
ジュニア自然史クラブ*					
4月4日(木)	ミーティング 標本実習と長居公園の生き物探し			44	
5月6日(月)	昆虫採集			28	
6月16日(日)	磯観察			25	
7月21日(日)	箕面公園でキノコさがしと水遊び			28	
8月9日(金)	ミーティング 標本実習と長居公園の生き物探し			26	
9月1日(日)	藻川で川遊び			雨天中止	
10月27日(日)	能勢で虫採り			19	
11月10日(日)	ミーティング フェスティバルの準備			15	
12月15日(日)	化石さがし			28	
1月6日(月)	河原で焼き芋			12	
2月2日(日)	公園の冬鳥さがしとミヤマガラスのねぐら			27	
3月	鉱物採集			中止	
合計				252	

普及教育事業

表2：2019年度普及行事参加人数まとめ 続き

実施日	行事名	申込み	当選	参加者数	備考
特別行事					
4月27日(土)	博物館・センター報告会			40	
8月19日(日)	標本の名前を調べよう**			130	
11月16日(土)	大阪自然史フェスティバル2019			14,000	
11月17日(日)	大阪自然史フェスティバル2019			12,000	
11月23日(金)	高校生物研究発表会			173	
1月13日(祝・月)午前	はくぶつかん・たんけん隊*			48	
1月13日(祝・月)午後	はくぶつかん・たんけん隊*			36	
3月1日(日)	地域自然史と保全研究発表会			中止	
	合計			26,427	
子ども向けワークショップ*					
4月13日(土)	きょうりゅうはりえ			45	
4月14日(日)	きょうりゅうはりえ			47	
5月18日(土)	きょうりゅうはりえ			48	
5月19日(日)	きょうりゅうはりえ			50	
6月15日(土)	クジラ・スタンプラリー			92	
6月16日(日)	クジラ・スタンプラリー			255	
7月6日(土)	クジラ・スタンプラリー			144	
7月7日(日)	クジラ・スタンプラリー			181	
7月20日(土)	こんなのいるかな むしブローチ			75	
7月21日(日)	こんなのいるかな むしブローチ			78	
7月27日(土)	セミ・はねもようストラップ			36	
7月28日(日)	セミ・はねもようストラップ			50	
8月3日(土)	セミ・はねもようストラップ			37	
8月4日(日)	セミ・はねもようストラップ			44	
8月10日(土)	むしむしオリンピック			35	
8月11日(日)	むしむしオリンピック			62	
8月17日(土)	むしむしオリンピック			56	
8月18日(日)	むしむしオリンピック			77	
8月24日(土)	こんなのいるかな むしブローチ			69	
8月25日(日)	こんなのいるかな むしブローチ			75	
9月21日(土)	おしえて!ハカセ カマキリ			47	
9月22日(日)	おしえて!ハカセ カマキリ			44	
9月28日(土)	むしブローチ			70	
9月29日(日)	むしブローチ			86	
10月13日(土)	きょうりゅうはりえ			43	
10月14日(日)	きょうりゅうはりえ			41	
11月9日(土)	はくぶつかんカレンダー2020			23	
11月10日(日)	はくぶつかんカレンダー2020			37	
12月21日(土)	はくぶつかんカレンダー2020			50	
12月22日(日)	はくぶつかんカレンダー2020			31	
1月18日(土)	さわってごらん木木さんぽ			23	
1月19日(日)	さわってごらん木木さんぽ			28	
2月15日(土)	さわってごらん木木さんぽ			25	
2月16日(日)	さわってごらん木木さんぽ			22	
3月28日(土)	はくぶつかんこどもまつり			中止	
3月29日(日)	はくぶつかんこどもまつり			中止	
	合計			2,126	
新収資料展関係行事					
4月27日(土)	ギャラリートーク			30	
5月4日(土)	ギャラリートーク			32	
5月11日(土)	ギャラリートーク			30	
5月18日(土)	ギャラリートーク			17	
5月26日(土)	ギャラリートーク			30	
	合計			139	
特別展「昆虫」関係行事					
7月13日(土)	リレー講演会「私の昆虫」			115	
7月14日(日)	昆虫観察&ギャラリーツアー			70	
8月3日(土)	昆虫観察&ギャラリーツアー			70	
8月4日(日)	リレー講演会「私の昆虫」			103	
8月10日(土)	昆虫食体験会			39	
	合計			397	

■大阪自然史フェスティバル2019

大阪市立自然史博物館、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター、関西自然保護機構の3団体の主催で、2019年11月16～17日に開催された。

今回も前回に引き続き、有料の販売ブースや協賛ブースを設定した他、現在進行中の大阪市の生物多様性戦略に関連したシンポジウムも企画した。

●出展者数：131（団体一般ブース：84 個人・団体販売ブース：37 協賛企業ブース：7 名義協賛企業：1 イベントのみで参加団体：2）

●来場者数 合計 26,000

11月16日（土）：14,000

11月17日（日）：12,000

●主な関連イベントと参加者数

・講演会「叶内拓哉とバードウォッチング」

日 時：11月16日（土）10：30～11：30

主 催：コーワ

講 師：叶内拓哉

参加者数：50人

・講演会「はじめての鳥見たい」

日 時：11月17日（日）10：30～15：00

主 催：日本野鳥の会大阪支部

参加者数：192人

・講演会「ヤイロチョウの新たな保護課題に関する座談会」

日 時：11月16日（土）10：00～11：30

主 催：生態系トラスト協会

参加者数：30人

・講演会「叶内拓哉 野鳥の話 アレコレ」

日 時：11月16日（土）12：30～14：00

主 催：コーワ

講 師：叶内拓哉氏

参加者数：30人

・講演会「大阪の水辺環境のいま」

日 時：11月16日（土）14：00～16：30

主 催：大阪自然環境保全協会

参加者数：42人

・講演会「法律から考える生き物いっぱいの都市公園」

日 時：11月17日（日）14：00～16：00

主 催：大阪自然環境保全協会

参加者数：30人

・観察会「ビオトープの生きものを探そう」

日 時：11月16日（土）11：00～12：00

14：00～15：00

11月17日（日）11：00～12：00

14：00～15：00

主 催：大阪市立自然史博物館友の会

参加者数：のべ 256人

・講演会「水族館で24時間目視観察してわかったマンボウの一日の行動」

日 時：11月16日（土）11：00～12：00

主 催：マンボウなんでも博物館

参加者数：160人

・講演会「鳥たちの過去・現在・未来」

日 時：11月16日（土）14：00～16：00

主 催：日本野鳥の会大阪支部

講 師：上田恵介

参加人数：232人

・講演会「大阪湾の自然創成をめざして」

日 時：11月17日（日）10：00～12：30

主 催：大阪自然環境保全協会・SDGs市民社会ネットワーク

参加人数：68人

・講演会「コケの世界へようこそ」

日 時：11月17日（日）13：30～15：30

主 催：関西自然保護機構

参加人数：170人



大阪自然史フェスティバル会場風景
講堂における講演会の様子



大阪自然史フェスティバル会場風景
企業展示などが集まるB会場

Ⅱ. 学校教育との連携

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ2名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

<児童・生徒向け事業>

・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年各1種類、中学校2種類の合計4種類がある。

また、見学後に博物館の展示について家族や友達とコミュニケーションを促すツールとして活用してもらえよう、小学校団体に子ども向けパンフレットを配布している。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、2016年度から先生に授業計画申込書を提出してもらい、これを基に先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施することにした。2019年度は保育所・幼稚園3件、小学校6件、中学校3件、高校

4件、大学0件、合計16件の授業・質問対応を行った。2019年度の授業例：「秋の虫・虫の鳴き声」、「動物の骨格標本と体のつくり」、「大阪平野の成り立ち」、「身近な植物」、「学芸員・博物館の仕事」など。

・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2019年度は、大阪府内の中学校5件（計10名）を受け入れた。

<先生向け事業>

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。2019年度は、博物館の出版物等書籍7件、ビデオ・DVD0件、紙芝居71件（紙芝居54件・CD-R17件）、標本キット52件の貸し出しを行った。

貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」「ナウマンゾウ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：ようこそ自然史博物館へ、大和川と生きものたちなど。

標本キット：国語で使える貸出キット「タンポポ」「虫の体」、川原の石ころ、ボーリングコア、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方を対象に研修を行っている。2019年度は大阪市教育センターとの連携研修を3回開催した。これら以外

に、各地の理科教育研究会等からの依頼教員研修を2件行った。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク (Teachers-Museum Network)

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク (Teachers-Museum Network) をつくっている。124名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を2回発行した。

＜その他＞

・教員のための博物館の日in大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を8月8日に行った。ガイドツアー・体験型のプログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した。大阪市の研修の一つとして位置づけ、また、他館（大阪市立科学館、きしわだ自然資料館、高槻市立自然博物館、天王寺動物園など）からもブース出展してもらい、120名の参加があった。（プログラム）学芸員と一緒に歩く解説ツアー：身近な鳥と池の生き物観察、学芸員と一緒に歩く解説ツアー：常設展で学ぶ生態系、学芸員と一緒に歩く解説ツアー：「長居植物園で学ぶ植物の見分け方、大阪市立科学館の学芸員による特別プログラム：サイエンスショー「色の科学」、体験型プログラム：博物館子どもワークショップ「セミ・はねもようストラップ」、体験型プログラム：研究ってどうやってるの？など。

※教員のための博物館の日はJSPS科研費（課題番号：19K01151）をうけて実施した。

・大阪府内の高校との連携

大阪府高等学校生物教育研究会および大阪府高等学校地学教育研究会と連携し特別展の情報提供を行っている。2019年度の大阪府高等学校生徒生物研究発表会を博物館で実施した（P52）。また、大阪府高等学校生物教育研究会の令和元年度総会を行った。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科・国語・家庭科・保健、中学校の社会科（地理・歴史）・理科・国語・家庭科・技術・保健体育の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。「教科から見た展示」では、展示や貸出キット、ワークシートがどの単元に対応している

のかを見られるようにしている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の本館1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談への対応を行い、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

・研究費を利用した学校連携事業

今年度はJSPS科研費（課題番号16K01055）を受け、ボーリング標本を貸し出し教材として運用し、指導案の作成、教材の改良を行った。同時に、以前から要望のあった「川原の石ころ」セットの小学校理科教科書準拠版を作成した。また、幼稚園・保育所の子どもと教員向けのサポートの充実に向け、JSPS科研費（課題番号16K01208）の助成を受けて作成した、教員向け冊子「おおさかしりつしぜんしはくぶつかんのこれなあとに」を配布した。

Ⅲ. ボランティア事業

当館のボランティア事業は、自然史科学の普及や研究に積極的に参加するアマチュア養成の場として、普及事業に位置づけて行われている。各種普及行事において学芸員や講師の補助を行う補助スタッフ制度、大学生が学びながら子どもワークショップのサポートを行うサポートスタッフ制度が、当館の主なボランティア事業である。これに加え、アマチュア研究者などに標本整理にもご協力いただいている。

1. 補助スタッフ制度

1995年より、各種普及行事を学芸員や講師と協力して運営する補助スタッフを、当館の良き理解者である友の会会員から募集している。補助スタッフを対象に、行事实施に必要な知識や技術を身に付けるために、行事の内容に応じて学芸員による事前研修や勉強会、打合せ、事後研修を実施している。補助スタッフは、このような研修の場で自らの興味・関心に応じて学習を深め、その成果を普及行事の運営を通して社会に還元する意欲のある方々であり、当館の普及事業を支える重要な存在である。補助スタッフの協力を得て行われた行事は以下の通りであり、補助スタッフとして活躍いただいた方は、延べ143名であった。

■やさしい自然かんさつ会

「レンゲ畑のいきもの」4月21日 7名

「海べのしぜん」5月19日 20名

「はじめてのキノコ」 7月7日 2名

■テーマ別自然観察会

「石桁網のよりかす」 10月27日 6名

■室内実習

「ホネ標本の作りかた（未成年向け）」 8月11日 5名

「ホネ標本の作り方（大人向け）」 9月23日 4名

「タコを解剖してみよう」 2月2日 9名

■植物園案内

4月6日 5名 5月4日 7名

7月6日 7名 8月3日 5名

9月7日 6名 10月5日 9名

11月2日 5名

■植物園案内動物・動物昆虫編

4月27日 3名 6月1日 8名

■ジオラボ

11月9日 5名 12月14日 3名

1月11日 5名 2月8日 4名

■「はくぶつかん・たんけん隊」 1月13日 9名

■ジュニア自然史クラブ

5月6日 3名 6月16日 1名

7月21日 1名 8月9日 1名

10月27日 1名 11月10日 1名

2月2日 1名

この他に「鳥類フィールドセミナー」（45ページ）を補助 スタッフ研修として実施している。

2. 子どもワークショップ サポートスタッフ

博物館で開催している「子どもワークショップ」の運営補佐をする学生ボランティア「子どもワークショップ・サポートスタッフ」を、年間登録制で募集している。本事業は2007年度から継続して行っている。対象は18歳以上の学生で、登録期間は5月～翌3月である。5月の初回研修を経て、12月までは各月のワークショップに補佐役として参加してもらう。その後、12月頃からサポートスタッフがチームを組んでプログラムを企画し、3月に開催するワークショップ「はくぶつかん こどもまつり」でそのプログラムを実施・運営し、1年間を締めくくるという流れで行っている。ただし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月28日・29日に予定していた「はくぶつかん こどもまつり」は延期となった。本稿執筆時点で時期は未定だが、2020年度に子どもワークショップが実施できるようになった段階で、企画に携わったサポートスタッフから希望者を招集し、プログラムを実施することで検討している。

2019年度の登録者数は26名（当年度の新規登録20名、前年度からの継続登録6名）であった。

3. 標本整理

当館の標本の多くはアマチュアを含めた多くの外部研究者の努力により収集されたものである。寄贈後も、こうした方々の標本利用・整理作業への協力が続けられ、質的な向上が図られている。これは、一般に言う「ボランティア活動」とは異なったものであるが、博物館活動へのボランティアな協力でありより原初的なボランティア活動といえる。当館がこうした協力により支えられていることを示すため、この項目に感謝して示す。どの分野にも多くの協力者がいるが、特に現在、昆虫（甲虫および双翅目）・植物・図書整理で定期的な活動がおこなわれている。昆虫（甲虫および双翅目）では今年度も継続的にのべ月に20名近い専門家がボランティアとして標本の整理・検討を行っており、その成果が当館の収蔵資料目録としてまとめられている。植物標本の整理作業、マウント作業については、近畿植物同好会の方々に全面的にご協力いただいた。本年度は毎月1回程度の作業日を設け、主にシダ植物の標本整理を実施した。図書整理については、大山桂文庫の整理について、毎月1回程度の作業日を設け、整理を行っている。

IV. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、2019年度は以下の25大学、55名の学生を受け入れた。

一般実習コース

夏 期：8月14日～18日 20名

芹田凌平・藤原祐太（高知大学）、稲葉瑠花（同志社女子大学）、小嶋はな・南谷苑佳（三重大学）、今井美友・山腰美帆・黒崎真生・内田太陽（名城大学）、奈良崎 泉・村木風華（甲南大学）、月岡 遙・武田真生・桶土井直人（近畿大学）、新井萌子・吉村真由（琉球大学）、垣谷南風見（立教大学）、深井佑多佳（北海道大学）、小川由佳（甲南女子大学）、魚津恵佑（大阪教育大学）

冬 期：1月12日～13日、15日～17日 21名

佐貫瑞穂（同志社女子大学）、大前涼太・山口万由子（京都橘大学）、藤田千広（京都先端科学大学）、飴井佳南子・長岡美乃里・森本智郎（北海道大学）、菅野大（京都大学）、岩城歩美（和歌山大学）、石田圭佑・榊原彩花・塚本詩乃子（滋賀県立大学）、奥村 薫（奈良女子大学）、飯村太郎・松雪雄太（神戸大学）、杉下葵（京都造形芸術大学）、辰野敦俊（大阪教育大学）、長谷川和嗣・石田友唯・平本瑞季・林下真奈（大阪大学）

普及教育専攻コース

秋 期：11月13日～17日 14名

本田小百合・仲谷 朗（近畿大学）、小野隆久（京都美術工芸大学）、塩崎加那子（龍谷大学）、松本航太郎（東海大学）、宮下直也（北海道大学）、小島 恵（追手門学院大学）、吉田那緒（静岡大学）、辻 真穂・和田春香（和歌山大学）、橘 孝（滋賀県立大学）、公文英斗（大阪教育大学）、荻野史佳（大阪大学）

V. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人 大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

2019年度には、博物館主催行事とは別に行事を37回実施し、延べ2,432名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流、会員と評議員・学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

1. 2019年度の友の会会員数は、1,643名（一年会員1,277名、4月会員115名、半年会員104名、10月会員61名、賛助会員89名）であった。

※2019年度賛助会員（順不同、敬称略）

米澤里美、瀧川久子、右遠 剛、荻野 哲、松下宏幸、林 靖彦、井上洋子、原 義浩、渡邊岳志、松島大児、松浦宜弘、渡邊淳一、佐竹敦司、角村 茂、井上竜馬、土肥千夏、南出伸司、高橋満子、瀬崎千晶、乾公正、石井久夫、猪野 守、宮城達雄、高橋弘志、山崎敏雄、石原千賀子、西村静代、上山淳子、小島和江、中尾はな、高田みちよ、波戸岡清峰、益田晴恵、井内ゆみ、吉田晴彦、小山 栄、三宅規子、大宮文彦、乾俊弥、山西良平、石田美禰子、内貴章世、野村典子、犬伏義臣、犬伏エリツ健太郎、藤田英美、清水堅造、西山まゆみ、佐々木万里子、大久保幸子、麻野 浩、池上隆之、宮武頼夫、寺田雅章、西田良司、丹波三千代、早船琢磨、柴田可奈子、河越恵美、岡 美保、井上泰江、中村 肇、長瀬陽子、土屋慶丞、大岩 誠、伊藤舜嗣、浦野信孝、田村美美子、山下良寛、西川喜朗、佐藤喜美子、田代 貢、中井悦子、瀧端真理子、木下 進、岩井健人、鍋島靖信 ほかに匿名12名

2. 5回の定例評議員会を開催し、友の会事業や庶務について審議した。

3. 事業ワーキンググループで8回の事業に関する議論を行い、評議員会に提案を諮った（事業ワーキンググループメンバーは、評議員だけでなく一般会員からも募っている）。

■事業報告

1. 印刷物の刊行：Nature Study 誌65巻1号（通巻776号）～12号（通巻787号）を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。

2. 行事を41回計画し、うち37回を実施した（実施しなかった3回は、雨天中止。1回は公共交通の縮小による）。これらの行事には延べ2,490名の参加があった。

（1）友の会総会 2019

1月26日（日） 212名

（2）月例ハイキング

（11回計画、10回実施、901名参加）

1月20日（日）「生駒神津嶽」雨天中止

2月17日（日）「冬の公園の鳥と虫とコケ」 123名

3月17日（日）「高取山」 56名

4月21日（日）「春の海岸をのたりのたり歩く」 168名

5月19日（日）「宝塚 中山」 56名

6月16日（日）「摩耶山」 66名

7月23日（日）「摂津峡・芥川のいきものと石ころ」 92名

8月25日（土）「自作トラップでウミホタルの観察にチャレンジしよう」 115名

9月15日（日）「鳴く虫を楽しもう」 91名

11月24日（日）「矢田丘陵」 62名

12月17日（日）「六甲山と須磨の浜と水族館」 72名

（3）友の会秋祭り

10月18日（土）秋祭りプレイベント 20名

10月19日（日）ビオトープで染めよう」 85名

（4）昆虫採集入門講座

7月20日（土）～21日（日） 42名

（5）友の会合宿

8月2日（金）～4日（日）合宿「対馬」 44名

（6）ビオトープの日（7回計画5回実施、244名参加）

4月20日（土） 76名

5月18日（土） 78名

6月15日（土） 雨天中止

7月20日（土） 22名

8月17日（土） 28名

9月21日（土） 40名

10月19日（土） 雨天中止

（7）鳥類フィールドセミナー

（9回計画9回実施、165名参加）

1月26日（土） 27名

2月23日（土） 20名

4月20日（土） 33名

5月12日（土） 10名

6月15日（日） 14名

普及教育事業

- 7月13日（土） 8名
7月20日（土） 17名
9月21日（土） 18名
10月19日（土） 18名
(8) 友の会限定！博物館裏側まるとツアー
2月10日（日） 148名参加
2月11日（月・祝） 156名参加
(9) 登山行事
5月5日（土）「雪彦山」 中止
(10) 夜の博物館・植物園を探検しよう！
7月20日（土） 106名参加
(11) 海の向こうの見聞録発表会
12月28日（土） 58名参加
(12) 友の会懇親会
12月28日（金） 85名参加
(13) 友の会総会
1月27日（日） 224名参加
3. 大阪自然史フェスティバル2019（11月16日～17日）
に出展し、評議員による観察会「ビオトープの生きものを探そう」（2日間4回、計260人参加）、スタンプコーナー、友の会・Nature Studyの紹介、合宿や秋祭りのポスター展示、入会の案内を行った。
4. 行事の「補助スタッフ」を会員から募り、指導や引率の補助をしていただいた。

■2019年度役員

会 長：鍋島 靖信
副 会 長：田代 貢 川端 清司
評 議 員：板本 瑤子 稲本 雄太 井上 竜馬
浦野 信孝 河合 正人 橋高加奈子
小林 春平 高田みちよ 谷田 一三
寺田 玲 西川 喜朗 西澤真樹子
花岡 皆子 弘岡 拓人 藤江 隼平
道盛 正樹 三宅 規子 宮崎 智美
村井 貴史 森 康貴 山崎 俊哉
吉田 晴彦 米澤 里美
会計監査：左木山祝一 三宅 卓

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。

令和元年度の取り組みとしては、学芸員や外来研究員による論文公表のリリース体制の構築、公用スマートフォン・タブレットの導入とInstagramの公式アカウントの本格的な運用を開始した。

<体制>

広報委員会は学芸課（2名）と総務課（4名）の広報担当で構成される。定例会議は月1回、または必要に応じて臨時に開催し、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる（特別展やフェスティバルなどの広報では担当者も出席する）。具体的には各月の行事情報の集約と外部への提供資料の作成、各種定例チラシ（やさしいはくぶつかんの行事チラシなど）の作成、「大阪市立自然史博物館新着情報」及び各SNS公式アカウントの更新・維持、プレスリリースの作成と発出依頼、特別展等大型イベントの広報戦略の策定、その他館内掲示物の作成などが主な業務である。また、大阪市博物館機構として行う広報活動（広報誌の発行など）にも、自然史博物館の担当として広報委員会が携わっている。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本館の臨時休館や特別展の開幕延期が生じたため、令和2年2月下旬以降、それに伴う臨時の広報対応業務が発生した。これは令和2年度以降も当面の間続くと思われる。

<広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市のホームページ等、様々なソーシャルメディアのホームページに情報を掲載している。SNS（twitter、facebook、LINE@、Instagram）やYouTube、ブロガーの内覧会招待などを用いた情報発信に力を入れており、今後も強化していく予定である。
プレス発表	大阪科学・大学記者クラブ、大阪教育記者クラブ、南大阪記者クラブ、関西レジャー記者クラブへ特別展やミニ展示などの博物館の事業開催や、学芸員の研究成果を発表している。

写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
交通広告	特別展ではOsaka Metroに吊り広告を掲出している。またOsaka Metroの駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	<p>博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。</p> <p>公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅3号出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入口の看板。また、特別展の際にはのぼりを約60本長居公園内に掲出し、公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。</p> <p>情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいと、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示している。</p>
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している。
大阪市経済戦略局文化部での広報	文化部の博物館施設担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちよう並木、など。
大阪市博物館機構内での共同広報	大阪市博物館機構が運営する大阪歴史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪中之島美術館準備室・大阪市立自然史博物館の6施設で共同広報を行っている。

広報事業

＜広報先＞

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には通送便を活用している。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類および規模に合わせて、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。
大阪府内の高校への広報	大阪府高等学校生物教育研究会と大阪府高等学校地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会へ特別展のチラシの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。また、地元の商店街へは、ポスター等の掲示依頼などを行っている。

＜令和元年度の広報状況＞

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内154件、大阪府内186件、その他の府県313件。施設種類：博物館、大学、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など。
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしいはくぶつかん春・秋（40,000枚）、ワークショップ4回（120,000枚）、大阪自然史フェスティバル（チラシ 65,000枚）、特別展「知るからはじめる外来生物」（ポスター B2 2,000枚、B3 2,500枚、チラシ 60,000枚）、毎月の催し物案内（毎月1,300枚）。
情報提供しているメディア関係	約200社（特別展関係約100社、行事情報約100社）。
特別展プレス発表の送信先	大阪科学・大学記者クラブ20社、大阪教育記者クラブ14社、南大阪記者クラブ7社、関西レジャー記者クラブ14社、大阪市内区役所広報24区。

テレビ放送（特別展以外）	（6/23）テレビ大阪「かがくdeムチャミタス！」恐竜に巨大クジラ！知られざる長居公園 （11/25）JCOM「デイリーニュース大阪」大阪自然史フェスティバル2019 （1/1）ベイコム「チームベイコムさきどり情報コーナー」新春ミニ展示「子年」展 以上3件
新聞報道（特別展以外）	（5/16）毎日新聞夕刊 企画展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展2019～」 （5/1）大阪日日新聞 企画展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展2019～」 （6/15）神戸新聞 企画展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展2019～」 （6/21）毎日新聞 被災標本修復 （7/4）毎日新聞 大和川でヌートリア目撃情報 （7/11）京都新聞 ヒラズゲンセイ （7/31）読売新聞 住吉大社の木々 （10/4）読売新聞 アサギマダラ今年も （2/2）日本経済新聞 ヒラズゲンセイ （2/12）読売新聞大阪面 子どもワークショップ木木さんぽ 以上10件

＜令和元年度のプレスリリース＞

	リリース日	リリース内容
1	4月24日	特別展「昆虫」大阪開催決定
2	5月27日	特別展「昆虫」詳細決定
3	6月吉日	特別展「昆虫」会期中の講演会や関連イベントについて
4	6月27日	教員のための博物館の日2019
5	9月20日	大阪自然史フェスティバル2019
6	11月6日	自由研究・標本展「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」
7	11月29日	新春ミニ展示「子年展」
8	12月19日	特別展「知るからはじめる外来生物～未来へつなぐ地域の自然～」
9	2月7日	テーマ展示「岸川椿蔵書」
10	2月21日	特別展「知るからはじめる外来生物～未来へつなぐ地域の自然～」第二報
11	3月25日	テーマ展示「世界一変な火山展」

Twitter 公式アカウントデータ（令和元年 4 月～令和 2 年 3 月）

フォロワー数（令和 2 年 3 月 31 日現在）：8,902

ツイート数：200

ツイートインプレッション：832,812

<特別展の広報>

■特別展「昆虫」

会 期：令和元年 7 月 13 日（土）～ 9 月 29 日（日）

プレス発表：令和元年 4 月 24 日（水）

内 覧 会：令和元年 7 月 12 日（金）

プレス内覧会（申し込み）：22 社 26 名（読売新聞、産経新聞、朝日放送、ラジオ関西など）

■第 50 回特別展「知るからはじめる外来生物～未来へつなぐ地域の自然」

当初予定会期：令和 2 年 3 月 1 日（日）～ 5 月 31 日（日）

※臨時休館に伴い令和 2 年 6 月 9 日（火）8 月 30 日（日）に会期変更。

プレス発表：令和元年 12 月 19 日（木）

内 覧 会：令和 2 年 2 月 29 日（土）※臨時休館に伴い中止。

刊行物・情報システム

2019年度に大阪市立自然史博物館から発行した刊行物は以下の通り。

一重下線は当館外来研究員、二重下線は当館学芸員、[No.] は当館業績番号。なお、研究報告と自然史研究については、自然史博物館リポジトリサービス (<https://omnh.repo.nii.ac.jp/>) において公開している。末尾の※は収蔵資料を用いた研究 (21ページ参照)。

■研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第74号 2020年3月31日発行、102pp + viipp、1,200円
松井彰子・中島 淳：大阪府におけるドジョウの在来および外来系統の分布と形態的特徴にもとづく系統判別法の検討。1-15。[No.480] ※

鳴橋直弘：アジア産キイチゴ属の分類学的ノート (9) 2. 3の学名の整理。17-21。[No.481] ※

清家一馬・岩野英樹・檀原 徹：基盤岩に注目した和泉堆積盆北縁部のテクトニクス—和泉層群と大沢礫岩、泉南流紋岩類牛滝川流紋岩溶岩の層序関係の再検討—。23-43。[No.482]

初宿成彦：大阪府におけるヒゲラシの分布—市民調査「神社のヒゲラシ」プロジェクトの結果報告—。45-68。[No.483] 稗田真也・植村修二・野間直彦：アメリカミズキンバイとよばれる *Ludwigia decurrens* と *L. longifolia* (アカバナ科) の推奨される和名。69-73。[No.484]

横川昌史・高田みちよ・長谷川匡弘：大阪府における特定外来生物オオバナミズキンバイ (広義) (アカバナ科) の現状。75-82。[No.485]

樽野博幸：古生物学資料のための描画装置と計測補助具—正射影描画器と幅広ジョウ—。83-94。[No.486]

鈴木博之・山本俊哉・別所孝範：紀伊半島四万十累帯南帯の古第三系牟婁層群佐本川層から発見された放散虫化石。95-102。[No.487]

■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第4巻第3号 2020年2月28日発行、62pp、500円
初宿成彦・安井通宏・市川顕彦・桂 孝次郎・河合正人・中谷憲一・山崎一夫：大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ甲虫班：大阪市の昆虫相とその変遷。41-102。[No.479] ※

■常設展解説書

ミニガイド No.32 「町中のコケ基本50種」

一般市民向け、新書版、本文42pp (総カラー)、2020年2月14日発行、500円。

著者：道盛正樹、写真：道盛正樹・左木山祝一、編集：

横川昌史

■収蔵資料目録 (Special Publications from Osaka Museum of Natural History)

第51集 2020年3月31日発行、58pp + 40pls、1,500円
鳴橋直弘・長谷川匡弘：バラ科キイチゴ属 標本目録※

■第50回特別展「知るからはじめる外来生物」解説書「知るからはじめる外来生物～未来へつなぐ地域の自然～」

2020年3月1日発行、150pp + 12pls、1,200円
著者：石田 惣・上原一彦・佐久間大輔・初宿成彦・

長谷川匡弘・松井彰子・松本吏樹郎・和田 岳

■ウェブサイト・SNSの運営

館事業を広く周知し、より多くの市民に博物館を利用してもらうことを目的として、特にWeb・SNSを利用した情報発信に積極的に取り組んでいる。ホームページ (HP) に関しては、タイムリーで内容豊富な情報の発信に努めており、令和元年度のHPアクセス数 (トップページ) は約48万9千件であった。「昆虫」展の開催された8月には11万7千アクセスを数えるなど、来場者数とピークは一致している。年間アクセス数は昨年度に比べ9万9千件増と特別展コンテンツの勢いに押された状況である。サーバで得られる情報から推測すると、スマートフォンなどの携帯端末がアクセスの6割から8割に登っている。特に、昆虫展が開催された8月はスマートフォンが82%にのぼっていた。ホームページによる情報発信のあり方については再検討が必要となっている。

新着情報は64件を発信 (台風による臨時休館など一時的なものを除く) し、今年度は学芸員の執筆論文などを含めタイムリーな情報提供に努めている (昨年比16件増)。また、HP掲載の新着情報を中心に「Twitter」、「Facebook」を通じて情報提供などしている。

Twitterの令和元年度の発信数は200件 (RTを除く)、フォロワー数は3/31時点で8,902人 (前年比916人増)、593リストであり、ツイートインプレッションは832,812件にのぼる。広報媒体として良好に機能していることがうかがえるが、新着情報の発信数減少がツバヤきの減少、フォロワー数増加の減少につながっている。情報発信を積極的に行っていく必要がある。

Facebookについては、フォロワー数が約2,200人で、情報がどのくらいの人に到達したかの指標でもある合計リーチ数は、今年度は約43万人と昨年度の30万人に対して激増している。多くのアクセスを得ているのは昆虫展期間、自然史フェスティバルおよび2月から3

月に関しての臨時休館情報である。博物館Facebook単体でのリーチ数（OrganicReach）は11万7千と昨年とそれほど変わらなかったのに対し、昨年まで以上にシェアなどにより拡散されていることが伺える。また英語版Facebookページ（<https://www.facebook.com/osakamuseumofnaturalhistory/>）を開設し、不定期ながら外国からの来館者向けの情報提供を試みている。

3月以降、臨時休館に伴い、休校中の子どもたちへの支援も含め積極的なコンテンツ公開を進めている。北海道博物館がよびかけた「おうちミュージアム」プロジェクトに参加し、当館でも塗り絵、動画、3Dパノラマ写真、クロスワードなど様々なコンテンツを掲載するとともに、身近な自然観察を促す #おさんぽミュージアム、博物館からのコンテンツ提供を示す #エア博物館、学芸員の日々を報告する #学芸員のおしごと、特別展の紹介 #外来生物展などのハッシュタグをつけた学芸員によるSNSを介した情報発信を積極的に行っている。

閉館以降、自然史博物館YouTubeチャンネルも積極的に活用し、館内で公開しているコンテンツや貸出用の紙芝居を番組化したものなど11番組を公開した。多いものでは5月までに400～500回程度の再生数となっている。今後もセミナー配信を含め積極的な展開を行っていく。

●ホームページアクセス実績（Topページへのアクセス数（件））

4月 31,593	10月 29,321
5月 30,977	11月 27,825
6月 30,678	12月 18,093
7月 80,348	1月 22,882
8月 117,620	2月 21,919
9月 60,065	3月 18,075
	合計 489,396

■学術リポジトリの公開

当館は研究報告・自然史研究を国立情報学研究所のNii-NELSを利用してCiNiiなどに公開してきたが、同事業の停止に伴いJAIRO Cloudを利用したリポジトリシステムを2017年に運用開始した（<https://omnh.repo.nii.ac.jp/>）。

2019年度には近年当館が発行した科学研究費などの報告書、「大阪市立自然史博物館研究報告」、「自然史研究」「大阪市立自然史博物館館報」の登録をすすめて、PDF公開を行っている。館報および収蔵資料目録も順次登録を始めている。また当館内に事務局を置いて発行をしている学術雑誌「関西自然保護機構会誌」およびその後継誌である「地域自然誌と保全」に

についても目次情報の登録をおこなっている。今年度はこれらに加え、9月に開催されたICOM NATHISTのProceedingsを登載した。これら合計1,455アイテムの情報がリポジトリ経由で発信されている。2019年度に発行された新たなコンテンツ96点を登録した。2019年度の総ダウンロード数は14,631件、サイトの閲覧回数は13,562回となっている。他の論文検索サイトからの直接ダウンロードリンク引用が多いようだ。また、SNSによる告知もダウンロードに寄与している様子が伺える。

全体として、紙媒体での発行部数に対して圧倒的にダウンロード数が多い。博物館による学術情報の発信回路として、リポジトリサーバーは有効であると言える。

連携（ネットワーク）

自然史博物館の連携事業は、博物館の様々な機能をより効果的に発揮し社会的役割を実現するためのものである。教育・普及事業の延長と位置づけられるものから、自然史博物館を社会的にアピールする活動まで幅広く展開している。今後も博物館の使命に照らして様々なパートナーとの連携を展開したい。

■大阪府内の高校との連携

大阪府高等学校生物教育研究会および大阪府高等学校地学教育研究会と連携し、特別展の情報提供、ワークシートなど博物館を活用した教育用素材の提供、意見交換等を行っている。スーパーサイエンスハイスクールに関連した指導の相談にも乗っている。大阪自然史フェスティバルや地域自然史と保全研究発表会なども高校生の研究発表・交流の場として活用されている。大阪府高等学校生徒生物研究発表会は当館が共催で本館講堂を会場として毎年開催しており、第71回研究会が2019年11月23日に開催された（参加者：高校生114名、教員等学校関係者35名、一般来場者24名、合計173名。発表数：研究発表部門18題、活動報告部門14題）。

■文化庁補助事業「地域と共働した博物館創造活動支援事業」

博物館が核となって実施する地域文化の発信や、子供や高齢者等あらゆる者が参加できるプログラム、学校教育等との連携によるアウトリーチ活動、新たな機能の創造等を支援する文化庁の表題の事業に対し、大阪市博物館機構が各館の提案を取りまとめて今年度の申請を行った。自然史博物館から提案し採択された事業は以下の通りである。

・「ミュージアムシーンにおける発話コミュニケーションのハードルを下げる技術の試験導入」

内容：発話をリアルタイムでテキスト化する携帯ツール（UDトーク）を導入し、テストケースとして（1）改札現場での来館者との会話補助（本館改札にて1ヶ月程度設置）、（2）市民向け講演会での要約筆記の自動化（2019年11月17日大阪自然史フェスティバル講演会、2020年1月26日自然史博物館友の会公開講演会）、（3）国際的な会議での講演翻訳（2019年9月5日ICOM京都大会NATHISTオフサイトミーティング）を行った。（1）の改札スタッフ、及び（2）（3）の参加者に対しアンケートを実施して導入の効果を測定し、今後の活用の可能性や課題について検討した。テキスト化ツールは多少の認識ミスはあるものの、健常者でも講演内容の把握に役立つという意見が見られ、今後積極的に導入すべきものと考えられた。

・「地域の自然に関わる市民団体の“文化祭”イベント開催」

内容：大阪周辺の自然に関わる様々な市民団体が集まり、地域での活動のアピールや情報交換をする出展形式のイベント「大阪自然史フェスティバル2019」を開催した。補助金はイベント広報にかかる経費に充てた。本イベントの詳細は別項（P41）を参照。

・「教員のための博物館の日」

内容：地域の子供達が将来の担い手になるような教育につなげるため、大阪の歴史・自然等の文化継承とその研究施設である博物館の利用方法を教員に伝える研修会「教員のための博物館の日」を開催した。補助事業としては歴史博物館と自然史博物館で開催し、関連する博物館施設や大阪府・大阪市教育センターとの連携により企画・実施した。補助金はイベント広報にかかる経費に充てた。自然史博物館での実施内容の詳細は別項（P43）を参照。



大阪自然史フェスティバル 2019 講演会で発話テキスト表示システムを導入した時の様子

■大阪市立大学と大阪市博物館協会の包括連携協定

大阪市立大学と大阪市博物館協会の包括連携協定による事業は当年度は当館に関わるものはなかった。

■認定特定非営利活動法人大阪自然史センターとの連携

大阪市立自然史博物館は専門的見地からの指導や協力などを通じて、（公財）大阪みどりのトラスト協会、（公財）大阪自然環境保全協会など、大阪の生物多様性をめぐる主要な団体とも協力関係にある。この中において大阪自然史センターは大阪市立自然史博物館友の会を母体とした認定NPOを法人である。博物館を市民の学習のために活用することを目的とした同団体とは、連携協定に基づき大阪自然史フェスティバルの共催をはじめ、野外行事を始めとする各種行事での共催・協力、ミュージアムグッズの開発、東北大震災による被災地での自然史ワークショップ展開など多くの事業で協力関係にある。同NPOは近年では次項に示す

保全ネットワークの事務局として大阪の生物多様性をめぐる官・学・民の連携の中核となるなど、博物館と他の組織の連携の要となることも多い。

■大阪生物多様性保全ネットワーク

大阪生物多様性保全ネットワークは、大阪府・大阪市・堺市など行政機関と研究機関及び自然系NPOが連携して生物多様性課題に対処するために大阪自然史センターを事務局として設立された。2012年度より大阪府のレッドリストの改定に取り組み、2015年3月に公表、その後はさらに生物多様性保全のための普及啓発等を行っている。自然史博物館は学術専門機関として参加している。

平成28年度から平成30年度まで、環境省の公募事業である「地域循環共生圏構築検討業務」に参画し、同事業の成果として能勢町が策定した「能勢の里山活力創造戦略」策定に協力した。今年度も同事業の関連でのシンポジウムなどが行われたが今年度は広報協力程度に留まっている。

■西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も150名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動している。当館も中核となる加盟館として連携し、事業に協力している。今年度は、ネットワークとしてもICOM-NATHISTの開催に協力し、メンバーにも参加を呼びかけるなど、大会およびオフサイトミーティング、エクスカッションに協力した。（詳細は別項）

2019年度は以下のような事業を行った。

- ・日比自然史基金による活動助成
- ・「自然史系学芸員100円グッズプロジェクト」の成果を集約し『博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう』4冊の発刊（少年写真新聞社）
- ・文化遺産保全ネットワークの一員として文化財災害対策の議論、被災時対応の議論に参加している。当館からはワーキンググループに佐久間課長代理を派遣した。
- ・国立科学博物館のGBIF標本情報発信の研究会開催に協力（令和2年2月17日、JT生命誌研究館）・自然史レガシー継承事業と連携しての展示会（次項参照）
- ・しまねミュージアム協議会、NPO法人大阪自然史センターとの共催による合宿研修「博物館の魅力を伝える！－色々な年代の子どもに向けたプログラムを考える」（12月9日～10日、奥出雲多根自然博物館

- ・研究会「次の大規模災害に備える」の開催（2月10日、大阪市立自然史博物館 集会室）
- ・このほか、小さいとこサミット「小規模ミュージアムのつどい」後援、台風19号の被害把握などを行った。

■自然史レガシー継承・発信実行委員会

自然史系資料の重要性と価値を広く社会にアピールすることを目的として、文部科学省「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」により2016年度から採択された事業である。

2019年度の実行委員会は自然史系博物館11館（北海道博物館、栃木県立博物館、国立科学博物館、三重県総合博物館、琵琶湖博物館、伊丹市昆虫館、大阪市立自然史博物館、きしわだ自然資料館、橿原市昆虫館、北九州市立自然史・歴史博物館、事務局：兵庫県立人と自然の博物館）により構成され、西日本自然史系博物館ネットワークが基盤組織として参加した。

今年度は「歴史的建造物を活用した複合的な実験展示」として以下のような展示を行った。

展示タイトル：JAPAN COLOR

シリーズ名称：Where Culture Meets Nature ～日本文化を育んだ自然～

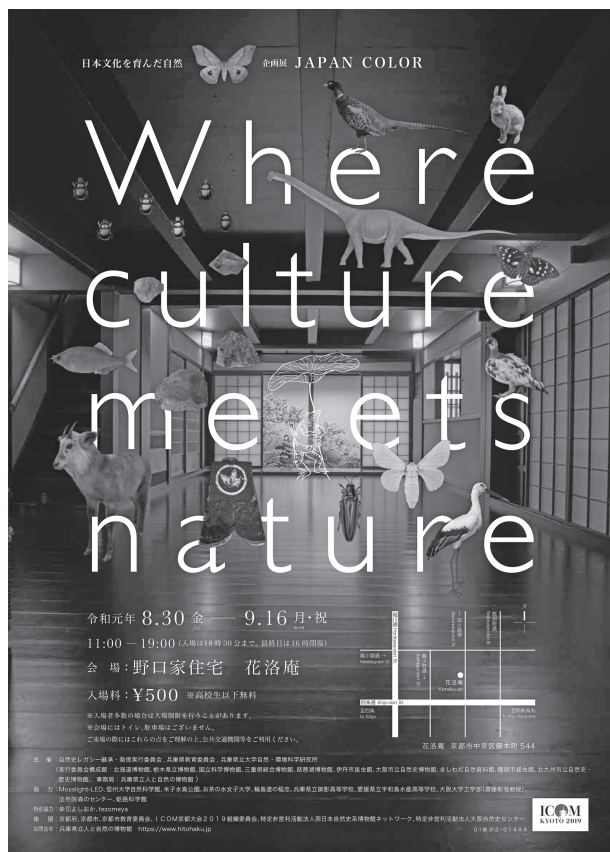
展示期間：令和元年8月30日（金）～9月16日（月・祝）

会場：野口家住宅 花洛庵（京都市中京区藤本町544）

来場者数：2,100名

本企画展会期中に関連セミナーとして4編の公開講座が行われた（参加者計165名）。本企画展に対し、当館から石田学芸員が企画参加・展示準備（多色木版刷り貝類図鑑「貝千種」、色の名前のつく貝、カワシンジュガイなど）及び会期中の運営補助を行ったほか、ミュージアムショップを大阪自然史センターの協力で展開した。

また、令和2年2月24日に4年間の事業を総括する公開シンポジウム「Where Culture Meets Nature ～日本文化を育んだ自然をいかに魅せるか～」が京都国立博物館（平成知新館ホール）で開催された。当館からは佐久間学芸員が「ICOM京都大会をふまえた自然史博物館がめざすべき未来」という演題で同大会の報告を行った。



自然史レガシー継承・発信事業による展示リーフレット

■ ICOM 京都大会および 4 館会議

2019年9月に開催されたICOM Kyoto2019（国際博物館会議京都大会）に向け、大阪市立自然史博物館は国立科学博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、兵庫県立人と自然の博物館とともに、準備のための会議体を形成し、プログラムの編成および講演要旨集、プロシーディングの作成、エクスカーションの準備、オフサイトミーティングの開催を行った。ICOM全体では120カ国4,590人と計画を大幅に上回る参加者を得た。自然史系コレクションを扱う国際委員会であるNATHISTにも述べ200～300人の参加者とともに講演とポスターを合わせて48題の発表を頂いた。国内の自然史系、科学系博物館、および大学などからも多くの参加を得、当館からも本大会に館員6名、外来研究員も4名が参加した。当館で開催したエクスカーションも120名を超える参加者を得て、New Partnership（博物館の新たなパートナー）、Anthropocene（人新世時代の自然史博物館）に関するセッションや、ポスター発表、展示見学（常設展示、昆虫展）などが行われた。

ICOM NATHISTの詳細については大会公式報告書

http://icomjapan.org/wp/wp-content/uploads/2020/03/JP_ICOM2019_FinalReport.pdf

または

佐久間大輔2020. NATHIST は日本の科学系博物館に

何をもたらしたか？自然史博物館の立場から. 全科協ニュース50 (2) : 3-5

佐久間大輔 (2020) 博物館は持続可能性を社会にもたらすか？博物館研究 55別冊 : 27-30

などを参照いただきたい。

開催には大阪観光局による支援、科学博物館振興財団などの協力を頂いた。



ICOM、NATHIST の参加者。当館のナウマンホールにて

I. 沿革

昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
 昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上
 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下にて展示開設
 昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定
 昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
 昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録（第2号）
 昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任（39.7.4退任）
 昭和32年6月7日－市立美術館より西区靱2丁目（元靱小学校校舎改造）に移転
 昭和33年1月13日－開館
 昭和34年－新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
 昭和39年－日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）
 昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任（非常勤嘱託－40.7.31退任）
 昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任（58.6.1退任）
 昭和42年－大阪市総合計画局30年後の大阪の将来計画により長居公園内に新館敷地確定
 昭和44年8月－新館建設のための基本構想審議委員会組織
 昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工
 昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工
 昭和48年7月－新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）
 昭和49年4月1日－大阪市立自然史博物館条例公布
 昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行政
 昭和49年4月27日－開館
 昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
 昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任（非常勤嘱託－61.3.31退任）
 昭和59年6月－常設展更新基本計画案策定
 昭和60年3月－常設展更新計画書策定
 昭和61年3月31日－常設展更新業務完成
 昭和61年4月1日－新装開館
 昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任（兼務－23.3.31定年退職）
 昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任（非常勤嘱託－23.3.31退任）

平成2年4月1日－小川房人 館長に就任（非常勤嘱託－3.3.31退任）
 平成2年度－文化施設整備構想調査
 平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任（非常勤嘱託－5.3.31退任）
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任（4.3.31定年退職）
 平成3・4年度－自然史博物館整備構想調査事業21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
 平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任（非常勤嘱託－7.3.31定年退職）
 平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（9.3.31定年退職）
 平成7年度－自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
 平成8年度－展示更新基本計画及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討
 平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（嘱託－10.3.31退職）
 平成9年度－展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
 平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任（13.3.31定年退職）
 平成10年12月－花と緑と自然の情報センター建築工事着工
 平成13年3月－花と緑と自然の情報センター竣工
 平成13年4月1日－那須孝悌 館長に就任（非常勤嘱託）
 平成13年4月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行政
 花と緑と自然の情報センター開館
 平成17年4月1日－山西良平 館長に就任
 平成18年3月1日－本館エントランス及びポーチリニューアルオープン
 平成18年4月1日－（財）大阪市文化財協会が指定管理者となる
 平成19年3月24日－第5展示室一部リニューアルオープン
 平成20年4月26日－第5展示室全面リニューアルオープン
 平成22年4月1日－財団統合により（財）大阪市博物館協会が指定管理者となる
 平成24年3月－本館・大阪の自然誌コーナー・ネイチャーホールの展示照明等LED化
 平成27年4月1日－谷田一三 館長に就任

庶務

平成27年10月10日－長居公園に移転してからの通算入場者数が1,000万人を突破

平成30年 2月28日－本館第1・2・3展示室の展示ブース内照明等LED化

平成30年12月19日－収蔵庫用空冷ヒートポンプチャラー2号機整備

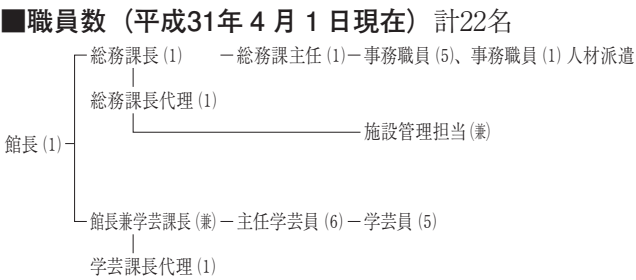
平成31年 1月25日－ガス吸収式冷温水発生機（三洋製）整備

平成31年 2月21日－ガス吸収式冷温水発生機（川重製）整備

平成31年 4月 1日－地方独立行政法人大阪市博物館機構による運営となる。
川端清司 館長に就任
文部科学省科学研究費補助金取扱規程第2条第4号にもとづく学術研究機関として、大阪市博物館機構が指定され、大阪市立自然史博物館が一部局となる。

令和 2年 1月－ナウマンホール天井照明LED化

Ⅱ. 組 織



■職員名簿（平成31年 4月 1日現在）計23名

職 名	氏 名	職 種	氏 名
館長兼学芸課長	川端 清司	学芸課長代理	佐久間大輔
総 務 課 長	濱崎 正行	主任学芸員	初宿 成彦
総務課長代理	豊田 泰正	主任学芸員	和田 岳
総務課主任	釋 知恵子	主任学芸員	中条 武司
事 務 職 員	木野 美奈	主任学芸員	石井 陽子
事 務 職 員	樋口 祥子	主任学芸員	松本吏樹郎
事 務 職 員	大江 彩佳	主任学芸員	石田 惣
事 務 職 員	山上 香代	学芸員（植物）	長谷川匡弘
事 務 職 員	坂井 洋幸	学芸員（植物）	横川 昌史
事 務 職 員	人材派遣職員	学芸員（昆虫）	長田 庸平
施設管理担当（兼）	落越 直也	学芸員（動物）	松井 彰子
		学芸員（地史）	田中 嘉寛

■人事異動

平成31年 4月 1日 川端 清司 館長昇任
落越 直也 施設管理担当
（兼）着任

Ⅲ. 庶務日誌

■令和元年度 博物館関係者来訪

1. 10. 23 千葉県市川市議会 環境文教委員会
展示視察及びヒアリング
1. 12. 5 丹波市立青垣いきものふれあいの里
展示視察及びヒアリング
2. 1. 19 台湾 国立自然科学博物館
展示視察及びヒアリング

■館長受嘱委員

公益財団法人 日本博物館協会 参与	平成31年 4月 1日 ～令和 3年 3月31日
一般社団法人 日本地質学会 理事	平成31年 4月 1日 ～令和 2年 3月31日
一般財団法人 大阪科学技術センター 評議員	令和元年 6月評議員会 ～令和 2年 6月頃
文化審議会臨時委員	令和元年11月 1日 ～令和 2年 3月31日
吹田市文化財保護審議会 委員	平成29年11月15日 ～令和元年10月31日

Ⅳ. 入館者数 (令和元年度)

■常設展入館者数

区分 月	有 料					無 料								計	開館 日数
	個 人		団 体		有料計	団 体					個 人		無料計		
	大人	高校生 大学生	大人	高校生 大学生		幼・保 育園等	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体 引率者	中学生 以下	優待・招待 ・その他			
(31) 4	6,972	307	563	21	7,863	485	2,944	0	33	275	4,740	2,842	11,319	19,182	26
(1) 5	9,946	430	233	435	11,044	1,090	10,189	911	188	1,012	5,333	3,490	22,213	33,257	27
6	5,629	243	1,132	153	7,157	405	1,470	905	109	232	2,993	1,686	7,800	14,957	26
7	17,369	416	94	4	17,883	467	272	105	56	144	8,517	2,784	12,345	30,228	26
8	38,474	1,337	149	29	39,989	8	0	148	3	42	20,177	5,765	26,143	66,132	28
9	27,196	970	194	40	28,400	671	787	23	7	143	13,391	6,373	21,395	49,795	25
10	4,355	169	125	81	4,730	2,129	7,220	99	161	904	2,605	5,864	18,982	23,712	27
11	3,953	298	300	31	4,582	1,127	3,144	941	10	391	2,172	18,754	26,539	31,121	26
12	2,687	202	125	2	3,016	212	16	516	0	76	1,665	938	3,423	6,439	23
1	3,550	129	112	34	3,825	151	0	602	13	55	2,513	945	4,279	8,104	23
2	3,423	178	112	2	3,715	107	0	321	4	46	2,534	1,158	4,170	7,885	24
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	123,554	4,679	3,139	832	132,204	6,852	26,042	4,571	584	3,320	66,640	50,599	158,608	290,812	281

■無料団体観覧内訳

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	82	3,198	61	3,654	143	6,852
小 学 校	119	11,161	172	14,881	291	26,042
中 学 校	61	2,596	51	1,975	112	4,571
特別支援学校・他	4	153	9	229	13	382
福祉施設	29	174	4	28	33	202
団体引率者		1,472		1,848		3,320
計	295	18,754	297	22,615	592	41,369

■特別展入館者数（平成18年度～令和元年度）

区分 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生 大学生	優待・ 他 無料	中学生 以下無料	大人	高校生 大学生	中学生 以下無料				
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～ 9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7. 7～ 9. 2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～ 3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4. 1～ 6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～ 9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12. 7	38	地震展
21	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～ 5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7. 4～ 8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11. 3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～ 3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4. 1～ 5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10. 8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展
23	11,864	2,237	5,140	10,625	56	42	195	30,159	7. 2～ 8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700	15,048	25,108	14	102	16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
	14,179	527	7,745	17,057	1	31	719	40,259	3.10～ 3.31	19	新説・恐竜の成長
24	39,844	1,215	13,101	38,459	110	102	19,093	111,924	4. 1～ 6. 3	56	新説・恐竜の成長
	7,353	1,489	6,005	6,885	23	32	5,300	27,087	7.28～10.14	68	のぞいてみよう ハチの世界
	25,519	1,330	8,524	22,317	48	114	3,256	61,108	11.23～ 3.31	104	モンゴル恐竜化石展
25	24,439	1,197	9,401	21,561	217	69	13,705	70,589	4. 1～ 6. 2	55	モンゴル恐竜化石展
	5,075	1,366	5,616	5,216	26	46	3,315	20,660	7.20～10.14	75	いきもの いっぱい 大阪湾
	8,054	261	2,583	9,391	4	12	276	20,581	3.21～ 3.31	11	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
26	28,452	863	12,521	31,113	7	78	16,846	89,880	4. 1～ 5.25	50	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
	3,330	509	3,919	3,528	27	48	1,914	13,275	7.19～10.13	73	ネコと見つける都市の自然
	6,783	255	2,199	7,457	4	19	248	16,965	3.21～ 3.31	11	スペイン 奇跡の恐竜たち
27	33,701	1,306	12,034	29,970	94	134	16,477	93,716	4. 1～ 5.31	55	スペイン 奇跡の恐竜たち
	5,414	600	4,035	5,956	129	41	5,314	21,489	7.18～10.18	80	たまごとなね
28	47,734	3,128	11,076	27,444	114	302	18,291	108,089	4.16～ 6.19	57	生命大躍進
	8,065	1,016	5,063	8,125	80	54	2,991	25,394	7.16～10.16	81	氷河時代
29	4,127	450	3,373	1,630	9	62	7,119	16,770	4.22～ 6. 4	39	石は地球のワンダー
	4,534	630	4,854	4,615	55	31	1,943	16,662	7.15～10.15	81	瀬戸内海の自然を楽しむ
	62,904	42,989	23,677	11,859	504	255	—	142,188	7.25～ 9. 3	41	メガ恐竜展 ※
	10,317	378	3,297	10,397	28	10	988	25,415	3.10～ 3.31	19	恐竜の卵
30	20,660	482	7,833	20,011	31	87	3,858	52,962	4. 1～ 5. 6	33	恐竜の卵
	9,753	1,218	5,470	4,880	156	66	3,484	25,027	7.21～10.21	79	きのこ！キノコ！木の子！
R1	69,211	1,622	16,281	67,394	62	279	1,566	156,415	7.13～ 9.29	69	昆虫

※平成29年度 メガ恐竜展（会場：大阪南港ATCホール）… 3歳以上有料のため区分は次のとおり
「大人」高校生以上 「高大生」3歳～中学生 「中学生以下無料」3歳未満

V. 貸室の利用状況

■講堂

令和元年度 2 件

年 月 日	団 体 名	使 用 目 的	人 数
R 1.11.30	日本ハムキャリアコンサルティング(株)	日本ハムグループ合同業界研究会	250
R 2.1.25	(公財) 日本自然保護協会	シンポジウムと分科会	200

■特別展示室（ネイチャーホール）

令和元年度 3 件

年 月 日	団 体 名	使 用 目 的	人 数
R 1.6.23 ～ 6.30	朱鷺国際フォーラム	朱鷺文化展	5,000
R 1.11.29 ～ 12.1	一般社団法人日本書道技術師認定協会	日本書道展	1,000
R 2.1.25	(公財) 日本自然保護協会	シンポジウムと分科会	200

Ⅵ. 施 設

自然史博物館本館

■所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■敷地面積 6,743.68㎡

■建築面積 4,392.67㎡

■延床面積 7,066.01㎡

■構 造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下1階、地上3階

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設) 計 2,427.48㎡(天井の高さ)

ナウマンホール	550.35㎡	11.00m
第1展示室	360.55㎡	3.30m
第2展示室	486.64㎡	7.20m
第3展示室	403.10㎡	4.70m
第5展示室	360.55㎡	4.20m
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m

(研究用施設) 計 1,802.82㎡

館長研究室・暗室	各	18.27㎡	2.70m
動物・昆虫・植物・地史研究室	各	47.56㎡	2.40m

第四紀・外来研究室	各	36.54㎡	2.40m
生物実験室	各	49.20㎡	2.40m

化学分析室・サーバー室	各	18.27㎡	2.40m
電子顕微鏡室	各	37.43㎡	2.70m

動物標本制作室	各	37.71㎡	2.40m
昆虫・植物標本制作室	各	36.54㎡	2.40m

化石処理室	各	47.56㎡	2.40m
石工室	各	22.21㎡	2.70m

展示品製作室	各	28.05㎡	2.70m
旧第1収蔵庫	各	207.09㎡	3.00m

旧第2収蔵庫	各	310.08㎡	3.00m
旧第3収蔵庫	各	207.09㎡	3.00m

旧第4収蔵庫	各	310.08㎡	3.00m
書庫	各	100.30㎡	7.40m

編集記録室	各	36.54㎡	2.40m
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	

講堂(映写室・控室含む)	計	319.09㎡	2.60m
			(平均)

ミュージアムサービスセンター	各	93.30㎡	2.70m
集会室	各	95.12㎡	2.70m

旧実習室	各	96.76㎡	2.70m
(管理用施設)	計	907.49㎡	

館長室	各	36.54㎡	2.70m
1階部屋	各	18.27㎡	2.70m

事務室	各	83.34㎡	2.70m
応接室	各	29.54㎡	2.70m

休憩室	各	16.85㎡	2.55m
-----	---	--------	-------

警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
旧自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m

(共通部分) 計 1,323.95㎡

1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m

ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	

ファンルーム(南・北側) 各	16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m

玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ	7.00㎡	

倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	

2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	

ダクトスペース	102.70㎡	
階 段	179.30㎡	

その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■階数別面積

地階……	855.07㎡	3階……	550.95㎡
1階……	3,178.35㎡	屋階……	76.93㎡
2階……	2,404.71㎡		

■各室定員

講 堂……	266人	集会室……	48人
会議室……	22人	旧実習室……	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地 階……	3人		

■工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■総事業費 10億1,000万円

(建設工事費)

	7億9,500万円
・本体工事(株竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億0,300万円

(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円

事務費、移転費、公園樹木移設工事費	
ネットフェンス設置工事費等	

(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(株日展)	2,200万円

・第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社)	2,500万円
・第3展示室ディスプレイ(株丹青社)	2,100万円

・オリエンテーションホールディスプレイ	
---------------------	--

庶 務

(株電電広告)	600万円
・展示品購入費	3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、資料保管用物品等	4,400万円

■国庫補助金・起債

・国庫補助金	3,000万円 (47. 10. 13付交付決定)
・起 債	3 億8,762万円 (47. 8. 25付交付決定)

花と緑と自然の情報センター

■所 在 地 大阪市東住吉区長居公園 1 番23号

■敷地面積 1,203.81㎡

■建築面積 1,203.81㎡

■延床面積 5,000.00㎡

■構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下 1 階、地上 2 階塔屋付建物

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設) 計 1,403.76㎡(天井の高さ)

大阪の自然誌 638.82㎡ 4.20m

ネイチャーホール 764.95㎡ 7.00m

(研究用施設) 計 1,971.50㎡

準備室兼置場 (1) 47.99㎡ 4.00m

準備室兼置場 (2) 68.34㎡ 4.00m

冷蔵庫室 21.99㎡ 5.00m

資料前処理室 20.14㎡ 4.00m

一般収蔵庫 748.34㎡ 5.00m

特別収蔵庫 688.22㎡ 5.00m

液浸収蔵庫 323.48㎡ 5.00m

前室 (1) 36.80㎡ 4.00m

前室 (2) 16.20㎡ 4.00m

(普及教育用施設) 計 256.08㎡

自然の情報センター 111.11㎡ 5.00m

ミュージアムサービス 39.22㎡ 5.00m

実習室 105.75㎡ 3.00m

(管理用施設) 計 937.36㎡

総合監視センター 32.78㎡ 5.60m

空調機械室 116.93㎡ 6.50m

機械室 722.99㎡ 5.60m

E V 機械室 49.08㎡ 5.60m

技術スタッフ室 15.58㎡ 3.00m

(共通部分) 計 431.30㎡

地下 1 階廊下 28.74㎡ 3.00m

1 階廊下 48.30㎡ 3.00m

1 階渡り廊下 15.21㎡ 3.00m

2 階渡り廊下 15.21㎡ 3.00m

プロムナード 28.00㎡ 5.00m

2 階便所 57.02㎡ 2.50m

E V 室 47.52㎡ 2.90m

トラックヤード 88.13㎡

階 段 103.18㎡

総計 5,000.00㎡

■階数別面積

地階……2,754.07㎡

1 階……1,203.81㎡

2 階…… 993.04㎡

3 階…… 49.08㎡

■工 期 平成10年12月～平成13年 3 月

■総事業費 41億6,665万円

(建設工事費) 24億4,558万円

(設備工事費) 11億9,650万円

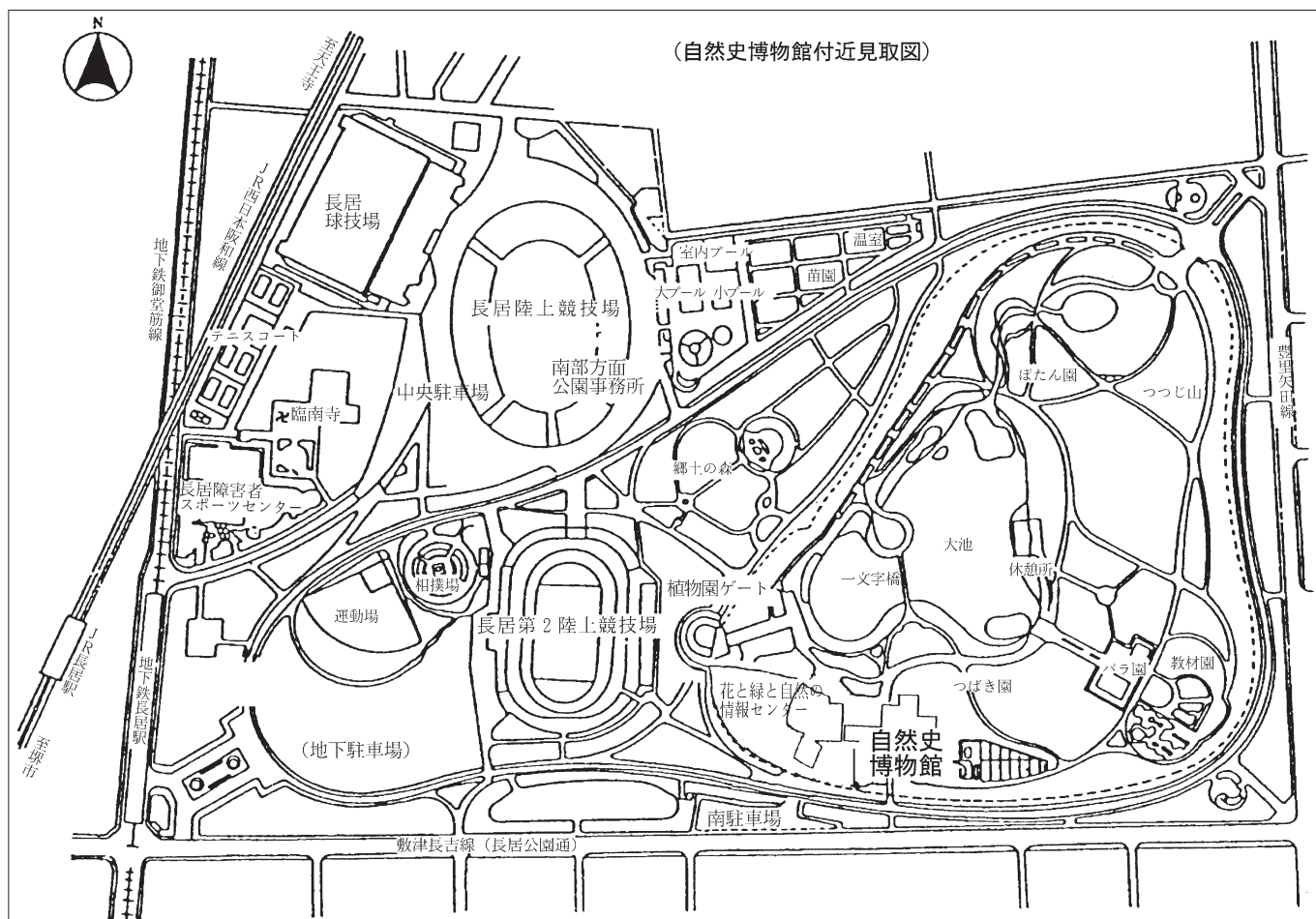
(設計監督委託料) 5,751万円

(外溝工事費他) 4億6,706万円

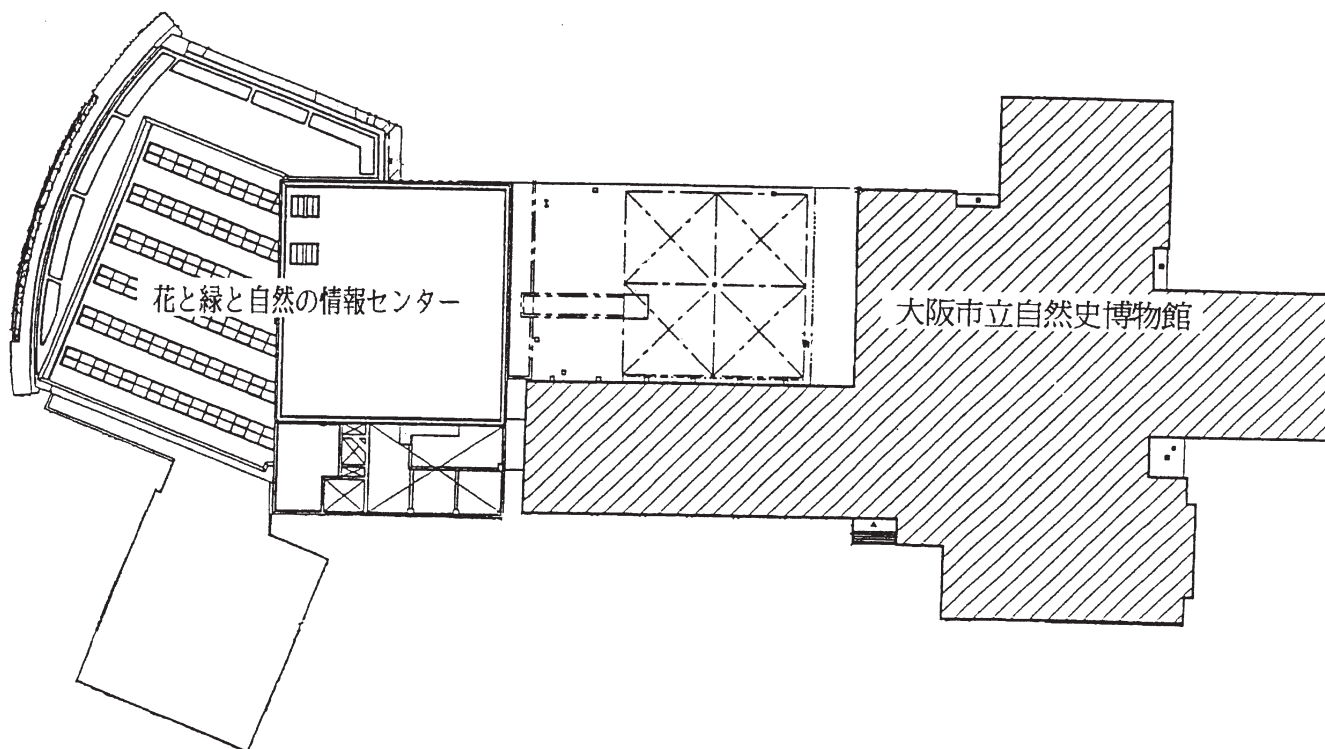
■起債等

・起 債 34億7,477万3千円

・雑収 (宝くじ協会) 3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

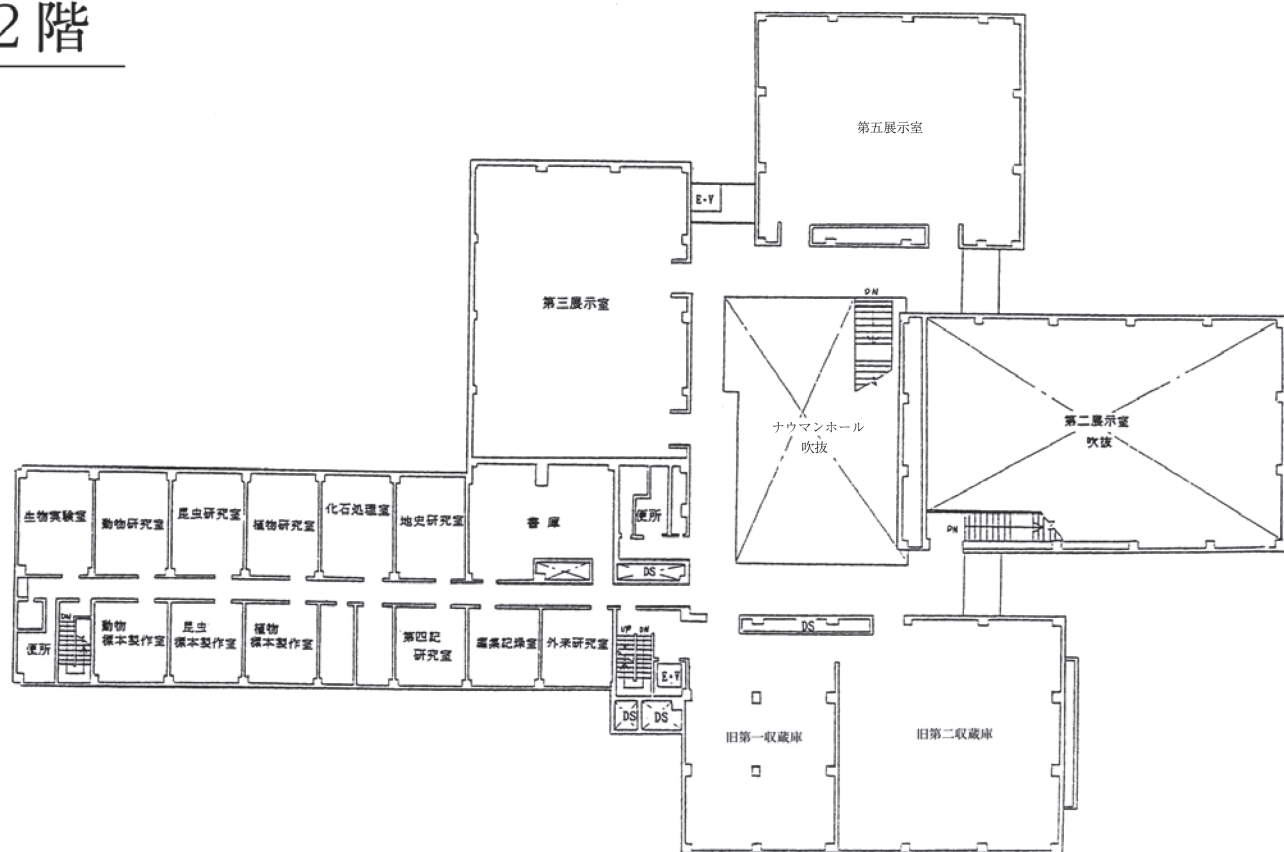


1 階

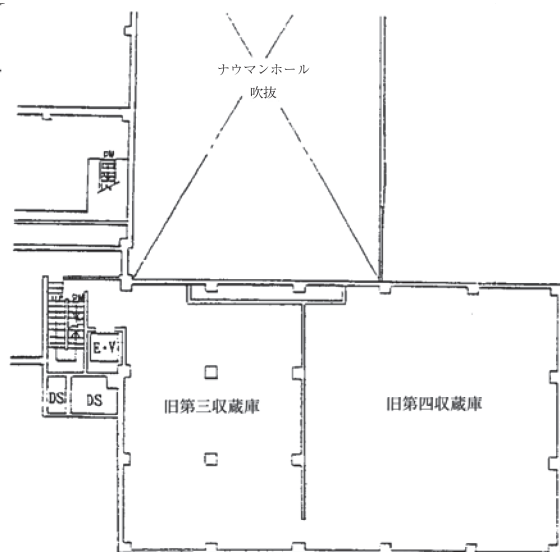
(自然史博物館本館)



2 階



3階

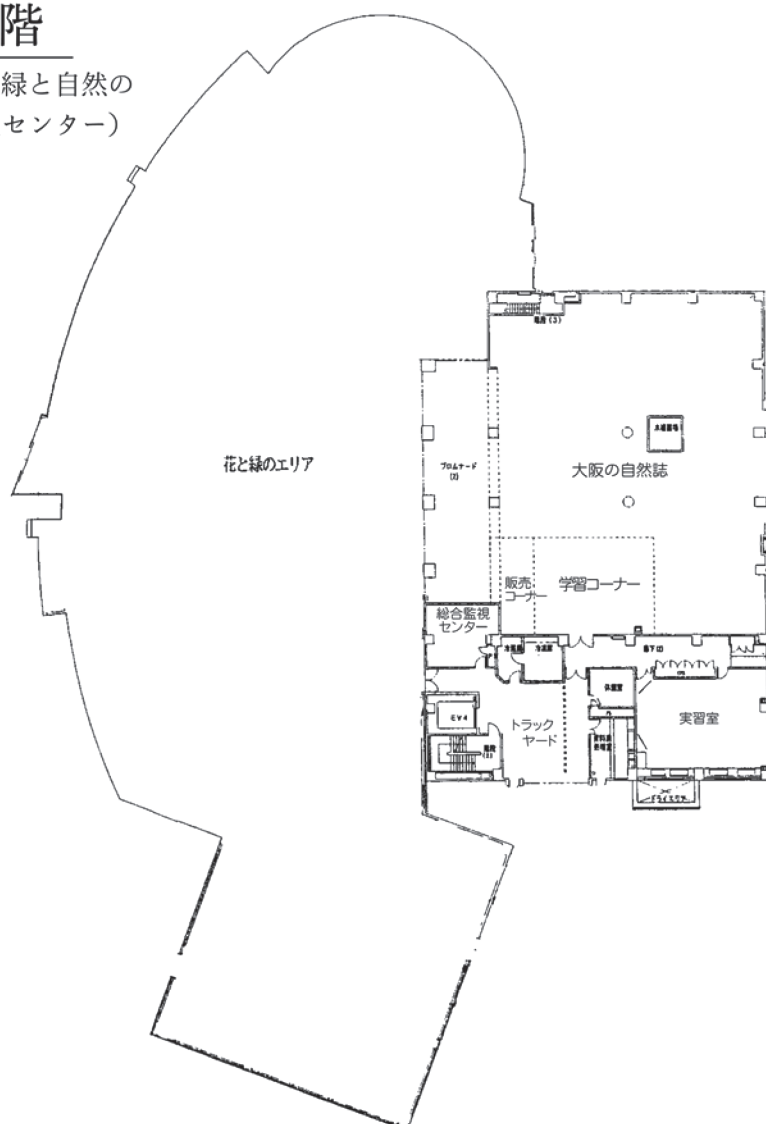


地下

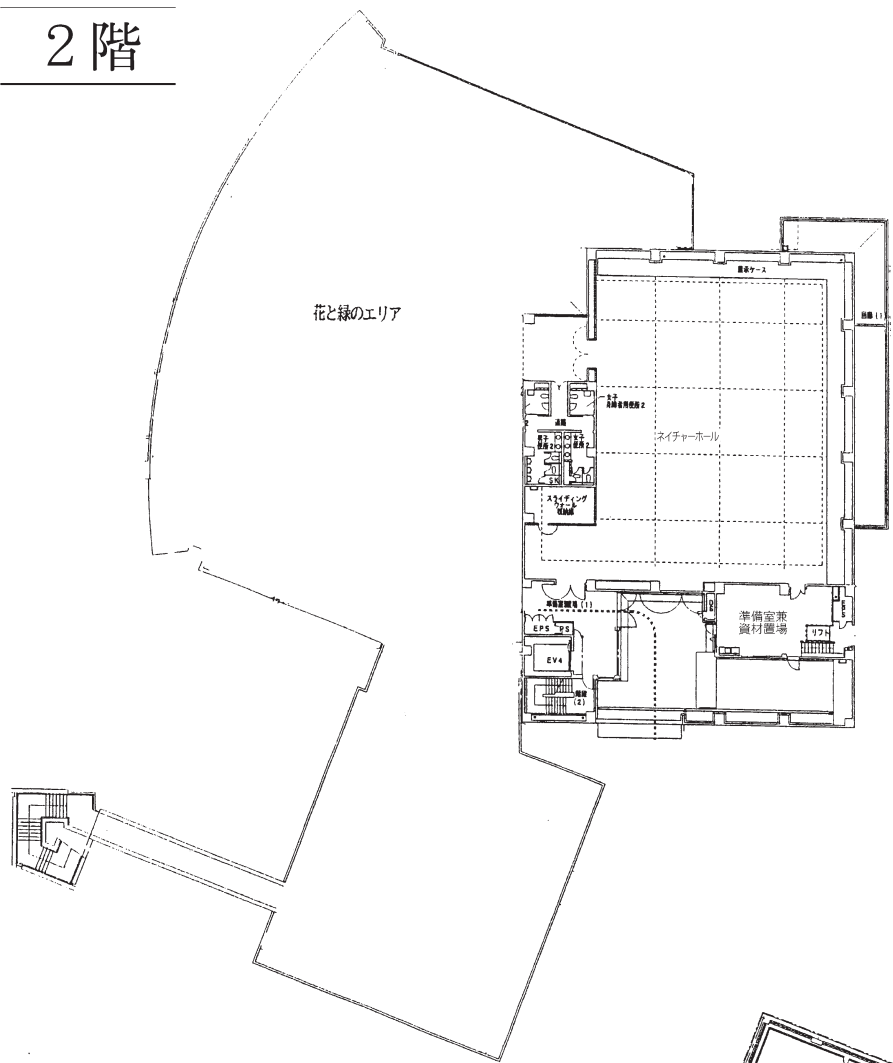


1階

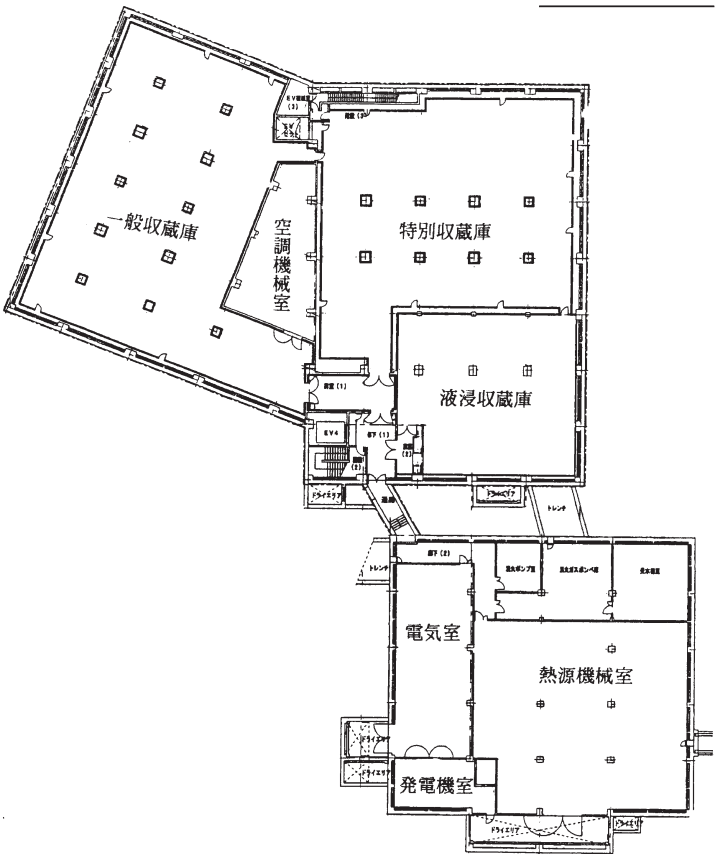
(花と緑と自然の
情報センター)



2階



地下



Ⅶ. 規 程

○大阪市立自然史博物館利用規程

制 定 平成31年4月1日
大阪市博物館機構規程第37-2号

(趣旨)

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）の利用に関しては、この規程の定めるところによる。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、博物館の館長（以下「館長」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、事前に又は速やかに理事長の承認を得て同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 館長は、前項の休館を行う場合、事前に又は速やかにその内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第3条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第3条第2項の規定により読み替えられた第2条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第4条 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第5条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき

(3) 管理上支障があるとき

(4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき

(5) その他、不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第6条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第4条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この規程に違反し、又はこの規程に基づく指示に従わないとき

(意見の聴取)

第7条 館長は、必要があると認めるときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう理事長に求めるものとする。

2 理事長は、前項の規定による求めがあったときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第8条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(研究の許可)

第9条 博物館等資料について研究をしようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 研究に関する手続きについては、別に定める。

(貸出しの許可)

第10条 博物館等資料の貸出しを受けようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 博物館等資料の貸出しに関する手続きについては、別に定める。

(利用料金)

第11条 博物館を観覧し、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、館長に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法

- 律第26号) 第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。
- 2 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。
- (1) 観覧料（特別の展示に係るものを除く。） 1人1回につき別表第2に掲げる金額
 - (2) 特別の展示に係る観覧料 特別の展示ごとに定める額
 - (3) 貸出料 その都度理事長が定める額
 - (4) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、自然史博物館利用料金要項で定める額）
- 3 理事長は、前項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。
- 4 館長は、公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、別に定める要項に基づき、利用料金を減額し、又は免除することができる。
- 5 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。
- (1) 災害その他施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
 - (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、館長がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
 - (3) その他館長が特別の事由があると認めるとき（特別設備）

- 第12条** 使用者は、館長の許可を受け、特別の設備をすることができる。
- 2 館長は、使用者に対して必要な設備をすることを命ずることができる。
- 3 使用者が前第1項、第2項の規定により、特別の設備をしたときは、使用後直ちにこれを撤去して、原状に復さなければならない。
- （損害の賠償及び事故の責任）

第13条 博物館を観覧する者又は施設の使用の許可を受けた者が建物、設備又は博物館等資料を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

- 2 使用者は、使用に関して生じた一切の事故につき、その責めを負うものとする。

- 附則**
（施行期日）
- 1 この規程の施行期日は、平成31年4月1日とする。
- 2 本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表第1（第4条、第11条関係）

区分	施設使用料
講堂	1室1日につき17,000円
特別展示室	1室1日につき32,000円

別表第2（第11条関係）

区分		観覧料	団体観覧料 (30人以上 50人未満)	団体観覧料 (50人以上 100人未満)	団体観覧料 (100人以上)
常設 展示 室	高等学校、 高等専門学校、 大学及びこれらに 準ずる教育 施設に在学 する者	200円	180円	160円	140円
	その他の者	300円	270円	240円	210円

○大阪市立自然史博物館利用料金要項

制 定 平成31年 4 月 1 日
大阪市博物館機構規程第38-2号

(趣旨)

第1条 この要項は、大阪市立自然史博物館利用規程（以下「規程」という。）第11条利用料金について、必要な事項を定めるものとする。

(利用料金の納付時期)

第2条 規程第11条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ館長が定める日までに支払わなければならない。

(附属設備の利用料金)

第3条 規程第11条第2項に定める附属設備の種別及び金額は、別表のとおりとする。

(特別設備)

第4条 規程第12条の規定による特別の設備に係る費用は、施設の使用許可を受けた者の負担とする。

(施行の細目)

第5条 この要項の施行について必要な事項は、理事長が定める。

附則

- 1 この要項は、平成31年 4 月 1 日から施行する。
- 2 本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表（第3条関係）

区分		使用料		
		午前	午後	全日
特別 展示 室	冷房設備、暖房設備			16,000円
講 堂	冷房設備、暖房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡声装置	1,800円	1,800円	3,600円
	マイク	500円	500円	1,000円
	ワイヤレスマイク	1,100円	1,100円	2,200円
	テープレコーダー	900円	900円	1,800円
	スライド映写機 (スクリーン付)	1,300円	1,300円	2,600円
	16ミリ映写機 (スクリーン付)	4,200円	4,200円	8,400円
	ビデオ装置	2,200円	2,200円	4,400円
	液晶プロジェクター (スクリーン付き)	1,900円	1,900円	3,800円

備考 この表中「午前」とは午前 9 時 30 分から正午までをいい、「午後」とは午後 1 時から午後 5 時までをいい、「全日」とは午前 9 時 30 分から午後 5 時までをいう。ただし、11月 1 日から 2 月末日までの期間については午後 5 時 までを 午後4時30分までとする

○大阪市立自然史博物館利用料金減免要項

制 定 平成31年4月1日
大阪市博物館機構規程第39-2号

(趣旨)

第1条 この要項は、大阪市立自然史博物館利用規程(以下「規程」という。)第11条第4項の利用料金の減免について、必要な事項を定めるものとする。

(大阪市立長居植物園の入場者の観覧料)

第2条 博物館の常設展示場に入場する者が大阪市立長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料について大阪市立長居植物園の入場料相当額を減額する。

(学校園等の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料)

第3条 保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校(以下「学校園等」という。)の保育士又は教職員が、学校園等行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときまた、その事前視察のときは、当該保育士又は教職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに博物館の館長(以下「館長」という。)にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 学校園等の名称、住所及び代表者氏名
- (3) 入場者の予定人員
- (4) 引率責任者の氏名
- (5) その他館長が必要と認める事項

(社会福祉施設の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料)

第4条 次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の入所者及び入所者を引率した職員が博物館に入場しようとするときは、当該入所者及び入所者1名につき1名の職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 生活保護法(昭和25年法律第144号)
- (2) 児童福祉法(昭和22年法律第164号)
- (3) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)
- (4) 知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)
- (6) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)
- (7) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年法律第123号)

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除

を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに館長にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 社会福祉施設の名称、所在地及び代表者氏名
- (3) 施設の設置根拠となる法律の名称
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他館長が必要と認める事項

3 次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及び所持者1名につき1名の介護者の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 第1項第3号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
- (2) 第1項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
- (3) 知的障害者福祉法施行令(昭和35年政令103号)の規定による判定書
- (4) 原子爆弾被害者に対する援護に関する法律(平成6年法律第117号)の規定による被爆者健康手帳
- (5) 戦傷病者特別援護法(昭和38年法律第168号)の規定による戦傷病者手帳

(大阪市内在住者の観覧料の特例及び特別の展示に係る観覧料)

第5条 大阪市内在住の65歳以上の市民で大阪市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証等を所持している者は、観覧料を免除する。

2 前項の規定にかかわらず、特別の展示にかかる観覧料については、その展示毎にあらかじめ館長の承認を得て定める。

(大阪市施策による観覧料及び特別の展示に係る観覧料の特例)

第6条 大阪市が発行する以下のものを所持している者は、観覧料を免除する。

- (1) 児童委員証
- (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証
- (3) 生涯学習推進員証
- (4) 大阪市立ミュージアム御招待証(ふるさと納税寄付者)

(近隣施設及び団体・事業者等との連携に係る観覧料及び特別の展示に係る観覧料)

第7条 近隣の施設及び団体・事業者等との連携による広報及び誘客に向け、館長が特に必要と認めるとき、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を減額または、免除する。

2 減額の料金または免除については、館長の承認を

得てその都度定める。

(視察等の観覧料)

第8条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除することがある。

- (1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
- (2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
- (3) その他特別な事由により、館長が必要であると認めるとき

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに館長にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
- (3) 視察の目的
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 視察する者の代表者の氏名
- (6) その他館長が必要と認める事項

(施設使用料等)

第9条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、利用規程別表第1及び別表第2に規定する施設使用料並びに利用料金要項別表に規定する附属設備の利用料金を減額又は免除することがある。

- (1) 館長が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき
- (2) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき
- (3) その他特別な事情により、館長が必要であると認めるとき

2 前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに館長に提出しなければならない。

- (1) 使用の日時
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 入館者の予定人員
- (6) その他館長が必要と認める事項

1 この要項は、平成31年4月1日から施行する。

2 本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

附則

○大阪市立自然史博物館の標本・資料の研究及び貸出しに関する要項

制 定 平成31年4月1日
大阪市博物館機構規程第40-2号

(趣旨)

第1条 この要項は、大阪市立自然史博物館利用規程第9条研究の許可及び第10条博物館等資料の貸出しの許可について、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 「保存的研究利用」は学術目的により資料を形態観察（撮影を含む）し、データなどの記録を利用するための利用及び精査のための貸出をいう。
- (2) 「一部破壊を伴う研究利用」は学術目的により、外部からでは観察できない形態を観察するため、資料の特徴を損なわない配慮のもとで、解剖（軽微かつ重要な形質に関する情報が標本に記録されるものを除く）、成分などの分析、DNA採取を行うための利用及び館内ではできない精査のための貸出をいう。
- (3) 「展示などの利用」は教育普及目的で展示などに供するための貸出をいう。
- (4) 「撮影などの利用」は教育普及、または報道目的で、静止画撮影、動画撮影又は模写、模造のための利用及び館内の環境ではできない特別な撮影などの場合の貸出等を行うことをいう。

(手続き)

第3条 標本・資料を用いて研究及び貸出しを希望する者は、担当学芸員に、事前に次の事項を連絡して館長名による許可を受けなければならない。

なお、前条第1号にかかる「保存的研究利用」については学芸員の許可のもと、手続きを経て標本利用及び標本貸出を行う。様式は各研究室の定めるところによる。大阪市立自然史博物館「外部研究者の受入れに関する要綱」に定めるところの研究生および外来研究員が学芸員の指導のもとで行う研究については外部研究者としての許諾を持って許可と見なす。

- 一 博物館等資料名
- 二 研究の目的
- 三 実施する者の氏名
- 四 希望日時
- 五 その他、必要事項

2 標本・資料の「一部破壊を伴う研究利用」を希望するものは、担当学芸員との十分な相談の上で、館長に、次の事項を明記した上で利用願ひまたは貸出

し許可願を提出して許可を受けなければならない。学生及び大学院生は指導教官による申請を必要とする。

- 一 博物館等資料名
- 二 目的及び研究計画
- 三 借用の期間（最大6ヶ月）
- 四 借用する機関及び代表者の氏名
- 五 担当者の氏名
- 六 公表の予定及び博物館へのデータ還元の計画
- 七 その他、必要事項

3 標本・資料の「展示などの利用」、「撮影などの利用」を目的とした貸出を希望するものは担当学芸員との十分な相談の上で、館長に、次の事項を明記した貸出し許可願を提出して許可を受けなければならない。

- 一 博物館等資料名
- 二 目的
- 三 借用の期間（集荷日から返却日）
- 四 借用する機関及び代表者の氏名
- 五 担当者の氏名
- 六 その他、必要事項

(許可の制限)

第4条 次の各号に掲げる場合は、研究利用及び貸出しは許可しない。

- (1) 博物館等資料の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 学術的利用として、目的または計画が適切と判断できない場合。一部破壊を伴う研究利用の場合はそれを回避する手段が十分検討されていない場合
- (3) 既に行われている他の研究や展示の予定などに支障を生じる場合
- (4) 自然保護や遺伝資源保護などの観点から支障があると判断された場合
- (5) 一般観覧者の観覧又は他の標本利用者の活動、博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (6) 博物館が所有権又は著作権を有さない博物館等資料については、事前にそれぞれ当該所有権者若しくは当該著作権者の同意を得ていない場合
- (7) その他許可することが適当でないと認められる場合

(許可書)

第5条 「一部破壊を伴う研究利用」および「展示などの利用」、「撮影など」を許可した場合は、館長は、次の事項を明記した許可書を交付する。ただし、館内で完結する撮影などについては特に請求のない場

合許可証は省略する。

- 一 博物館等資料名
- 二 目的
- 三 実施する者の氏名
- 四 実施予定日
- 五 その他、必要事項

(費用負担及び損害賠償)

第6条 研究利用および貸出しに際し、特に費用を要する場合は、その費用は利用を願い出た者が負担するものとする。

- 2 博物館資料等について研究利用および貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料等を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

附則

- 1 この要項は、平成31年4月1日から施行する。

Annual Report

of the Osaka Museum of Natural History
for the fiscal year of 2019

Osaka Museum of Natural History Issued: October 10, 2020.
1-23 Nagai Park, Higashi-Sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

